

中野市・山ノ内町 地域公共交通活性化協議会

各種調査結果の報告

2022 年(令和 4 年)1 月

目 次

1. 地域公共交通の現状	1
1-1. 公共交通の運行状況	1
(1) 地域を運行する公共交通など	1
(2) 公共交通のカバー状況	4
1-2. 公共交通の利用状況	7
(1) 鉄道	7
(2) バス・デマンドタクシー	7
1-3. 財政負担	18
2. 住民及び公共交通利用者へのアンケート調査	19
2-1. 公共交通に関する住民アンケート調査	19
(1) 住民アンケート調査概要	19
(2) 住民アンケート調査結果	32
2-2. バス利用者アンケート調査	52
(1) バス利用者アンケート調査概要	52
(2) バス利用者アンケート調査結果	54
3. 第2次中野市地域公共交通総合連携計画の検証	60
(1) 施策・事業の実施状況	60
(2) 目標達成状況の評価	63

1. 地域公共交通の現状

1-1. 公共交通の運行状況

(1) 地域を運行する公共交通など

地域を運行している公共交通は、鉄道は中野市と長野市及び飯山市方面を結ぶ JR 東日本飯山線（2 駅）、長野市方面と中野市・山ノ内町方面を結ぶ長野電鉄長野線（8 駅）があります。

バスは、主に信州中野駅と湯田中駅を起点に放射状に運行し、廃止路線代替バスが 4 路線、地域間幹線系統が 4 路線、長電バス直営路線が 2 路線、コミュニティバス（ふれあいバス、楽ちんバス）、デマンドタクシー（お出かけタクシー）が運行しており、信州中野駅と北陸新幹線飯山駅を 2 つのバス路線が結んでいます。

なお、山ノ内町で運行する楽ちんバスは、須賀川線の廃止、菅線の角間方面の一部廃止による交通空白地域をカバーする目的で運行されています。

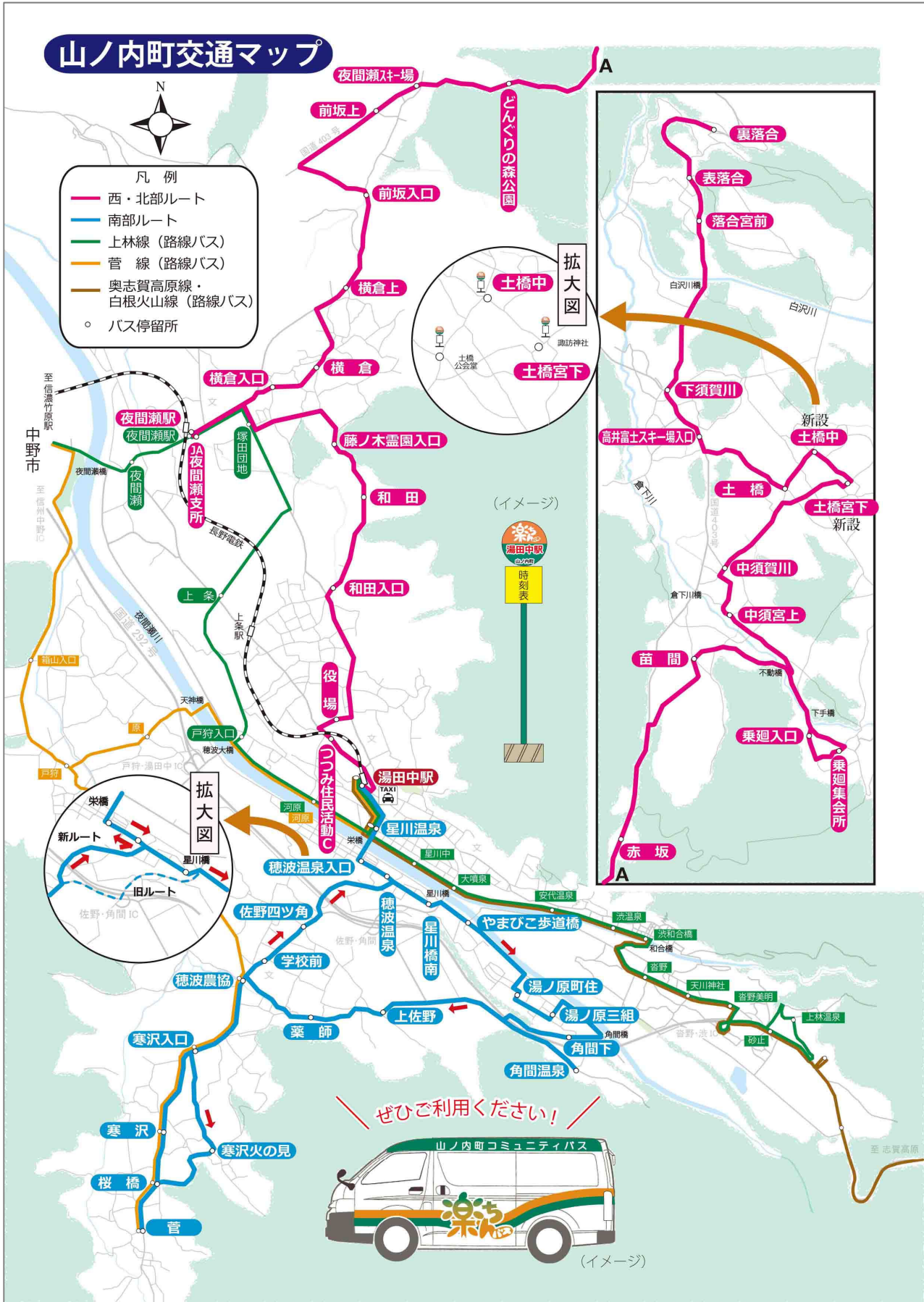
表 1-1 地域内の公共交通

分類	運行主体 運行概要
鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ■ JR 飯山線（上今井駅、替佐駅） ■ 長野電鉄長野線（桜沢駅、延徳駅、信州中野駅、中野松川駅、信濃竹原駅、夜間瀬、上条、湯田中）
バス デマンドタクシー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃止路線代替バス：4 路線 <ul style="list-style-type: none"> ・ 立ヶ花線、菅線、合庁線 ■ 地域間幹線系統：4 路線 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上林線、永田線、中野木島線 ■ 長電バス直営路線：2 路線 <ul style="list-style-type: none"> ・ 奥志賀高原線、白根火山線 ■ コミュニティバス：5 路線 <ul style="list-style-type: none"> ・ ふれあいバス（倭・科野地区、間山線、豊田地域） ・ 楽ちんバス（西・北部ルート、南部ルート） ※山ノ内町民のみ利用可 ■ デマンドタクシー：1 エリア <ul style="list-style-type: none"> ・ お出かけタクシー ※中野市民のみ利用可
タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 一般タクシー：3 社



出典：中野市「中野市公共交通マップ/時刻表 2020年度版（2020年10月改訂版）」

図 1-1 中野市の公共交通ネットワーク



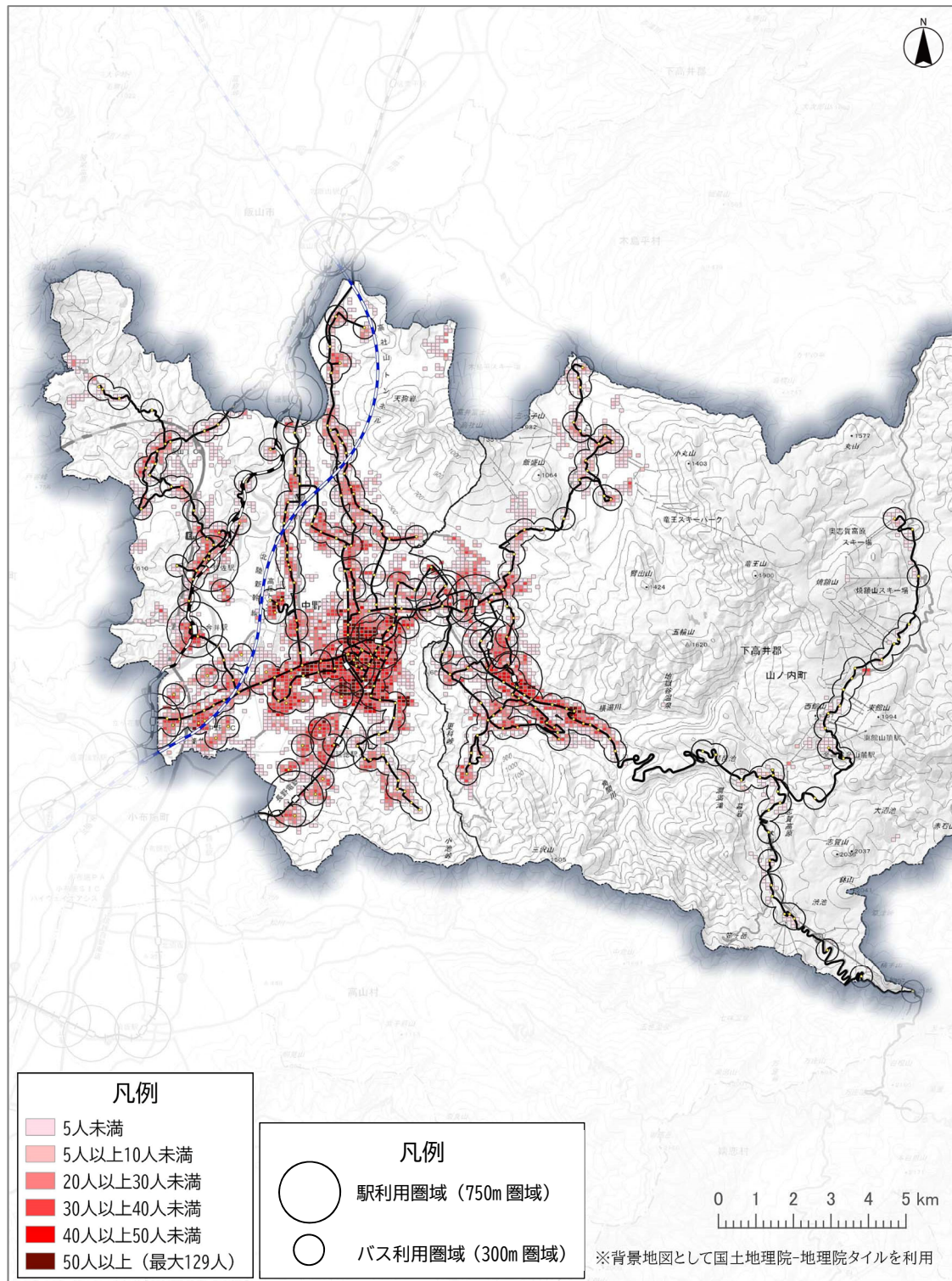
出典：山ノ内町「山ノ内町交通マップ (2021年4月)」

図 1-2 山ノ内町の公共交通ネットワーク

(2) 公共交通のカバー状況

公共交通カバー状況は、全人口のうち鉄道駅、バス停から一定の範囲内にどれだけの人が生きていますかを示したものです。ここでは第2次中野市地域公共交通総合連携計画前計画に準じて、駅利用圏域は750m、バス停利用圏域は300mを利用圏域¹⁾としました。

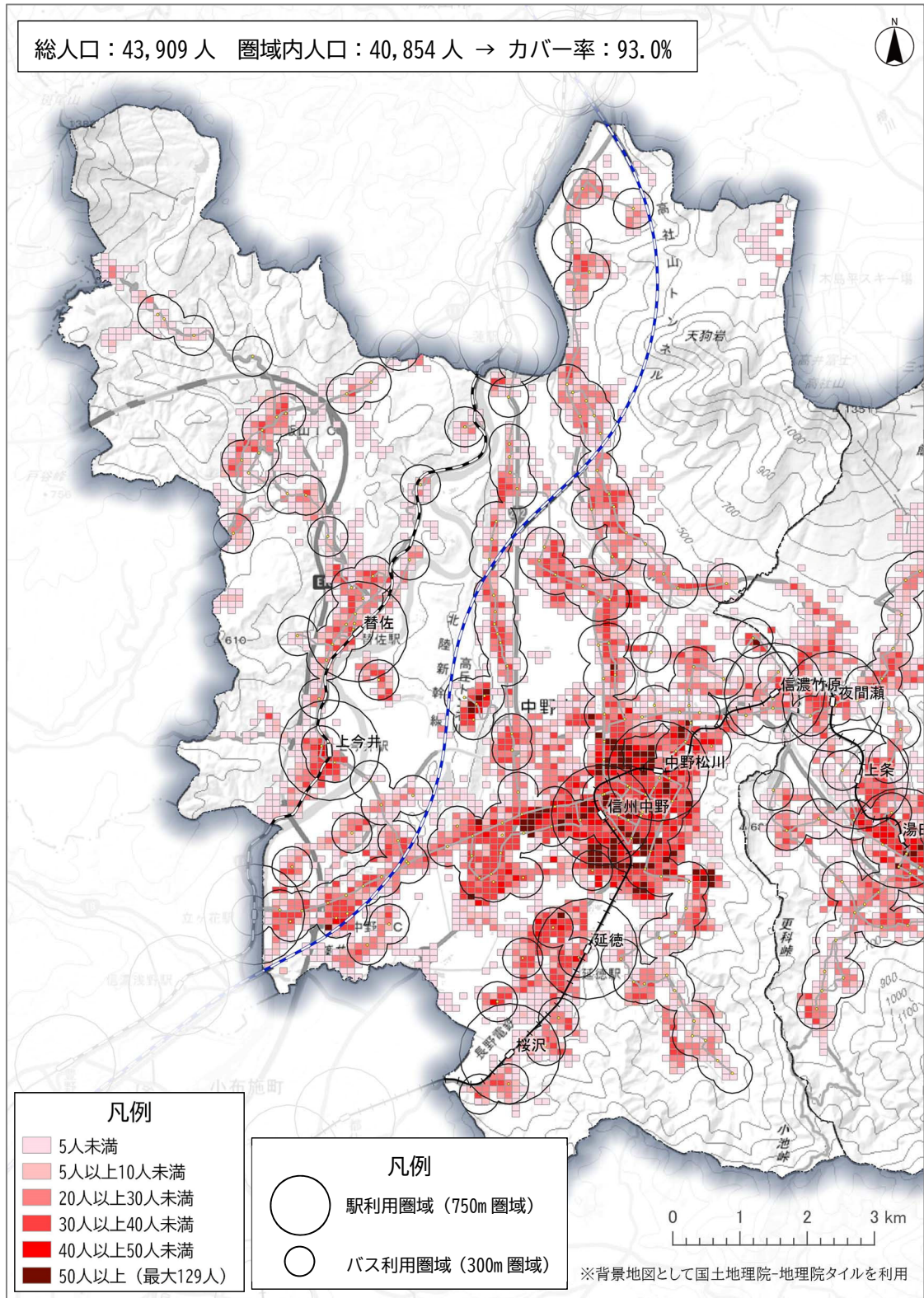
1) 駅利用圏域はパーソントリップ調査における徒歩の所要時間をもとに、歩行速度を4km/hと想定し算出したもの。バス停利用圏域は高齢者の歩行距離等を考慮し設定したものです。



資料：東京大学空間情報科学研究センター 西沢明「平成27年簡易100mメッシュ人口データ」

図 1-3 公共交通カバー状況

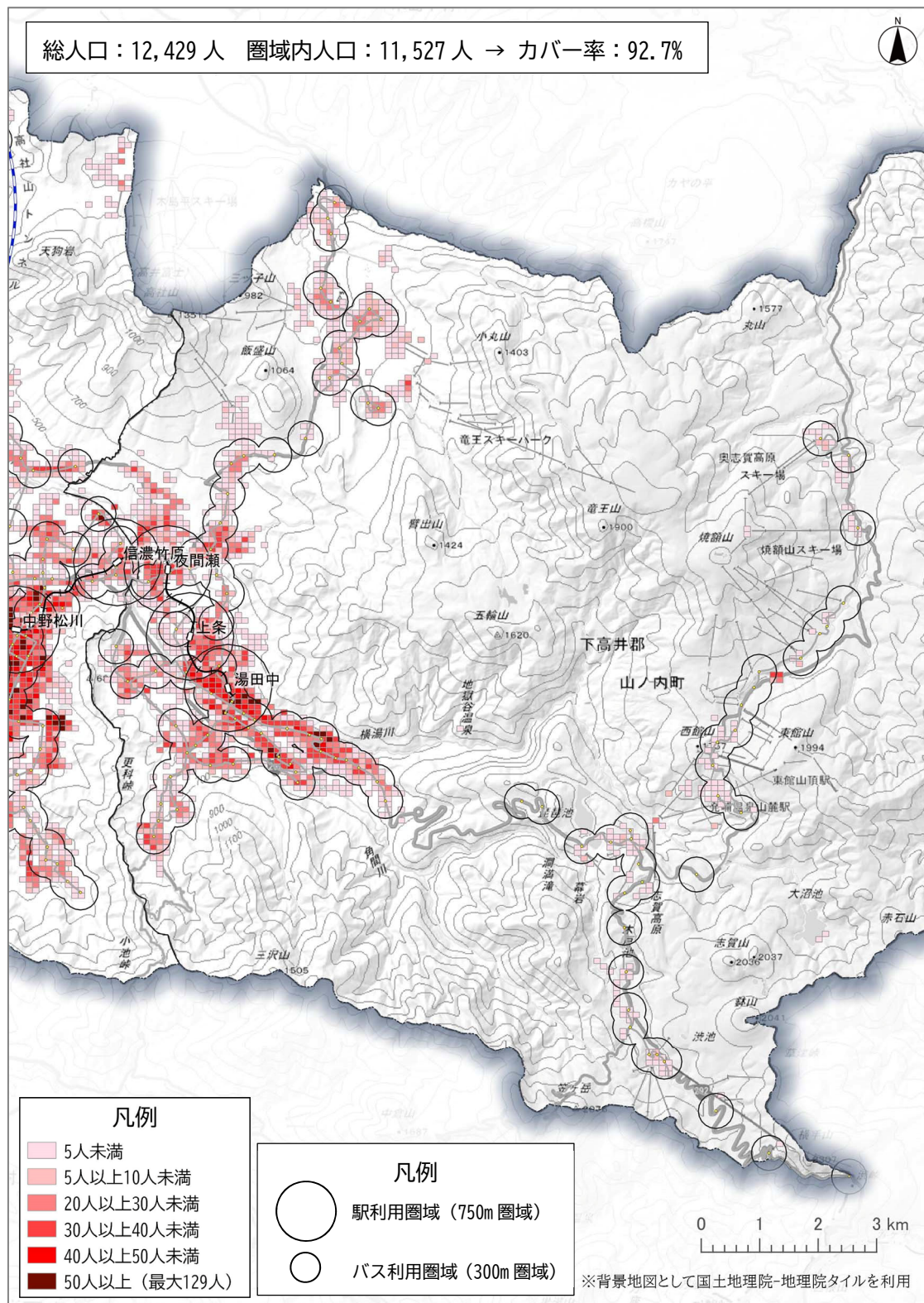
中野市の公共交通人口カバー率は 93.0% となっています。



資料：東京大学空間情報科学研究センター 西沢明「平成 27 年簡易 100m メッシュ人口データ」
 ※平成 27 年国勢調査の 500m メッシュ集計の人口を 100m メッシュに按分したものであり、当該 100m メッシュの実際の人口を示しているものではない。

図 1-4 公共交通カバー状況 (中野市)

山ノ内町の公共交通人口カバー率は 92.7%となっています。



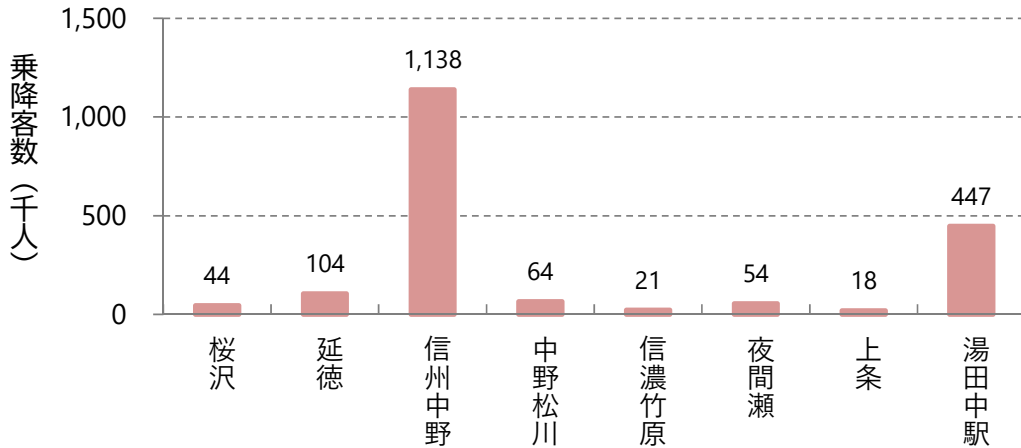
資料：東京大学空間情報科学研究センター 西沢明「平成 27 年簡易 100m メッシュ人口データ」
 ※平成 27 年国勢調査の 500m メッシュ集計の人口を 100m メッシュに按分したものであり、当該 100m メッシュの実際の人口を示しているものではない。

図 1-5 公共交通カバー状況 (山ノ内町)

1-2. 公共交通の利用状況

(1) 鉄道

鉄道の利用状況として長野電鉄の地域内での乗降客数をみると、地域内で最も乗降客数が多い駅は信州中野駅で、年間1,136千人（1日あたり3,112人）と地域内の乗降客数のほとんどを占めており、次いで、湯田中駅が年間447千人（1日あたり1,225人）となっています。信州中野駅と湯田中駅が、それぞれ中野市と山ノ内町の中心的な駅となっています。



資料：長野県「長野県統計書（平成30年（2018年）」

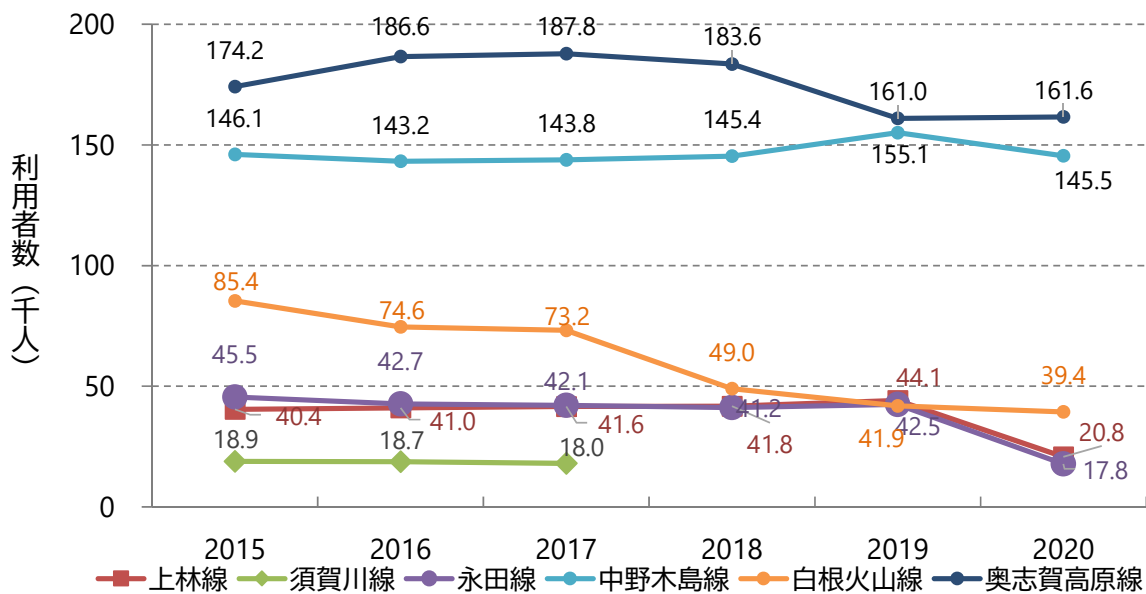
図 1-6 長野電鉄 市内 乗降客数（2018年）

(2) バス・デマンドタクシー

① 路線バスの年間利用者数

バスの年間利用者数の推移をみると、地域間幹線系統では横ばいまたは微減で推移していましたが、2020年度は新型コロナウイルスの影響により上林線などで利用者数が大きく減少しました。

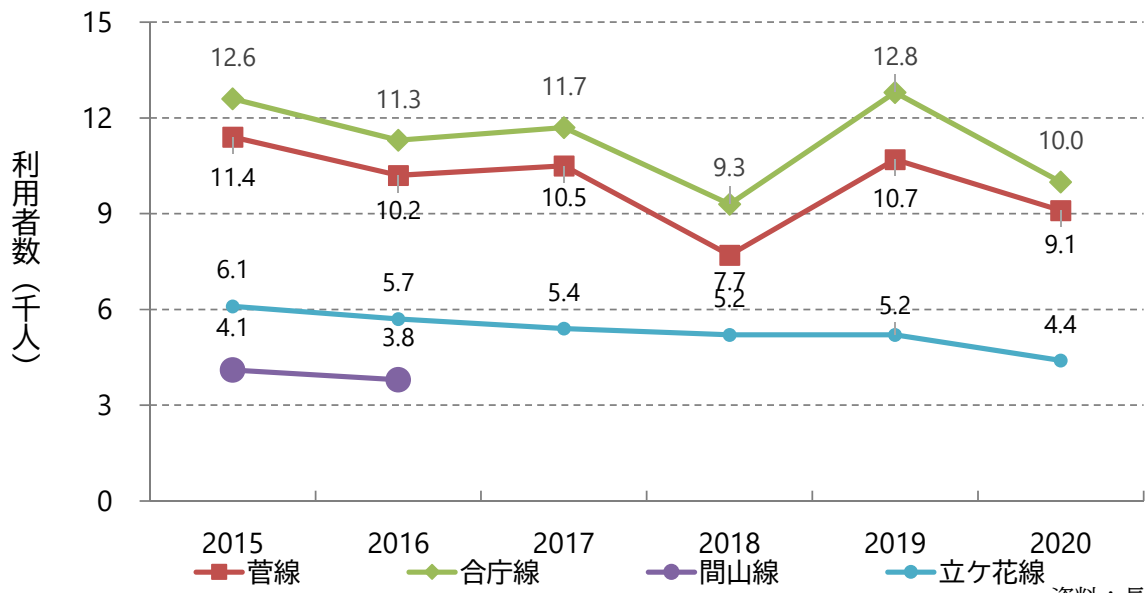
廃止路線代替バス・ふれあいバス・楽ちんバスも同様の傾向で、横ばいまたは微減で推移しています。



資料：長電バス（株）

1)年度は前年10月から当年9月までの期間 2)須賀川線は2017年9月30日に廃止

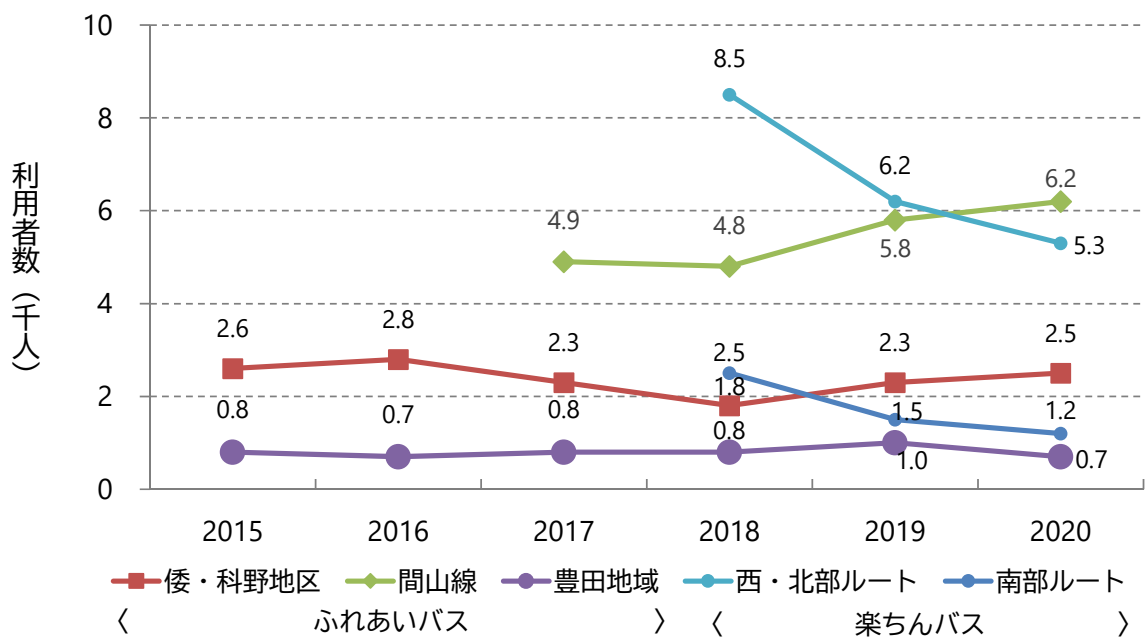
図 1-7 地域間幹線系統など 年間利用者数（バス事業年度）



資料：長電バス

1)年度は前年10月から当年9月までの期間 2)間山線は2016年10月1日よりふれあいバスとして運行

図 1-8 廃止路線代替 年間利用者数



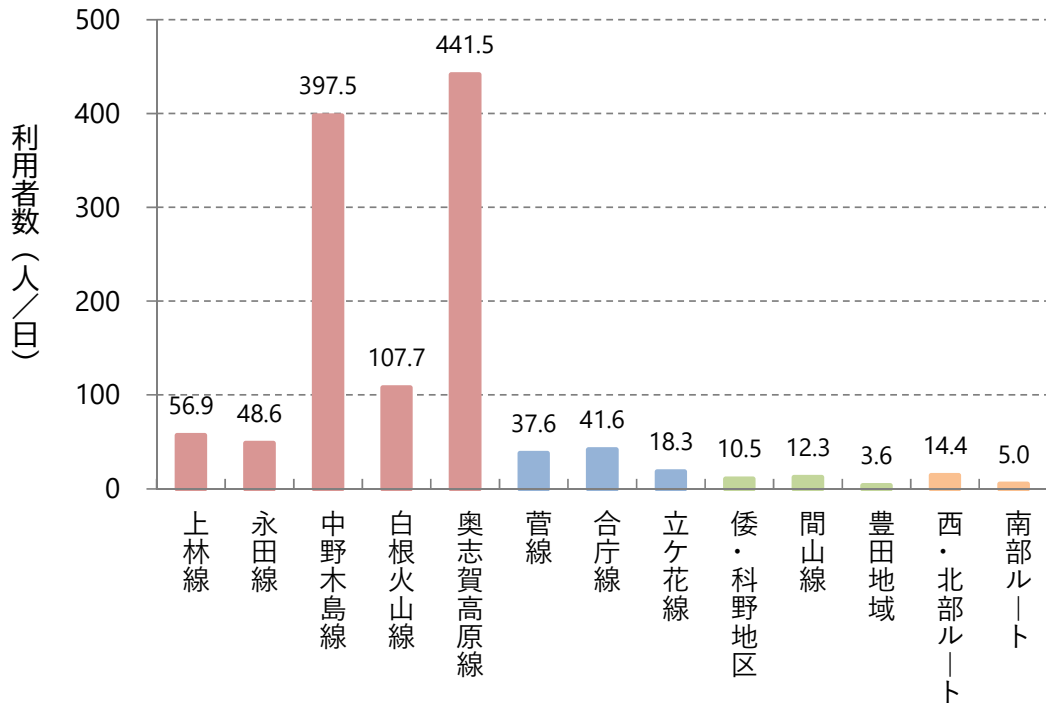
資料：中野市・山ノ内町

1)年度は前年10月から当年9月までの期間 2)間山線は2016年10月1日よりふれあいバスとして運行
3)楽ちんバスは2017年10月1日から運行(うち、2017年10月~2018年9月までは無償運行期間)

図 1-9 ふれあいバス・楽ちんバス 年間利用者数

② 路線バスの日利用者数

バスの日利用者数をみると、中野木島線と奥志賀高原線は400人前後の利用があるものの、その他の地域間幹線系統及び廃止路線代替バスでは50人前後の利用、ふれあいバスと楽ちんバスでは10人前後の利用となっています。



資料：長電バス（株）、中野市・山ノ内町

図 1-10 バスの日利用者数（2020年度）

③ お出かけタクシー（デマンドタクシー）

お出かけタクシーの年間利用者数は1千人弱で推移してきましたが、2020年度は新型コロナウイルスによる影響で利用者数が半減しました。

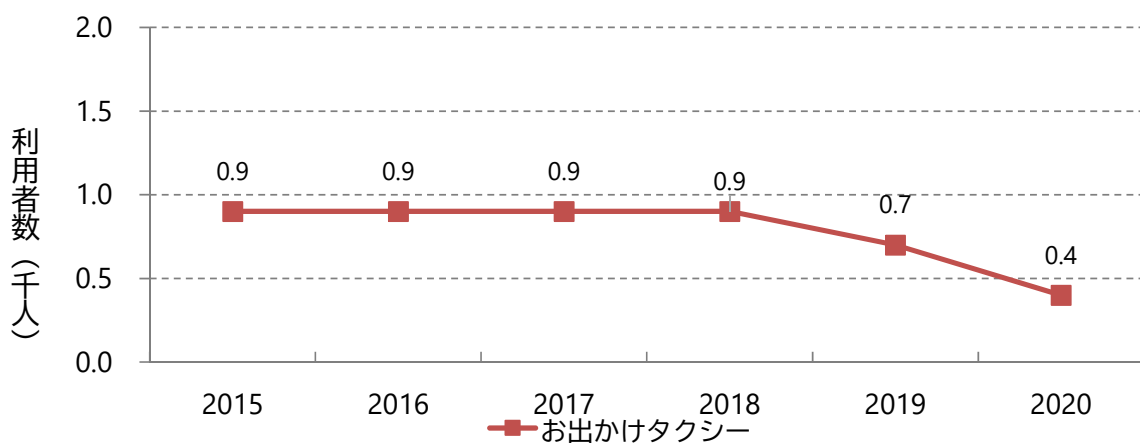


図 1-11 お出かけタクシーの年間利用者数の推移

④ 便別利用者数

2021年10月19日(火)、21日(木)、26日(火)に実施した(1路線につき1日調査)バス停別乗降客数調査より、路線ごとに便別利用者数を整理しました。

1) 上林線

上林線の便別利用者数は、午前中では5~10人の利用がありますが、午後は5人未満の便が多くなっています。

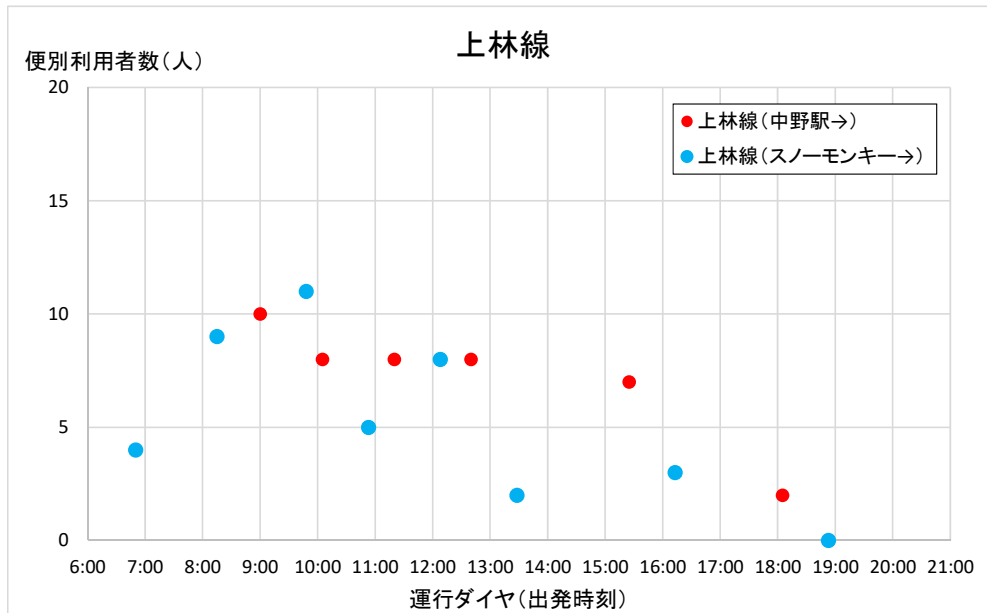


図 1-1 2 上林線 便別利用者数

2) 永田線

永田線の便別利用者数は、全体として5人未満の便が殆どで、最も利用が多いのは16時台の便となっています。

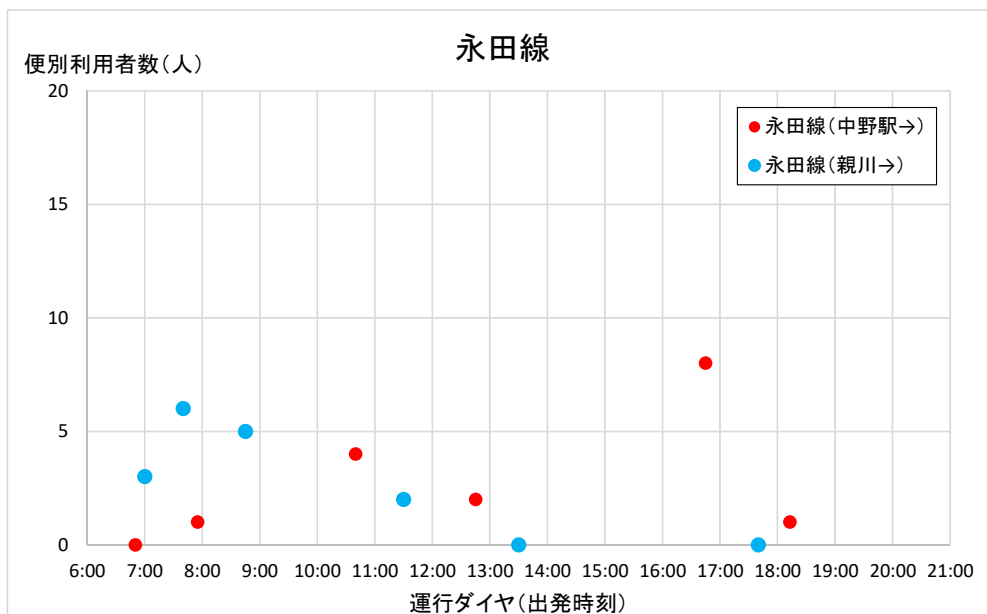


図 1-1 3 永田線 便別利用者数

3) 中野木島線

中野木島線の便別利用者数は、朝の通勤通学時間帯の利用が最も多く 20 人程度の利用があります。また、夕方の帰宅時間帯の利用も比較的多くなっています。一方で、それ以外の日中の便では 5 人未満の便が多く利用が低調です。

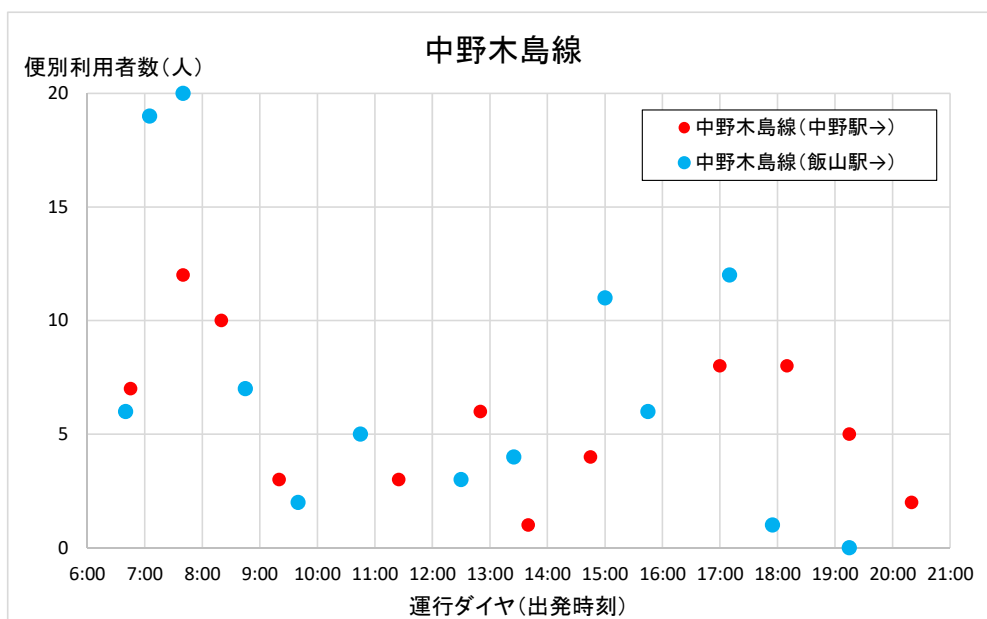


図 1-14 中野木島線 便別利用者数

4) 奥志賀高原線・白根火山線

奥志賀高原線・白根火山線の便別利用者数は、朝と夕方の利用が少なく、日中の利用が多くなっています。

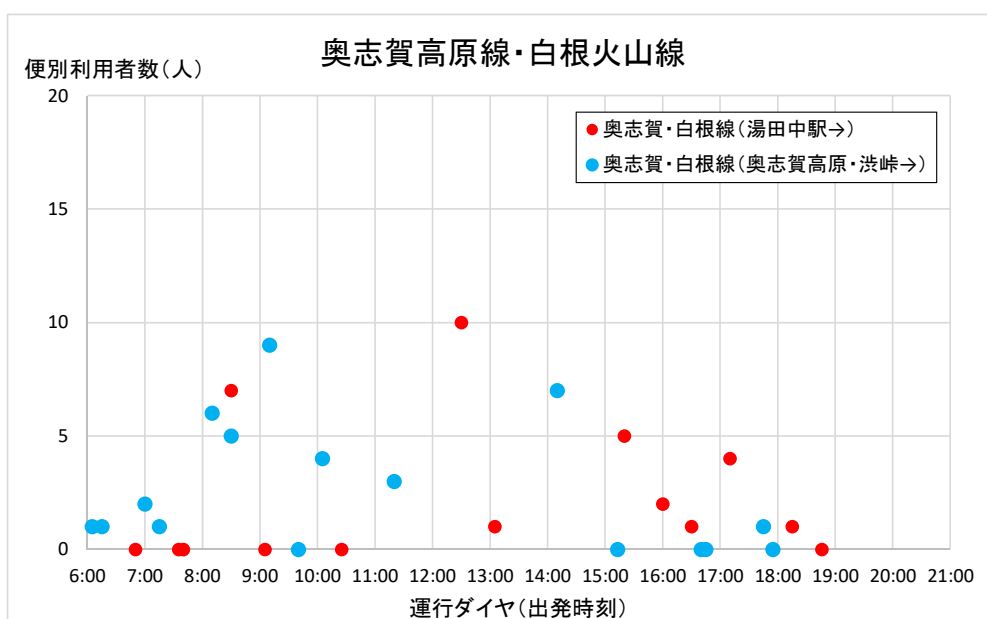


図 1-15 奥志賀高原線・白根火山線 便別利用者数

5) 菅線

菅線の便別利用者数は、10時・11時台の便を除き利用者が5人未満となっており、1日をとおして利用が少ない状況です。

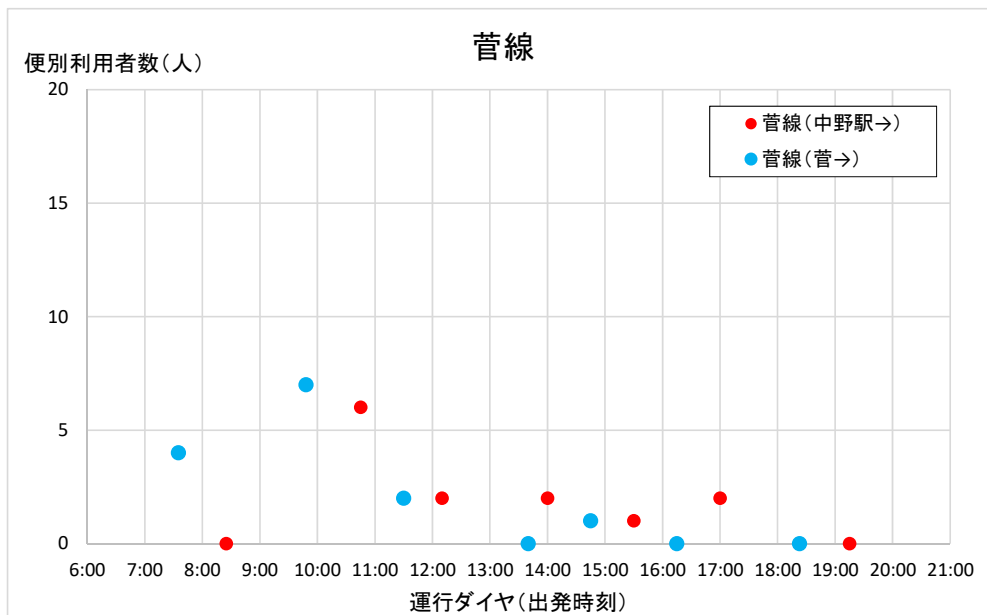


図 1-16 菅線 便別利用者数

6) 合庁線

合庁線の便別利用者数は、16時・17時台の便を除き利用者が5人未満となっており、1日をとおして利用が少ない状況です。

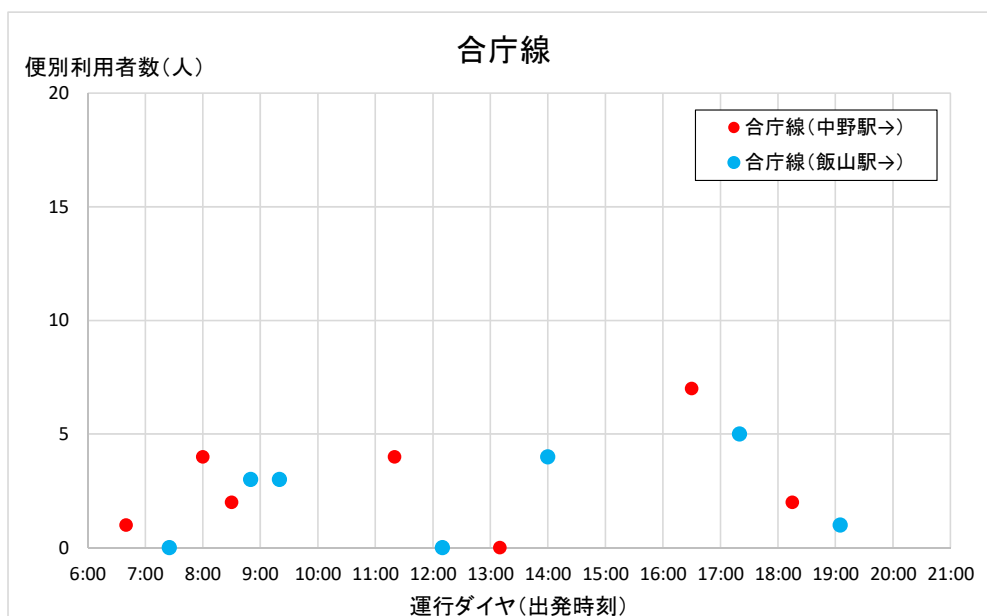


図 1-17 合庁線 便別利用者数

7) 立ヶ花線

立ヶ花線の便別利用者数は、朝は7時台時台の便が5人程度の利用があるものの、夕方では2人前後の利用となっています。

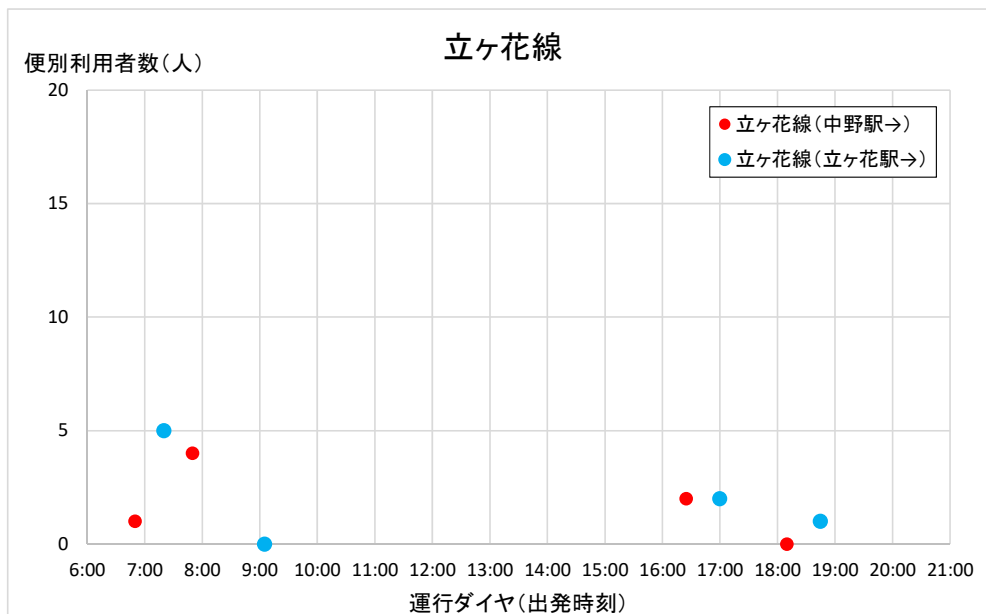


図 1-18 立ヶ花線 便別利用者数

8) ふれあいバス（間山線、倭・科野地区）

ふれあいバス（間山線、倭・科野地区）の便別利用者数は、午前中の利用は比較的多くなっていますが、午後では5人未満となっています。

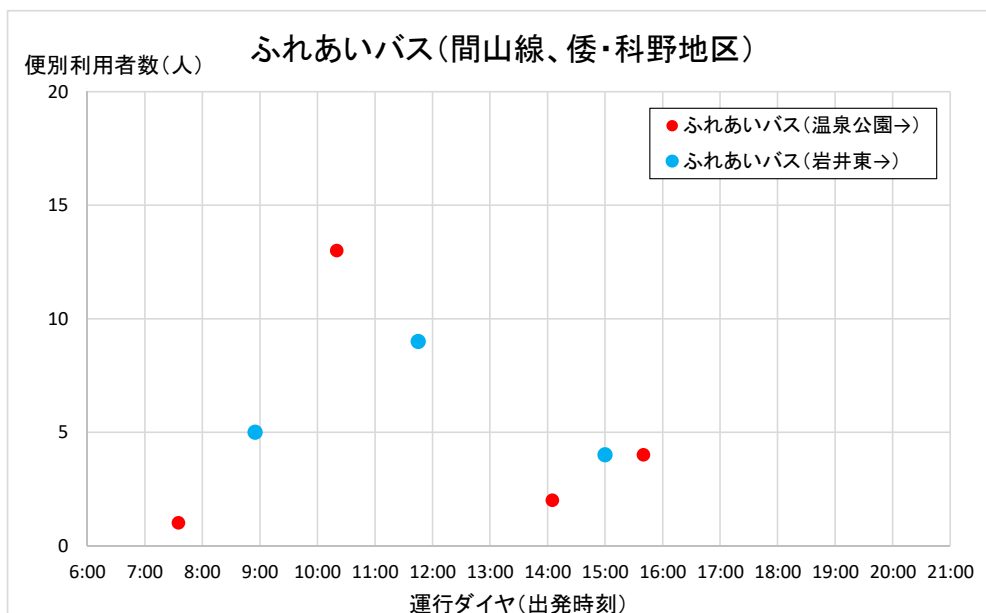


図 1-19 ふれあいバス（間山線、倭・科野地区）

9) 楽ちんバス (西・北部ルート、南部ルート)

楽ちんバスの便別利用者数は、8時頃の便を除き1日をとおして5人未満の利用となっています。

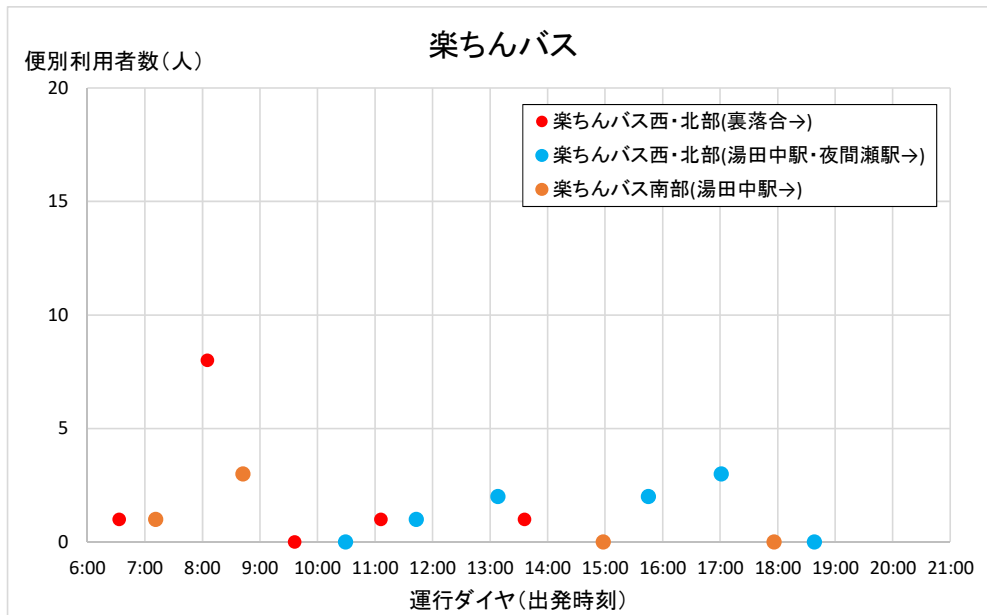
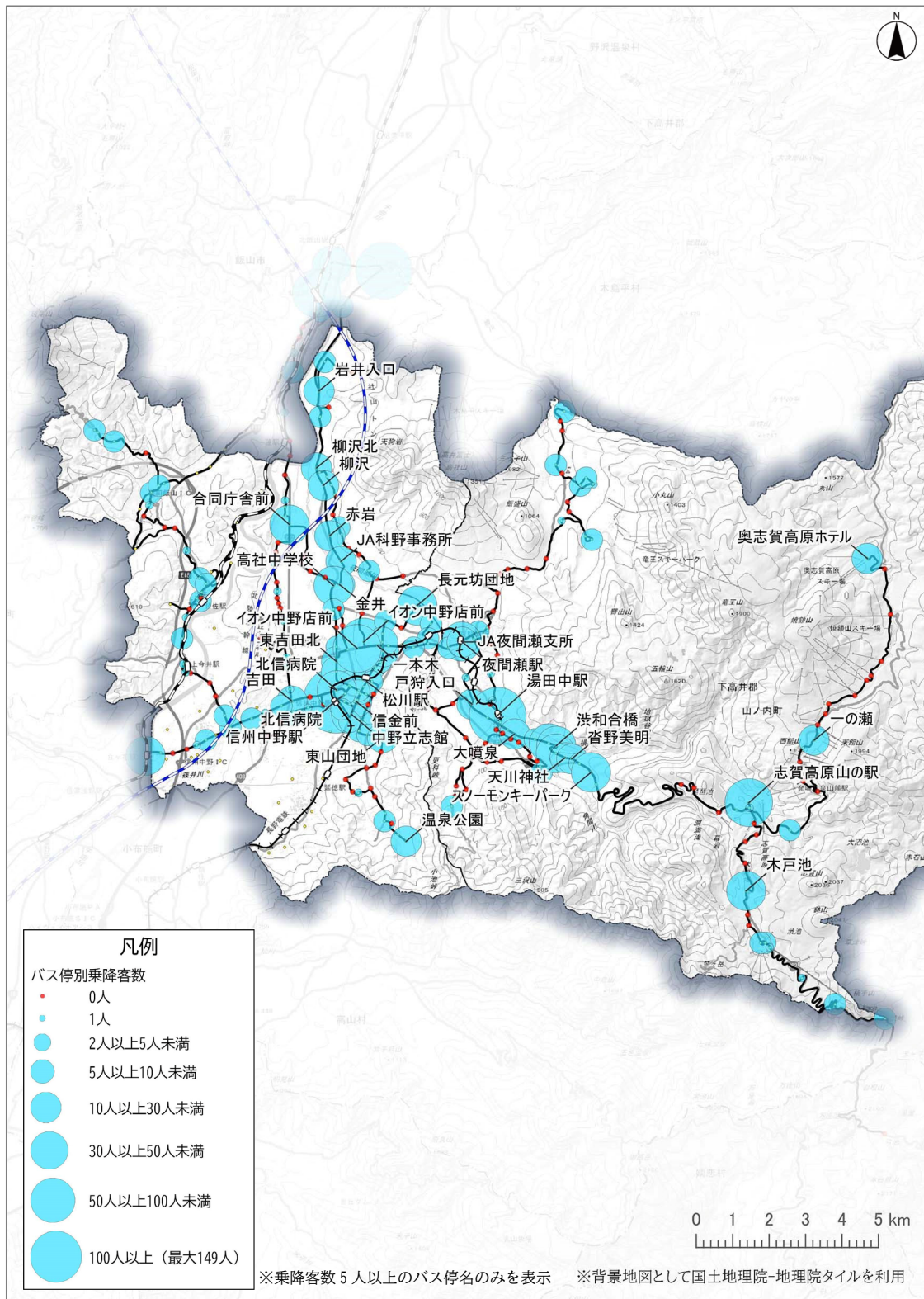


図 1-20 楽ちんバス (西・北部ルート、南部ルート)

⑤ バス停別乗降客数

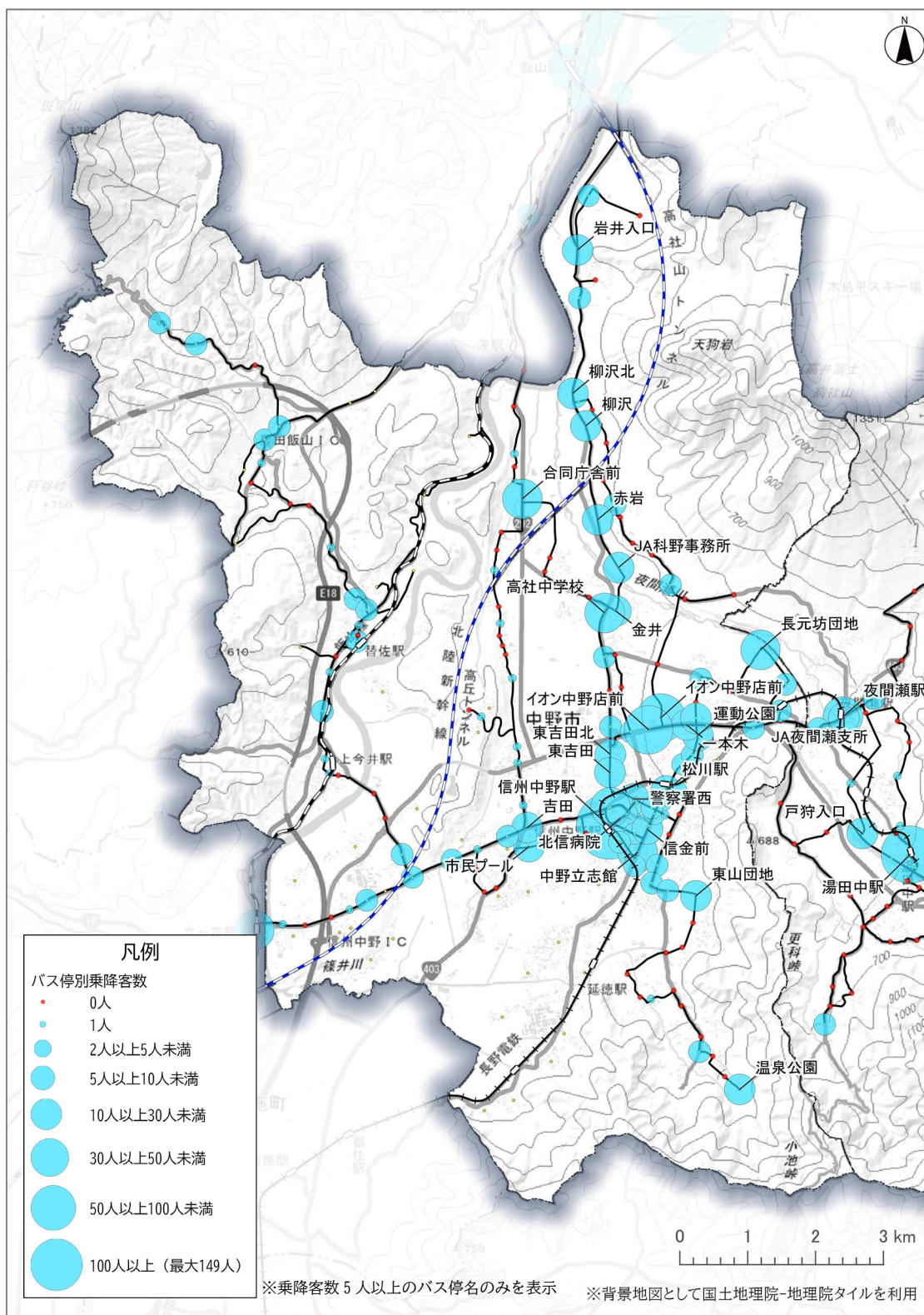
2021年10月に実施したバス停別乗降客数調査の結果を下図に示しました。



※乗降客数調査は2021年10月19日（火）、21日（木）、26日（火）に実施（1路線につき1日調査）

図 1-21 バス停別乗降客数

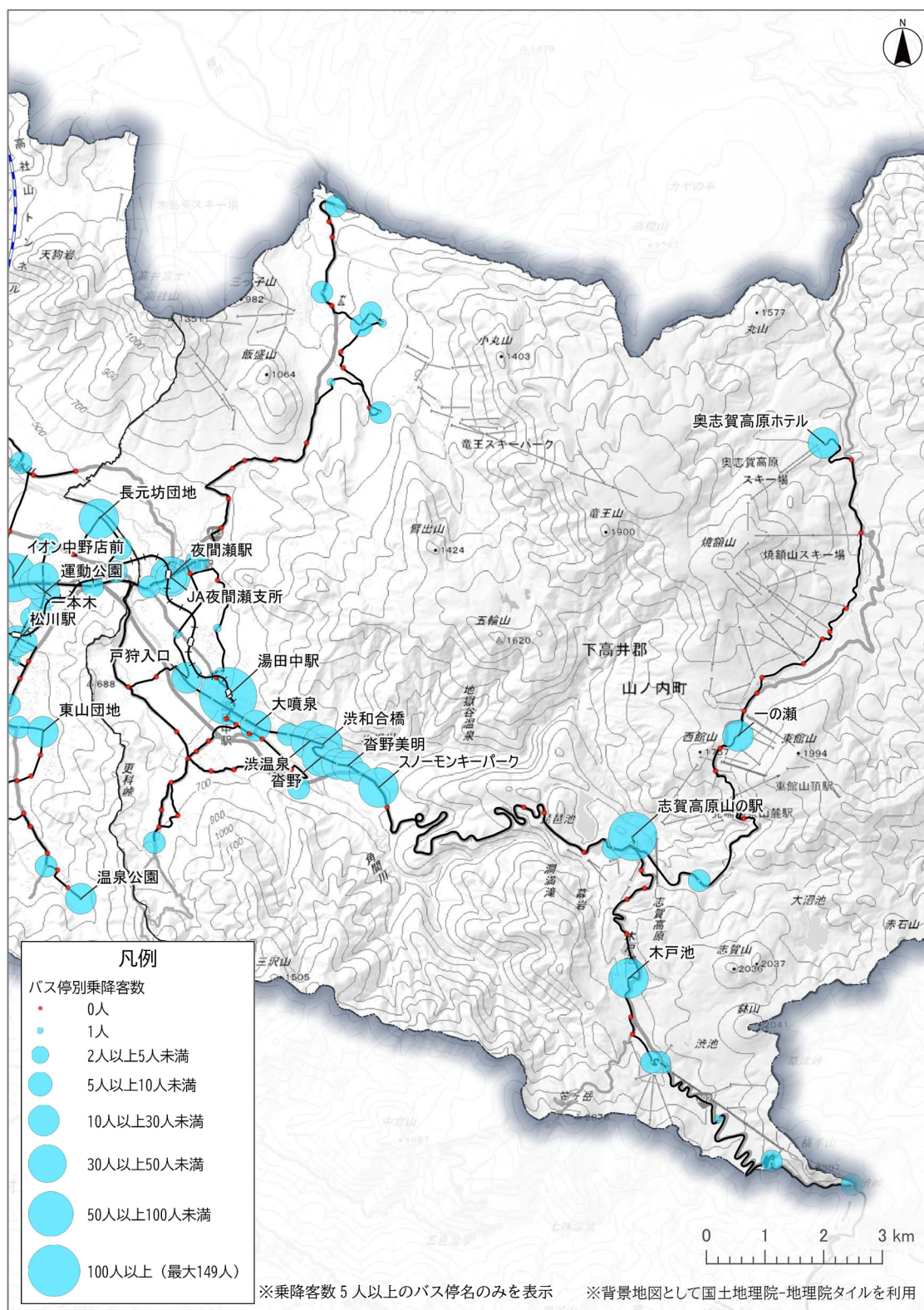
中野市内では信州中野駅での乗降が最も多く、その周辺での乗降も比較的多くなっています。また、イオン中野店前での利用も多く見られます。一方で、豊田地域などでは利用が少ないバス停が多く存在しています。



※乗降客数調査は 2021 年 10 月 19 日（火）、21 日（木）、26 日（火）に実施（1 路線につき 1 日調査）

図 1-22 バス停別乗降客数（中野市）

山ノ内町内では他のバス路線や鉄道への乗り継ぎ地点となっている湯田中駅及び夜間瀬駅での乗降が多く、また、観光客による利用がある渋温泉やスノーモンキーパーク、志賀高原方面のバス停での利用も比較的多くなっています。楽ちんバスが運行する北部地域や南部地域では利用が少ないバス停が多く存在しています。

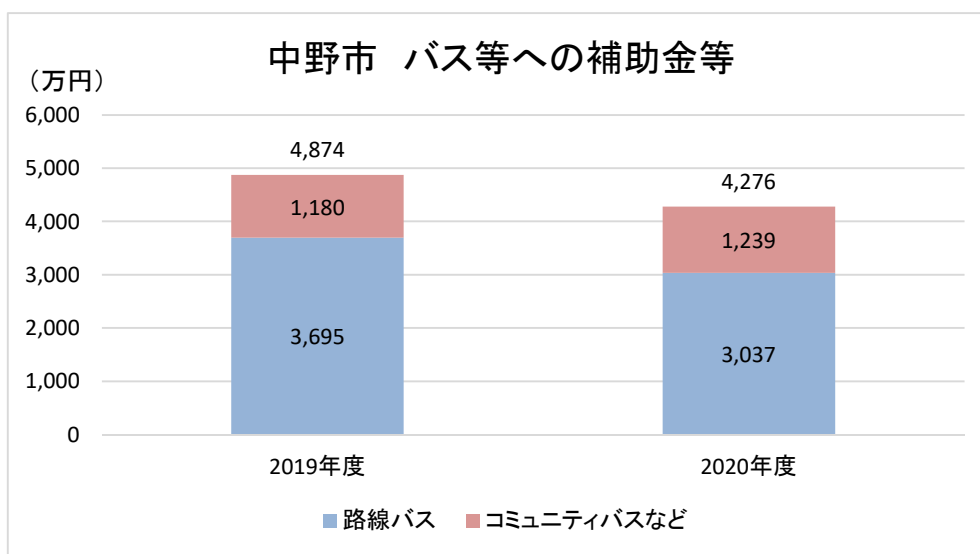


※乗降客数調査は 2021 年 10 月 19 日（火）、21 日（木）、26 日（火）に実施（1 路線につき 1 日調査）

図 1-23 バス停別乗降客数（山ノ内町）

1-3. 財政負担

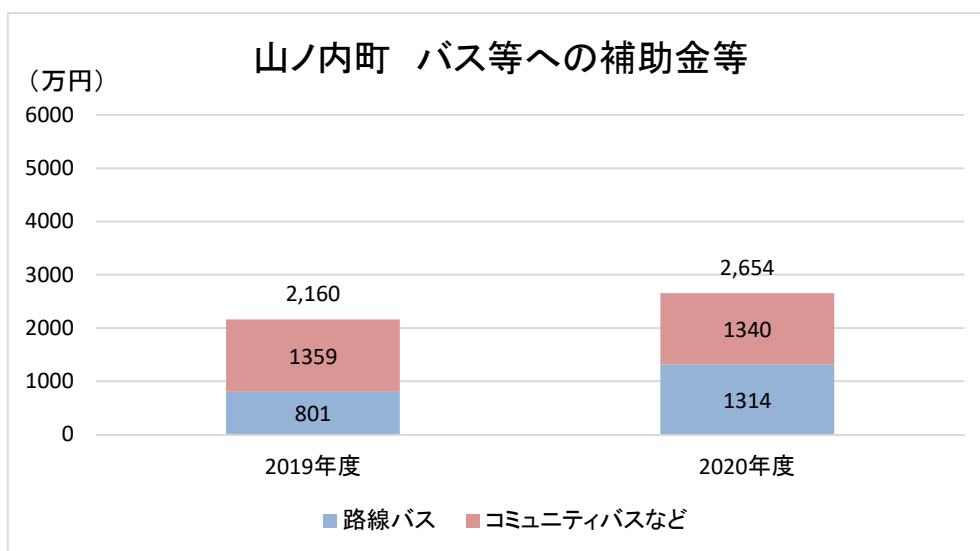
バスなどへの財政負担について、中野市では年間約 4,000～5,000 万円の負担をしており、そのうち約 3,000 万円が上林線などの路線バス、約 1,000 万円がふれあいバスなどとなっています。



- 1) 路線バス：上林線、永田線、中野木島線、菅線、合庁線、立ヶ花線
- 2) コミュニティバスなど：ふれあいバス、お出かけタクシー、乗合タクシー

図 1-24 中野市 バスなどへの補助金等

山ノ内町では年間約 2,000～3,000 万円の負担をしており、そのうち路線バスと楽ちんバスへの負担金額は概ね半々程度となっています。



- 1) 路線バス：上林線、菅線
- 2) コミュニティバスなど：楽ちんバス

図 1-25 山ノ内町 バスなどへの補助金等

2. 住民及び公共交通利用者へのアンケート調査

2-1. 公共交通に関する住民アンケート調査

(1) 住民アンケート調査概要

① 調査期間、配布・回収方法

- ・調査期間：2021年10月19日（火）～11月5日（金）
- ・配布回収方法：郵送による配布・回収

② 調査内容

調査は、世帯にアンケート票を送付し同居する高校生以上の方を対象とした日頃の移動に関する状況、今後の公共交通のあり方や要望など、次頁以降に掲載したアンケート調査票により調査を行った。

③ 配布・回収状況

配布・回収数及び回収率は以下のとおりである。

配布数：3,000世帯（中野市2,000世帯 山ノ内町1,000世帯）

回収数：1,221世帯（中野市803世帯 世帯 山ノ内町418世帯）

回収率：40.7%

【アンケート集計及び結果における留意事項】

- ※1：アンケート集計は、居住地、年齢などの基本属性にかかわる設問及び複数回答可能な設問については無回答も集計対象とするが、意識や行動に係る問2以降における無回答は集計対象外とした。
- ※2：構成比は、四捨五入、端数処理により100%とならないことがある。
- ※3：グラフにおける「n=」は有効回答者数を示す。
- ※4：グラフにおける「MA」は複数回答可能な設問であることを示す。
- ※5：クロス集計で5%未満はグラフ中の数値表示を省略した。

公共交通に関する 住民アンケート調査 ご協力をお願い

中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会

日頃より市町行政にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、地域の公共交通は、車を運転できない方などにとって大切な交通手段ですが、利用者の減少等により、民間交通事業者の経営や利用者の利便性、財政負担等の面で大変厳しい状況となっており、その維持・確保は重要な課題であります。

つきましては、地域公共交通の利用実態を把握するとともに、住民の皆様のご意見やご提言をいただき、地域公共交通の見直しに反映させることを目的に、住民アンケート調査を実施させていただくことといたしました。

本アンケート調査は地域公共交通の見直しのために、大変重要な調査となりますので、質問数が多くご多用のところ誠に恐縮ですが、ご回答くださいますようご協力をお願いいたします。

令和3年10月

○ご記入いただきましたアンケート票は、

令和3年11月5日（金）までに

同封の返信用封筒にて郵便ポストへ投かんしていただきますようお願い申し上げます。（切手は不要です。）

○アンケートは無記名としており、公共交通の見直しの参考とすることのみに使用します。

また回答いただきました情報については、プライバシー保護に万全の配慮をいたします。

○本アンケートは、中野市・山ノ内町全域から無作為に抽出した3,000世帯の世帯主の皆様にお送りしております。

質問の中には、ご家族の方にもお答えいただくものもございますが、ご家族の方のご意見をお聞きしつつ、世帯主様が代表してご家族の方についてもご記入いただいても結構です。

○ご不明の点につきましては、下記までお問い合わせください。

中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会事務局（中野市役所 総務部 政策情報課内）

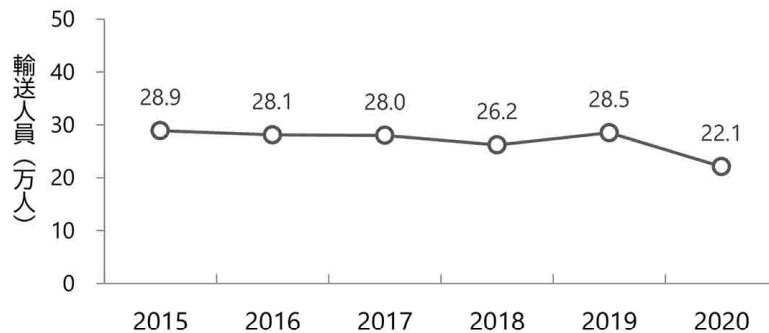
〒383-8614 中野市三好町 1-3-19

電話 0269-22-2111(内線 215)

～ 中野市・山ノ内町の公共交通について ～

■ 公共交通の利用者数

下のグラフは、中野市と山ノ内町のバス交通などの利用者数を整理したものです。中野市と山ノ内町では長電バス(株)と自治体が運行するバスなどが運行されており、年間の利用者数は約30万人弱で推移しています。運行を維持するため中野市と山ノ内町が運行経費の一部を支出しています。



※輸送人員は長電バス(株)が運行する路線バス、ふれあいバス、お出かけタクシー、楽ちんバスの合計値。年度は前年10月から当年9月までの期間。

■ 中野市と山ノ内町内で運行するバス交通などについて

運行主体	概要
長電バス(株)	長電バス(株)が運行する路線バスが走っています。中野木島線、合庁線、立ヶ花線、永田・親川線、菅線、上林線、奥志賀高原線、白根火山線が運行されています。中野市、山ノ内町、飯山市を結んでいます。
中野市が運行する路線	中野市ではふれあいバスを運行しています。路線バスの利用が不便な地域をカバーしています。 中野市ではお出かけタクシーという名称で予約制の乗り合いタクシーを運行しています。お出かけタクシーの停留所のみで乗り降り可能です。
山ノ内町が運行する路線	山ノ内町では楽ちんバスを運行しています。須賀川線の廃止、菅・角間線の一部廃止による交通空白地域をカバーしています。町民の方のみ利用可能です。
飯山市が運行する路線	飯山市が運行する乗り合いタクシー深沢永田線が中野市の永田地区まで運行しています。利用には予約が必要です。

はじめに、ご家族の皆さまについてご質問いたします

問1 ご家族のうち、現在同居されている高校生以上の方の構成について教えてください。
 該当するものに○またはご記入ください。
 記入欄が足りない場合は年長の方を優先してご記入ください。

	年齢	職 業	車・バイク免許の有無	障害者手帳の有無
世帯主様	歳	1. 勤め人 2. 自営業 3. パート 4. 学生 5. 専業主婦（夫） 6. 無職 7. その他	1. 持っている （普段から運転する） 2. 持っている （普段は運転しない） 3. 持っていない	1. あり 2. なし
ご家族A様	歳	1. 勤め人 2. 自営業 3. パート 4. 学生 5. 専業主婦（夫） 6. 無職 7. その他	1. 持っている （普段から運転する） 2. 持っている （普段は運転しない） 3. 持っていない	1. あり 2. なし
ご家族B様	歳	1. 勤め人 2. 自営業 3. パート 4. 学生 5. 専業主婦（夫） 6. 無職 7. その他	1. 持っている （普段から運転する） 2. 持っている （普段は運転しない） 3. 持っていない	1. あり 2. なし
ご家族C様	歳	1. 勤め人 2. 自営業 3. パート 4. 学生 5. 専業主婦（夫） 6. 無職 7. その他	1. 持っている （普段から運転する） 2. 持っている （普段は運転しない） 3. 持っていない	1. あり 2. なし
ご家族D様	歳	1. 勤め人 2. 自営業 3. パート 4. 学生 5. 専業主婦（夫） 6. 無職 7. その他	1. 持っている （普段から運転する） 2. 持っている （普段は運転しない） 3. 持っていない	1. あり 2. なし
ご家族E様	歳	1. 勤め人 2. 自営業 3. パート 4. 学生 5. 専業主婦（夫） 6. 無職 7. その他	1. 持っている （普段から運転する） 2. 持っている （普段は運転しない） 3. 持っていない	1. あり 2. なし

日常生活における交通手段についてご質問いたします

こちらの質問は、**問1**でお答えいただいた、ご家族の方それぞれについてご回答をお願いします。

問2 普段（平日：月～金曜日）の生活における代表的な外出行動と交通手段について、以下の選択肢よりお選びいただき、番号等を次ページの回答欄にご記入ください。

回答欄は次ページです。

ア 普段の主な外出目的を1つお選びください。

- | | | |
|--------|------------|----------|
| 1. 通勤 | 2. 通学 | 3. 買い物 |
| 4. 通院 | 5. 娯楽・習い事 | 6. 営業・業務 |
| 7. 農作業 | 8. 私用（銀行等） | 9. その他 |

イ 普段の外出頻度を1つお選びください。

- | | | |
|---------|-------------|-------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に3～5日程度 | 3. 週に1～2日程度 |
| 4. 月に数日 | 5. 年に数日 | 6. その他 |

ウ 普段の主な外出先をお聞かせください。

外出先が複数となる場合には、一番滞在時間が長い場所をお答えください。

※ 外出先の具体的な地名と施設名称を回答欄に直接ご記入ください。

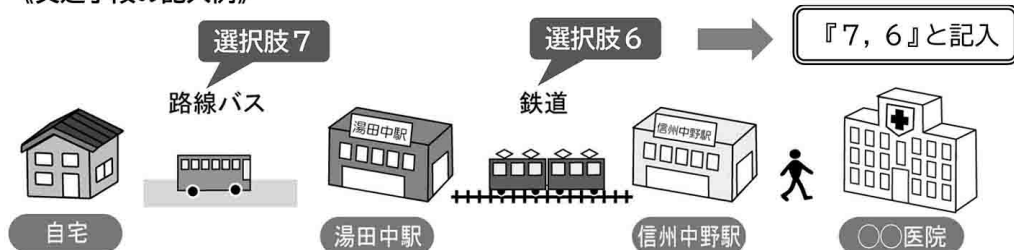
エ 主な外出先への到着時刻、外出先からの出発時刻をお聞かせください。

※ 外出先への到着時刻、外出先からの出発時刻を回答欄に直接ご記入ください。

オ 外出先への行きと帰りの交通手段をそれぞれお選びください。交通手段が複数の場合、出発から到着まで利用する順番で全ての番号を記入してください。（下図参照）

- | | | |
|---------------|------------------|----------|
| 1. 徒歩のみ | 2. 自転車 | 3. バイク |
| 4. 自動車【自ら運転】 | 5. 自動車【家族等による送迎】 | 6. 鉄道 |
| 7. 路線バス（長電バス） | 8. ふれあいバス | 9. 楽ちんバス |
| 10. タクシー | 11. おでかけタクシー | 12. その他 |

《交通手段の記入例》



問2 回答欄 前ページの選択肢より、番号等を選んで、下の回答欄にご記入ください。
「その他」を選択された方は直接、内容をお書きください。

注) 問1で回答した世帯主・A～Eのご家族様それぞれ該当する欄にお答えください。

	ア 外出 目的	イ 外出 頻度	ウ 外出先	エ 外出時間		オ 交通手段
				外出先への 到着時刻	外出先からの 出発時刻	
記入例	2	1	地名等 長野市	8:30	16:30	行き： 7, 6
			施設名称等 〇〇高校			帰り： 6, 7
記入例	3	2	地名等 中野市 一本木	10:30	11:30	行き： 4
			施設名称等 イオン中野店			帰り： 4
世帯主 様			地名等			行き：
			施設名称等 ※差し支えなければご記入ください			帰り：
ご家族 A様			地名等			行き：
			施設名称等 ※差し支えなければご記入ください			帰り：
ご家族 B様			地名等			行き：
			施設名称等 ※差し支えなければご記入ください			帰り：
ご家族 C様			地名等			行き：
			施設名称等 ※差し支えなければご記入ください			帰り：
ご家族 D様			地名等			行き：
			施設名称等 ※差し支えなければご記入ください			帰り：
ご家族 E様			地名等			行き：
			施設名称等 ※差し支えなければご記入ください			帰り：

問3 休日（土日・祝日またはお勤め等がお休みの日）の生活における代表的な外出行動と交通手段について、以下の選択肢よりお選びいただき、番号等を次ページの回答欄にご記入ください。

回答欄は次ページです。

ア 休日の主な外出目的を1つお選びください。

- | | | | |
|------------|--------|-----------|--------|
| 1. 買い物 | 2. 通院 | 3. 娯楽・習い事 | 4. 農作業 |
| 5. 私用（銀行等） | 6. 部活動 | 7. その他 | |

イ 休日の主な外出先をお聞かせください。

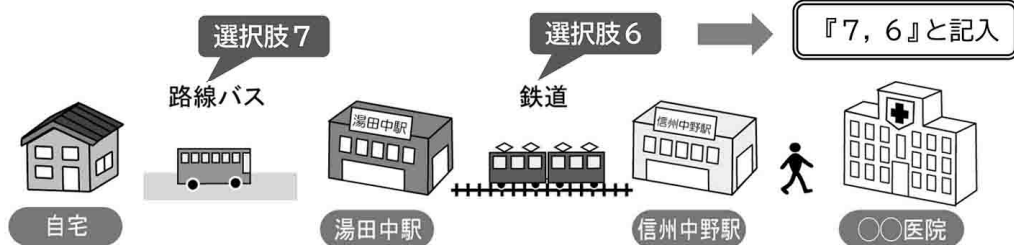
外出先が複数となる場合には、一番滞在時間が長い場所をお答えください。

※ 外出先の具体的な地名等と施設名称を回答欄に直接ご記入ください。

ウ 外出先への行きと帰りの交通手段をそれぞれお選びください。交通手段が複数の場合、出発から到着まで利用する順番で全ての番号を記入してください。（下図参照）

- | | | |
|---------------|------------------|----------|
| 1. 徒歩のみ | 2. 自転車 | 3. バイク |
| 4. 自動車【自ら運転】 | 5. 自動車【家族等による送迎】 | 6. 鉄道 |
| 7. 路線バス（長電バス） | 8. ふれあいバス | 9. 楽ちんバス |
| 10. タクシー | 11. おでかけタクシー | 12. その他 |

《交通手段の記入例》



問3 回答欄 前ページの選択肢より、番号等を選んで、下の回答欄にご記入ください。
「その他」を選択された方は直接、内容をお書きください。

注) 問1で回答した世帯主・A～Eのご家族様それぞれ該当する欄にお答えください。

	ア 外出目的	イ 外出先	ウ 交通手段
記入例	3	地名等 山ノ内町 平穏	行き： 7
		施設名称等 楓の湯	帰り： 5
世帯主様		地名等	行き：
		施設名称等 ※差し支えなければご記入ください	帰り：
ご家族A様		地名等	行き：
		施設名称等 ※差し支えなければご記入ください	帰り：
ご家族B様		地名等	行き：
		施設名称等 ※差し支えなければご記入ください	帰り：
ご家族C様		地名等	行き：
		施設名称等 ※差し支えなければご記入ください	帰り：
ご家族D様		地名等	行き：
		施設名称等 ※差し支えなければご記入ください	帰り：
ご家族E様		地名等	行き：
		施設名称等 ※差し支えなければご記入ください	帰り：

現在の公共交通利用に対するお考えをお聞きします

こちらの質問は、**問1**でお答えいただいた、ご家族の方それぞれについてご回答をお願いします。

回答欄は次ページです。

- ◆ 公共交通(鉄道を除く)を 日常的に利用されている方 は、**問4** をご回答ください。
- ◆ 公共交通(鉄道を除く)を ほとんど利用しない方 は、**問5** をご回答ください。

問4 公共交通(鉄道を除く)を日常的に利用されている方へ質問です。

ア 公共交通(鉄道を除く)を利用する理由を2つまでお選びください。

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1. 便利だから | 2. ほかに移動手段がないから |
| 3. 目的地に早く着くから | 4. 目的地までの公共交通があるから |
| 5. 安心・安全だから | 6. その他 |

イ 公共交通(鉄道を除く)に対する満足度を1つお選びください。

- | | | | | |
|-------|---------|-------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. 普通 | 4. やや不満 | 5. 不満 |
|-------|---------|-------|---------|-------|

ウ 公共交通(鉄道を除く)に対する満足度で、「不満(4または5)」と回答された方は、その理由を2つまでお選びください。

- | | | |
|-------------|-----------------|--------------|
| 1. 運行本数が少ない | 2. バス停まで遠い | 3. 運賃が高い |
| 4. ルートが悪い | 5. ダイヤが悪い | 6. 鉄道との接続が悪い |
| 7. バス車両が悪い | 8. 運転士の接客・運転が悪い | 9. その他 |

問5 公共交通(鉄道を除く)をほとんど利用しない方へ質問です。

ア 公共交通(鉄道を除く)をほとんど利用しない理由を2つまでお選びください。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. バス以外の移動手段があるから | 2. バス停が自宅から遠いから |
| 3. 運行本数が少ないから | 4. 運賃が高いから |
| 5. 目的地まで時間がかかるから | 6. 荷物を持って移動するのが大変だから |
| 7. 乗り継ぎが面倒だから | 8. バスと鉄道の接続が悪いから |
| 9. 目的地までの公共交通がないから | 10. 他人との乗合が嫌だから |
| 11. バスの乗り降りが大変だから | 12. 利用方法がよくわからないから |
| 13. その他 | |

問4・5 回答欄 前ページの選択肢より、番号等を選んで、下の回答欄にご記入ください。
「その他」を選択された方は直接、内容をお書きください。

注) **問1**で回答した世帯主・A～Eのご家族様それぞれ該当する欄にお答えください。

	問4 の回答欄 ※公共交通を日常的に利用される方			問5 の回答欄 ※公共交通をほとんど利用されない方
	<input type="checkbox"/> ア 利用する理由	<input type="checkbox"/> イ 満足度	<input type="checkbox"/> ウ 不満の理由	<input type="checkbox"/> ア 利用しない理由
記入例	1、5	4	1、6	
記入例				3、7
世帯主様				
ご家族A様				
ご家族B様				
ご家族C様				
ご家族D様				
ご家族E様				

今後の公共交通のあり方や要望についてお聞きします

ここからの質問は、ご家族のご意見としてご回答をお願いします。

問6 中野市では、長電バスが運行するバス路線の運行や維持のために年間約3,000万円、ふれあいバス及びお出かけタクシーに年間約1,200万円、合わせて年間4,200万円の行政負担をしています。

山ノ内町では、長電バスが運行するバス路線の運行や維持のために年間約1,400万円、楽ちんバスに年間約1,300万円、合わせて年間2,800万円の行政負担をしています。

ご自身がお住まいの市・町における行政負担金額についてどうお考えになりますか。該当するもの1つに○をしてください。

1. 妥当な金額だと思う
2. 行政負担はもっと少なくすべき
3. 行政負担はもっと多くても構わない
4. わからない
5. その他 ()

問7 市町の財政が厳しくなる中、利用者数の減少により地域を走るバス(長電バス路線、ふれあいバス、楽ちんバス、お出かけタクシー)の維持が今後ますます厳しくなると予想されます。地域を走るバスへの今後の対応として、あなたの考えに最も近いものを教えてください。該当するもの1つに○をしてください。

1. 路線の再編や運行本数の見直しによって運行の効率化を図るべきだ
2. 地域を走るバスは大切であるので、現状の運行本数と路線は維持すべきだ
3. 運行本数や路線を増やす方向で見直すべきだ
4. わからない
5. その他 ()

問8 ご家族にとって地域を走るバス(長電バス路線、ふれあいバス、楽ちんバス、お出かけタクシー)はどのようなものですか。該当するもの1つに○をしてください。

1. 現在でも必要不可欠で、重要な移動手段である
2. 現在は特に必要としていないが、将来的には必要な移動手段になると思う
3. 現在も将来も特に必要になると思わない
4. その他 ()

- 問9** 「こうなれば、地域を走るバス（長電バス路線、ふれあいバス、楽ちんバス、お出かけタクシー）を今よりもっと利用する・新たに利用したい」と思う、要望やアイデアがあればお聞かせください。
 あてはまる番号に○をつけて、具体的な内容をご記入ください。（複数選択可）

要望	具体的にお書きください
1. 運行ダイヤの改善	(路線名・時間帯、乗り継ぎ改善してほしい駅名・時間帯など)
2. 運行ルートの変更	(行ってほしい場所、バス停を設置してほしい場所、路線名など)
3. 車両の改善 (ステップ・手すりなど)	線の車両に () がほしい。
4. 待合環境の改善	バス停に () がほしい。
5. わかりやすい路線図・時刻表の配布	
6. パソコンやスマートフォンで運行情報が確認できる	
7. ICカードや電子マネーで支払いができる	
8. バス等の乗り方を学べる機会を設ける	
9. その他	※上記以外の要望やアイデア等を具体的にお書きください

中野市と山ノ内町の相互乗り入れについてお聞きします

- 問10** 現在、中野市と山ノ内町をお互いに行き来できる公共交通として長野電鉄長野線、長電バス上林線、菅線などがありますが、両市町の相互乗り入れについて、今あるバス路線のルートとは別に、相互乗り入れを行ってほしい区間はありますか。該当するもの1つに○をしてください。
 また、相互乗り入れについて、その他、ご意見・ご要望があればお書きください。

1. 現在、相互乗り入れしている電車とバス路線で十分である。
2. 今あるバス路線のルート以外で相互乗り入れを行って欲しい区間がある。 (相互乗り入れを行ってほしい区間などを具体的にお書きください。)
(相互乗り入れについての、その他ご意見・ご要望記入欄)

最後のご質問です

問11 ご自宅から最寄りのバス停まで徒歩でかかる時間はどのくらいですか。
該当するものに○またはご記入ください。

1. [] バス停まで徒歩で [] 分
2. 最寄りのバス停がわからない・徒歩で行ける距離にバス停がない

問12 お住まいの地区はどこですか。1つに○をしてください。

中野市

1. 中野地区 [中町、西町、東町、松川、普代、東松川、一本木、栗和田、西条、上小田中、下小田中、東吉田]
2. 日野地区 [間山、新野、更科、高遠、東山]
3. 延徳地区 [桜沢、大熊、北大熊、小沼、篠井、新保]
4. 平野地区(東) [岩船、吉田]
5. 平野地区(西) [西江部、東江部、泉、片塩、七瀬、長嶺]
6. 高丘地区 [安源寺、草間、日和、立ヶ花、牛出、栗林、大俣]
7. 長丘地区 [田麦、厚貝、壁田、古牧]
8. 平岡地区 [竹原、金井、西笠原、東笠原、新井、若宮、北間長瀬、南間長瀬、長元坊]
9. 科野地区 [赤岩、深沢、越]
10. 倭地区 [岩井、岩井東、田上、柳沢、中小屋、牧ノ入]
11. 豊津地区 [替佐、笠倉、碓、奥手山、美沢]
12. 上今井地区 [上今井]
13. 永田地区 [穴田、毛野川、南永江、北永江、梨久保、涌井、親川、三俣、赤坂、豊田深沢]

山ノ内町

14. 東部地区 [志賀高原、沓野、湯ノ原、渋・横湯、金倉、安代、星川、湯田中、上条、湯河原]
15. 南部地区 [佐野、穂波温泉、菅、寒沢、戸狩]
16. 西部地区 [本郷、宇木、横倉、前坂、高社山]
17. 北部地区 [表落合・裏落合、下須賀川、中須賀川、土橋、高井富士、小丸山・丸山、乗廻、苗間、竜王]

そのほか、ご意見・ご要望等がございましたらご自由にご記入ください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

(2) 住民アンケート調査結果

① 回答者属性

1) 年齢

- 回答者の年齢構成は、中野市では70歳代が17%で最も多く、次いで40歳代が16%、60歳代が16%となっています。
- 山ノ内町では、70歳代が19%で最も多く、次いで60歳代が18%、50歳代が15%となっています。

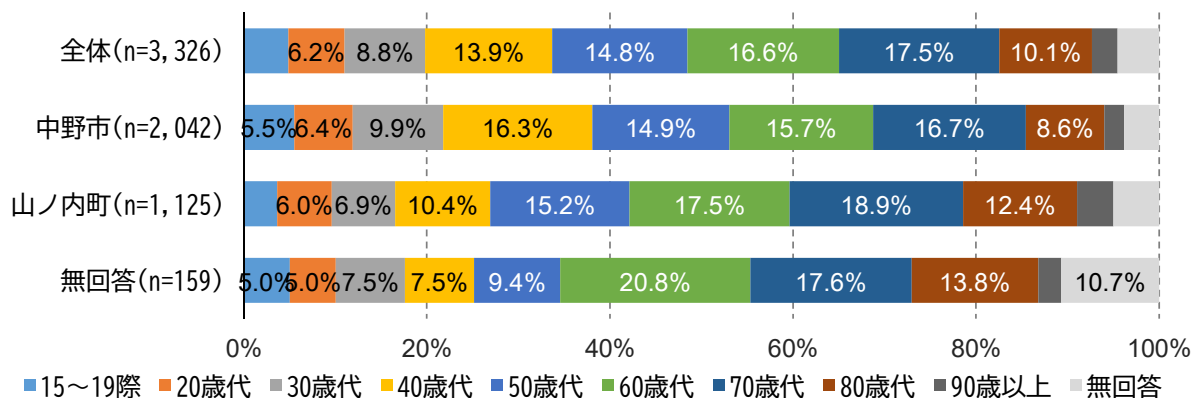


図 2-1 年齢構成

2) 職業

- 回答者の職業は、中野市では「勤め人」が36%と最も多く、次いで「無職」が19%、「自営業」が15%となっています。
- 山ノ内町では「勤め人」が32%と最も多く、次いで「無職」が26%、「自営業」が17%となっています。

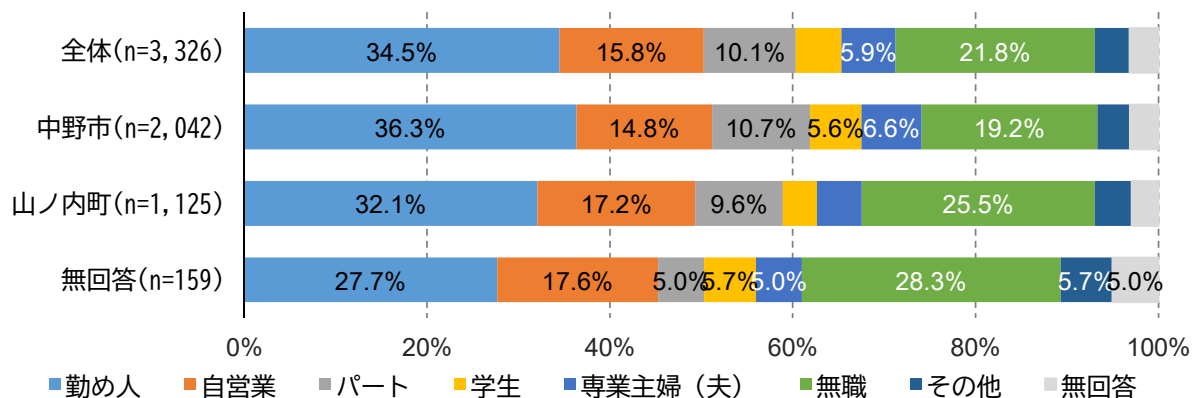


図 2-2 職業構成

3) 車・バイク免許の有無

- 回答者の免許保有状況は、中野市では免許保有者（普段から運転する）が全体の78%を占めています。
- 山ノ内町では免許保有者（普段から運転する）が全体の77%を占めています。
- 年齢別では70歳代以上で年齢が高くなるにつれ非保有者が増加し、80歳代では半数、90歳代以上では9割が免許を保有していないと回答しています。

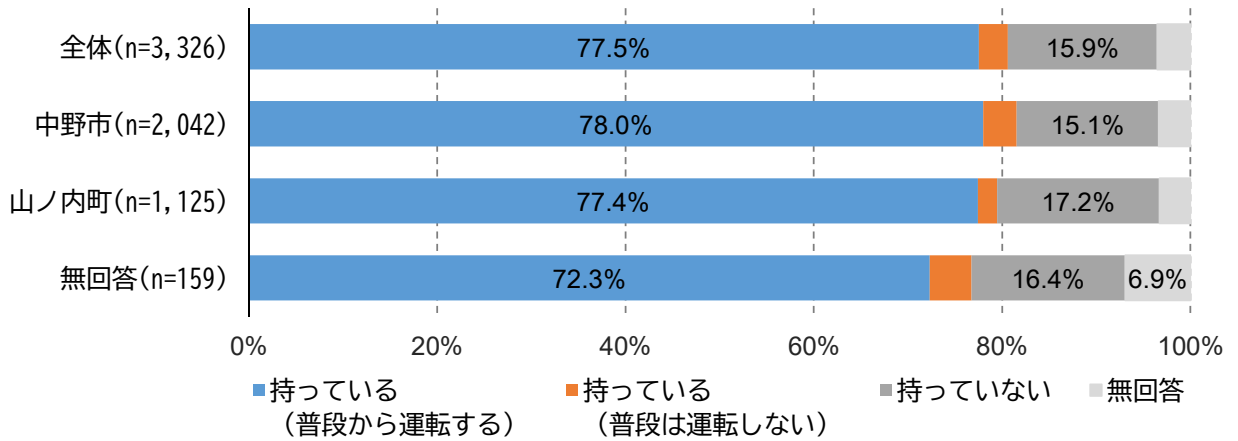


図 2-3 車・バイク免許の有無

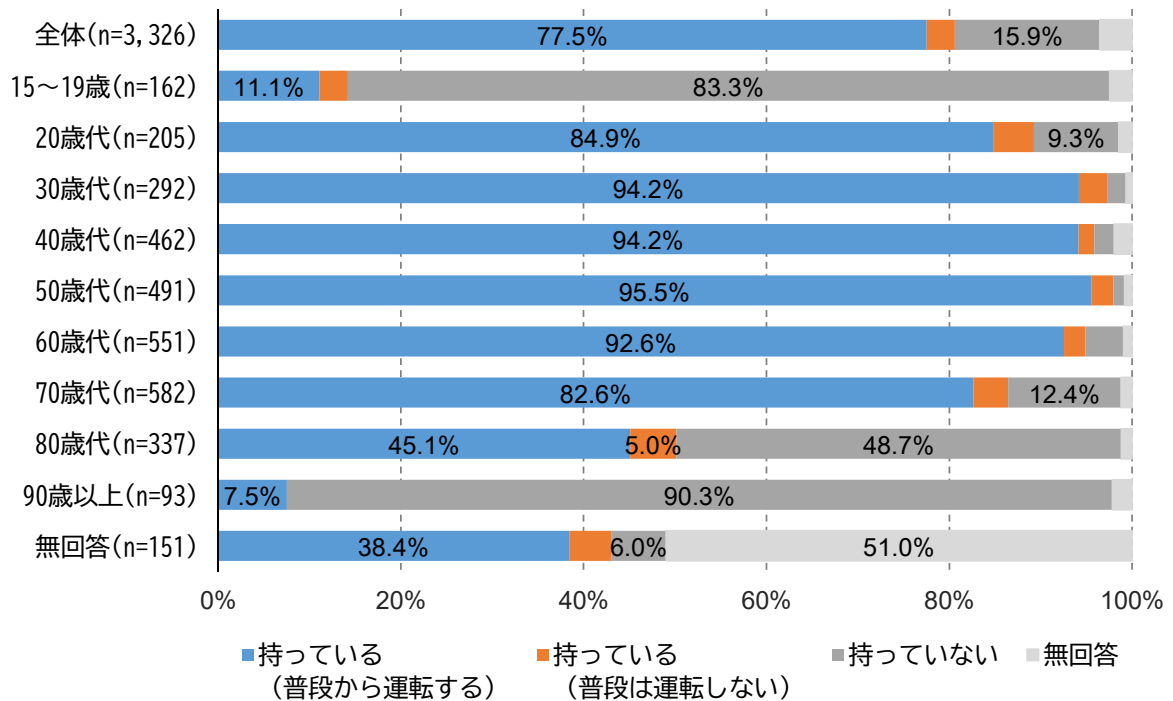


図 2-4 年齢別構成

4) 障害者手帳の有無

- 回答者の障害者手帳の有無は、中野市では5%の方がありと回答しています。
- 山ノ内町では8%の方がありと回答しています。

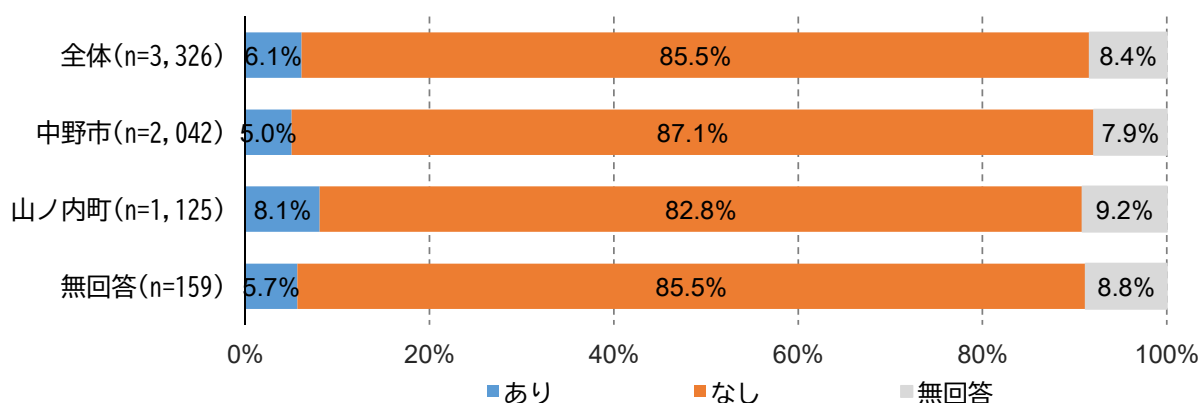


図 2-5 障害者手帳の有無

5) 自宅から最寄りのバス停までの距離（徒歩でかかる時間）

- 回答者の自宅から最寄りのバス停までの距離は、中野市では「5分以内」が41%と最も多く、次いで「最寄りのバス停不明・徒歩圏外」が30%、「10分以内」が12%となっています。
- 山ノ内町では「5分以内」が54%と最も多く、次いで「10分以内」が17%、「最寄りのバス停不明・徒歩圏外」が9%となっています。
- 30分以上を要するとの回答も存在します。

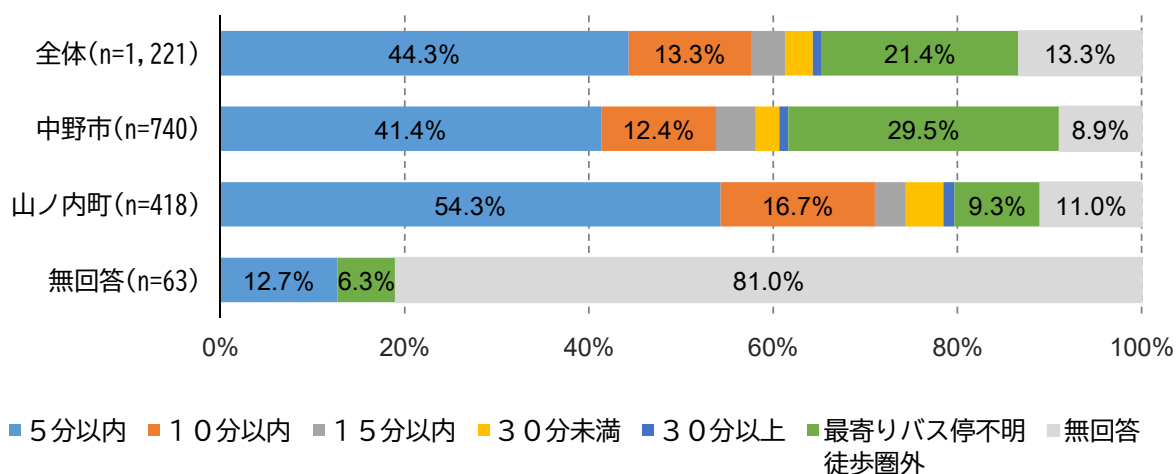


図 2-6 最寄りのバス停までの徒歩でかかる時間

6) 居住地

- 回答者の居住地構成は、中野市では中野地区が全体の34%、その他の地区が2~10%となっています。
- 山ノ内町では、東部地区以外では25~39%、東部地区は6%となっています。
- 両市町ともに各地区からの意見が得られました。

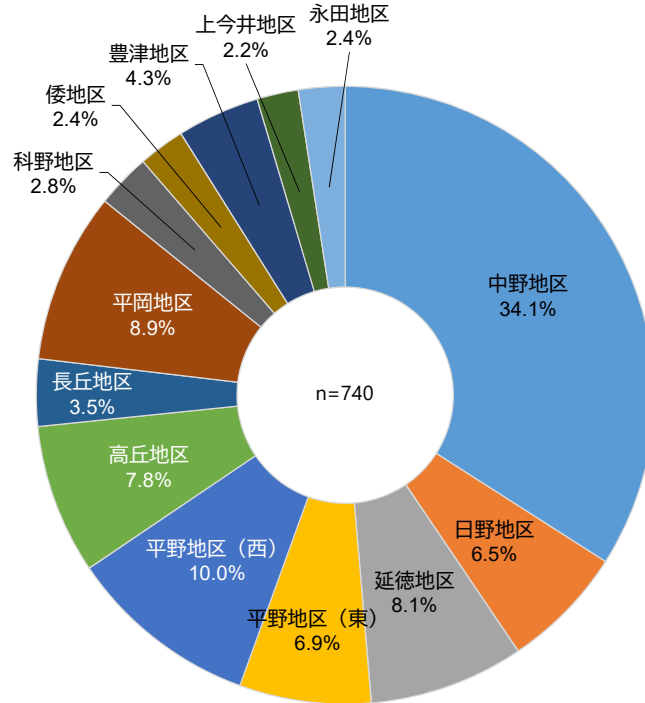


図 2-7 中野市 居住地

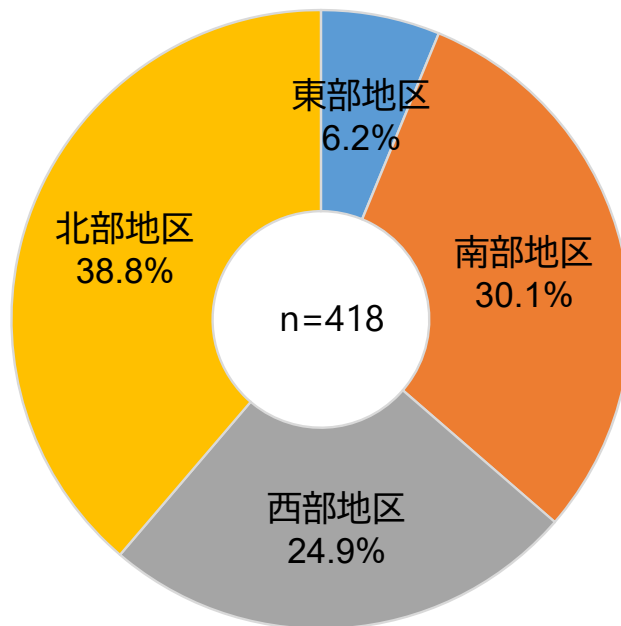


図 2-8 山ノ内町 居住地

② 平日における代表的な外出行動・交通手段

1) 平日の主な外出目的

- 平日の主な外出目的は、中野市では「通勤」が約半数、次いで「買い物」が18%、「農作業」が10%となっています。
- 山ノ内町では「通勤」が44%、次いで「買い物」が18%、「農作業」が14%となっています。
- 年齢別では、20～50歳代では「通勤」が73～83%を占め、60～80歳代では「買い物」26～38%、80歳代以上では「通院」が28～46%を占めています。

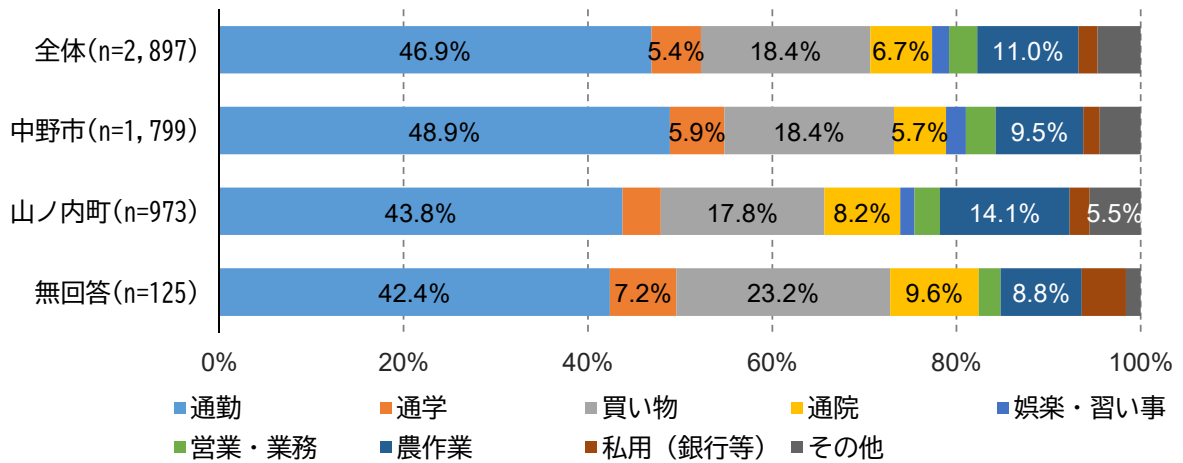


図 2-9 平日の主な外出目的

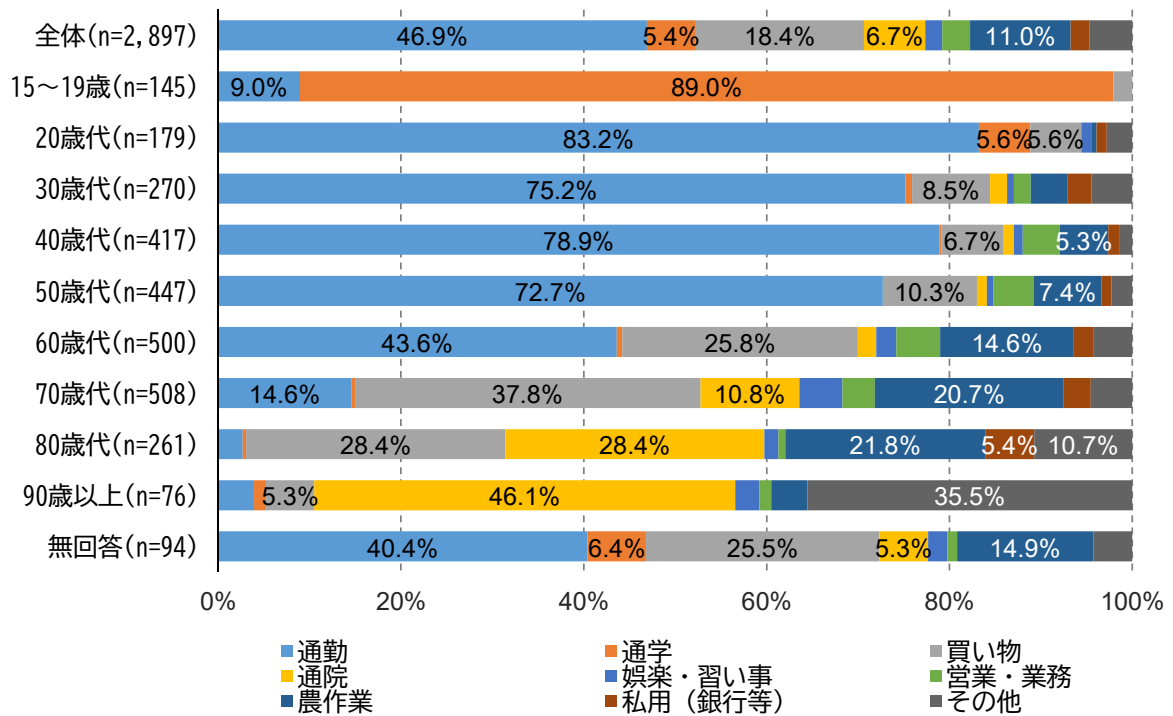


図 2-10 年齢別構成

2) 平日の外出頻度

- 平日の外出頻度は、中野市では「ほぼ毎日」が61%と最も多く、次いで「週に3～5日程度」が22%となっています。
- 山ノ内町では「ほぼ毎日」が57%と最も多く、次いで「週に3～5日程度」が22%となっています。
- 年齢別では、50歳代以下では「ほぼ毎日」が全体の約7割を占めますが、年齢が高くなるにつれ外出頻度が低くなる傾向となっています。

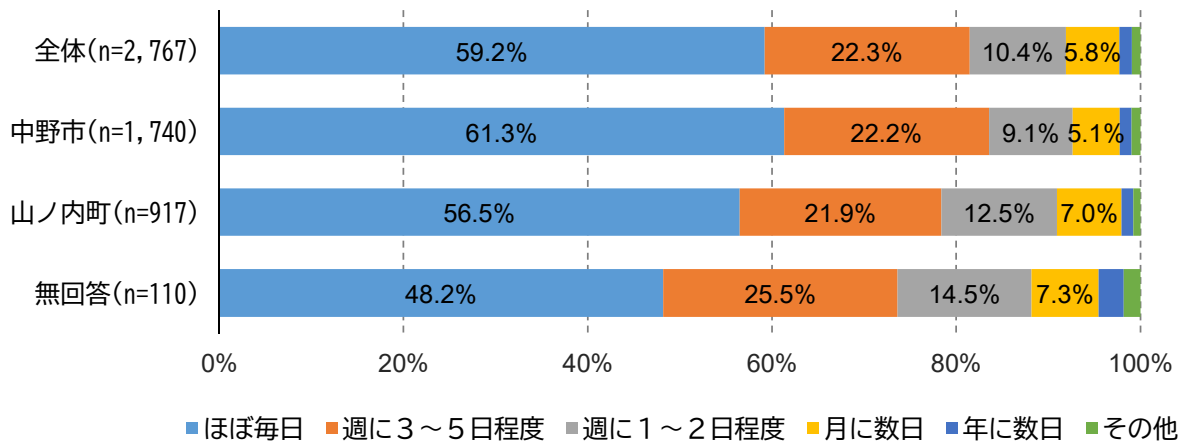


図 2-11 平日の外出頻度

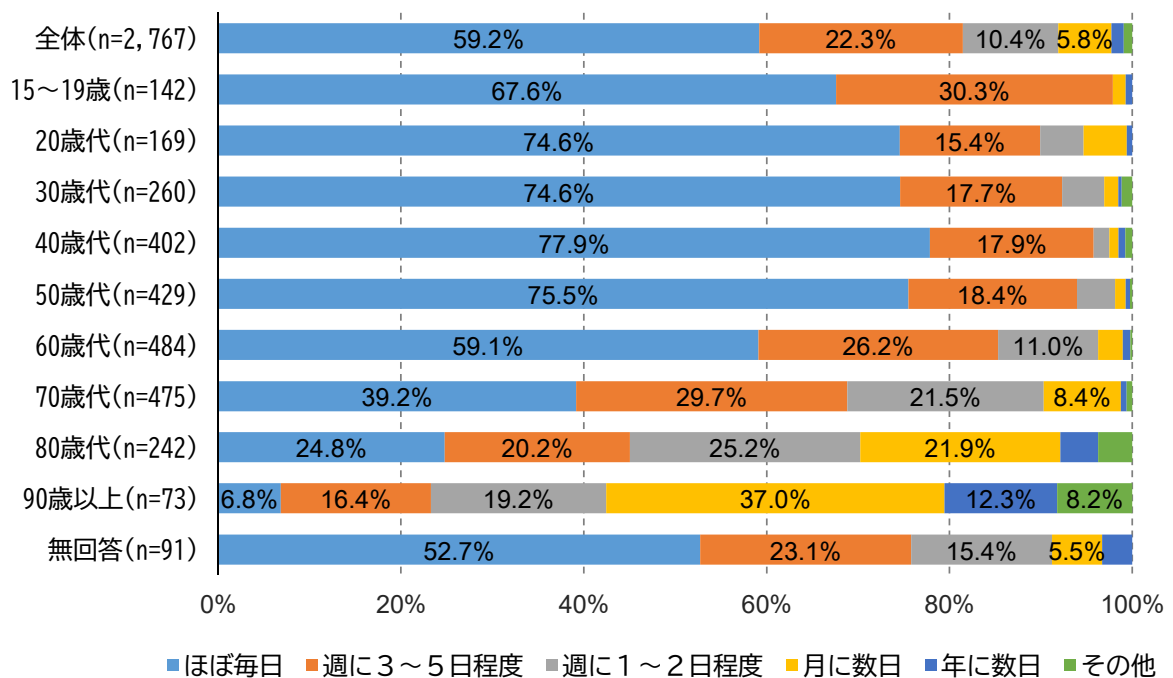


図 2-12 年齢別構成

3) 外出先への到着時刻と外出先からの出発時刻

- 外出先への到着時刻は、中野市では8時台が38%で最も多く、次いで7時台が19%、9時台が15%と午前中が多くなっています。
- 山ノ内町では8時台が38%で最も多く、次いで7時台が18%、9時台が17%と午前中が多くなっています。

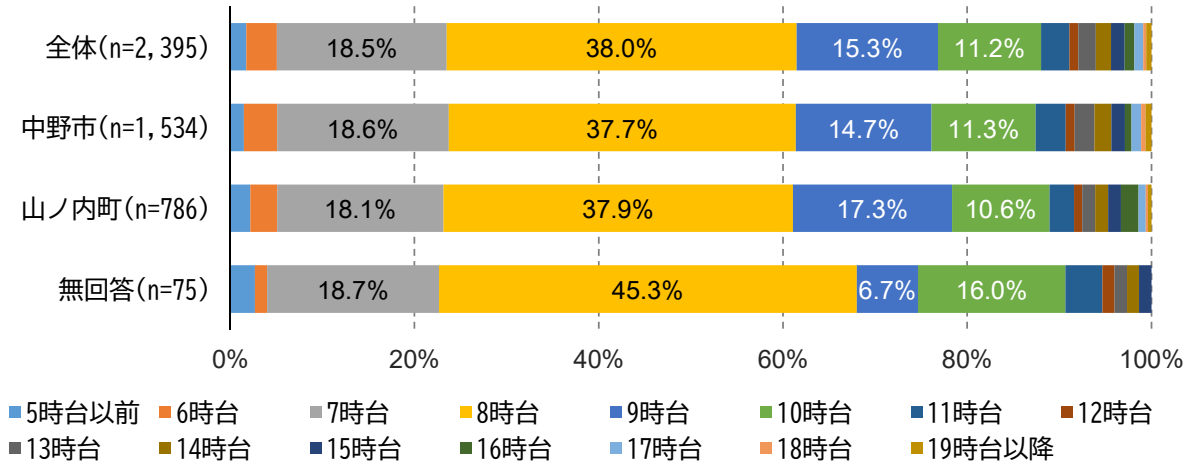


図 2-13 外出先への到着時刻（平日）

- 外出先からの出発時刻は、中野市では17時台が23%で最も多く、次いで18時台が16%、19時以降が13%となっています。
- 山ノ内町では17時台が27%で最も多く、次いで18時台が17%、16時台が11%となっています。

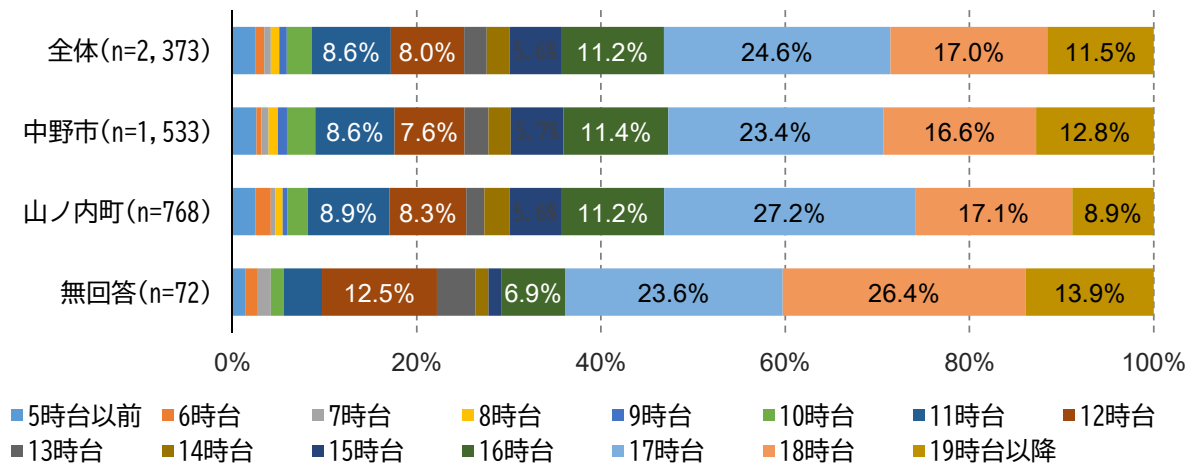


図 2-14 外出先からの出発時刻（平日）

4) 代表交通手段

- 平日の外出における代表交通手段は、中野市では行きと帰りの傾向は同様で、自動車（自ら運転）が約8割を占めており、自動車（家族による送迎）も8%あります。
- 山ノ内町では行きと帰りの傾向は同様で、自動車（自ら運転）が約8割を占めており、自動車（家族による送迎）も12%あります。
- 年齢別は、自動車（自ら運転）が20～70歳代で8～9割程度、80歳代でも約4割となっており、90歳以上では自動車（家族による送迎）が多くなっています。
- 15～19歳では鉄道が約半数となっており、次いで自動車（家族による送迎）が17%前後となっています。

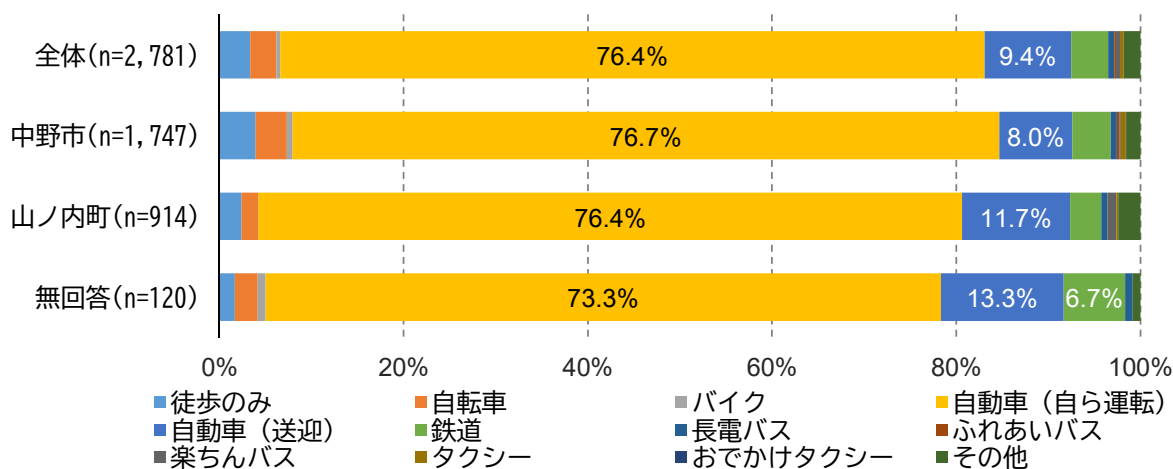


図 2-15 外出先への代表交通手段（平日）

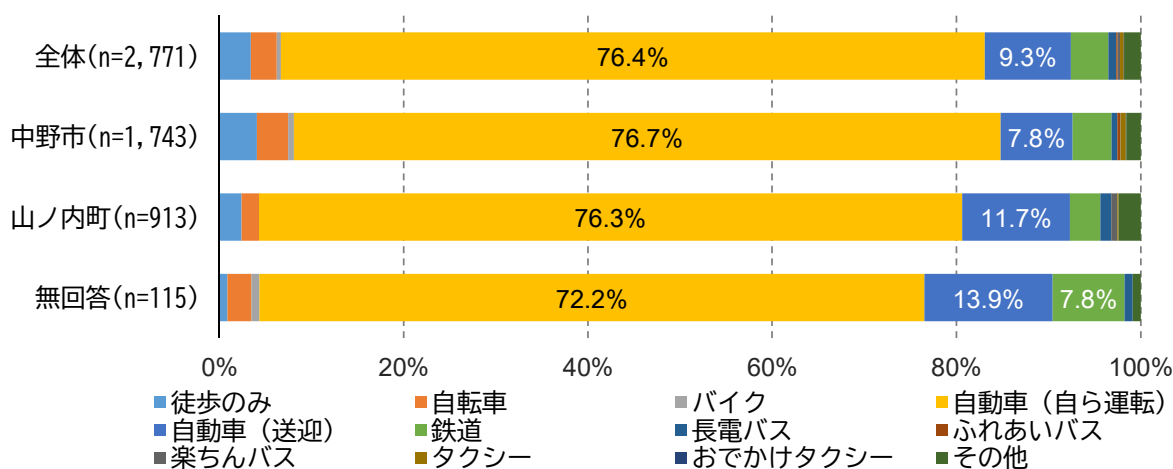


図 2-16 外出先からの代表交通手段（平日）

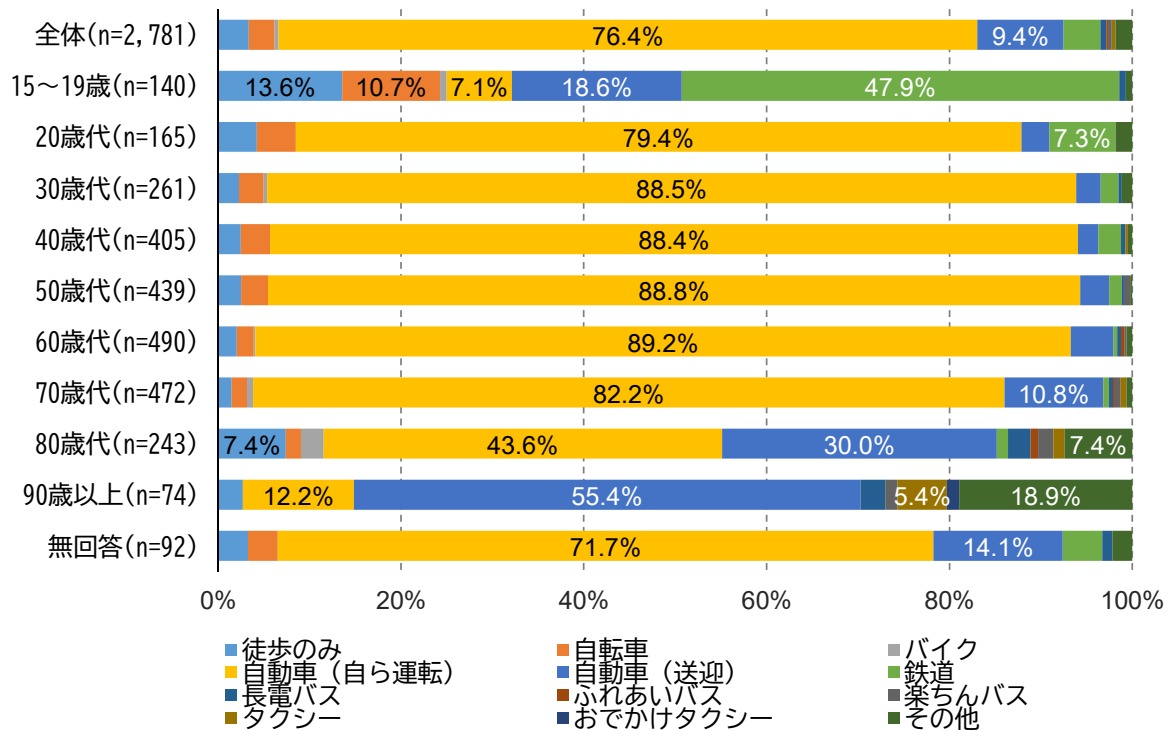


図 2-17 外出先への代表交通手段（平日） 年齢別構成

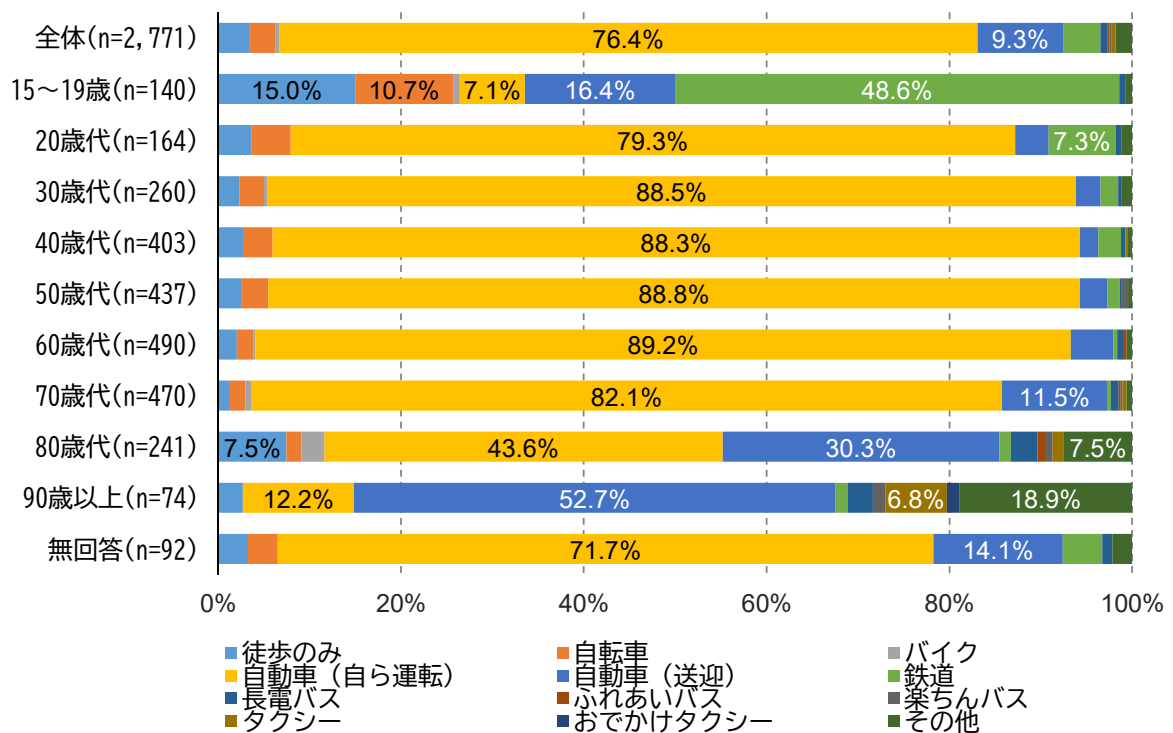


図 2-18 外出先からの代表交通手段（平日） 年齢別構成

③ 休日における代表的な外出行動・交通手段

1) 主な外出目的

- 休日の主な外出目的は、中野市では「買い物」が56%を占め、次いで「娯楽・習い事」が15%、「その他」が12%となっています。
- 山ノ内町では「買い物」が52%を占め、次いで「農作業」が14%、「娯楽・習い事」が14%となっています。
- 年齢別では、20～80歳代では「買い物」が約半数を占めています。
- 70歳代、80歳代では「農作業」の割合が他世代と比較して高くなっています。

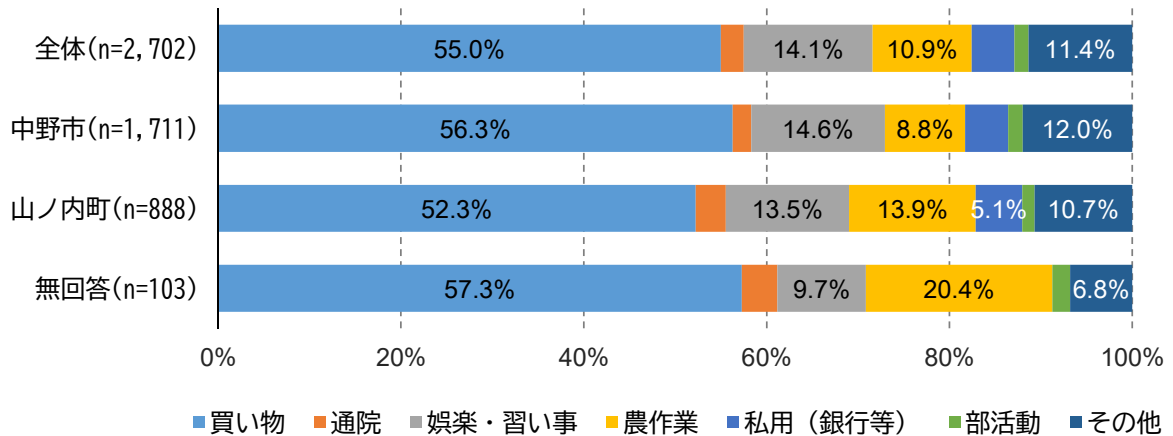


図 2-19 休日の主な外出目的

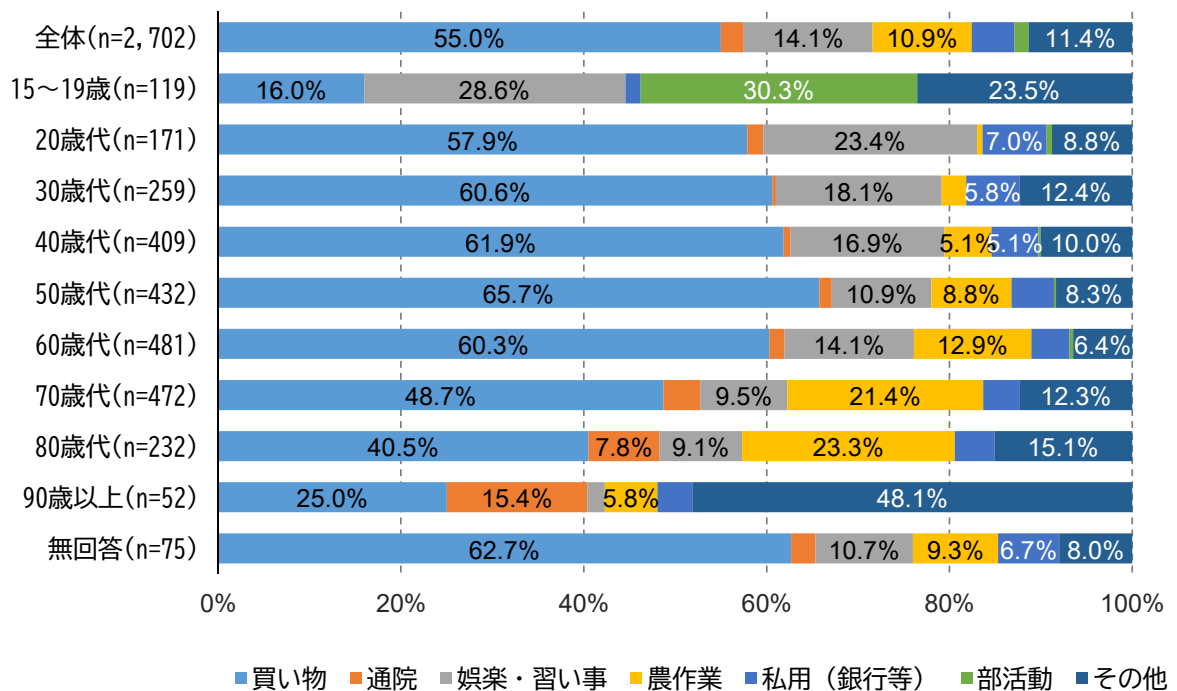


図 2-20 年齢別構成

2) 代表交通手段

- 休日の外出における代表交通手段は、中野市では行きと帰りの傾向は同様に、自動車（自ら運転）が約 8 割を占めており、自動車（家族による送迎）も 13% あります。
- 山ノ内町では行きと帰りの傾向は同様に、自動車（自ら運転）が約 8 割を占めており、自動車（家族による送迎）も 13% あります。
- 年齢別は、平日と同様に、自動車（自ら運転）が 20～70 歳代で 8～9 割程度、80 歳代でも約 5 割となっており、90 歳以上では自動車（家族による送迎）が多くなっています。
- 15～19 歳では平日と比較して自動車（家族による送迎）の割合が 17% 前後から 34% 程度に増加しています。

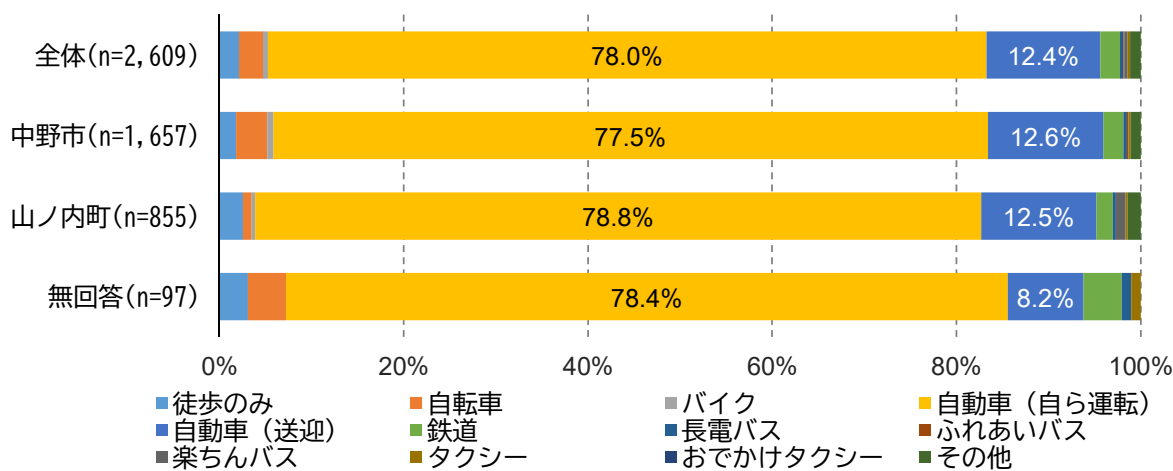


図 2-2 1 外出先への代表交通手段（休日）

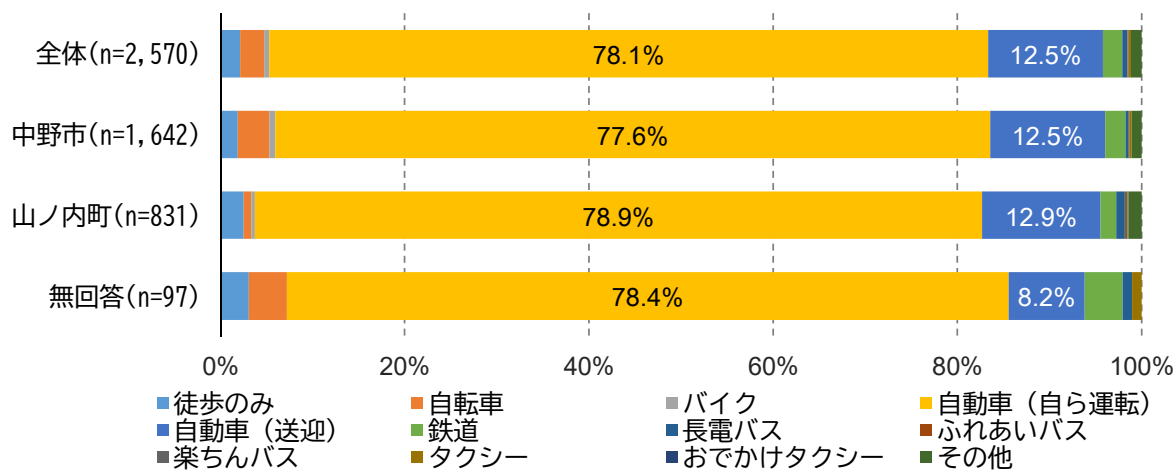


図 2-2 2 外出先からの代表交通手段（休日）

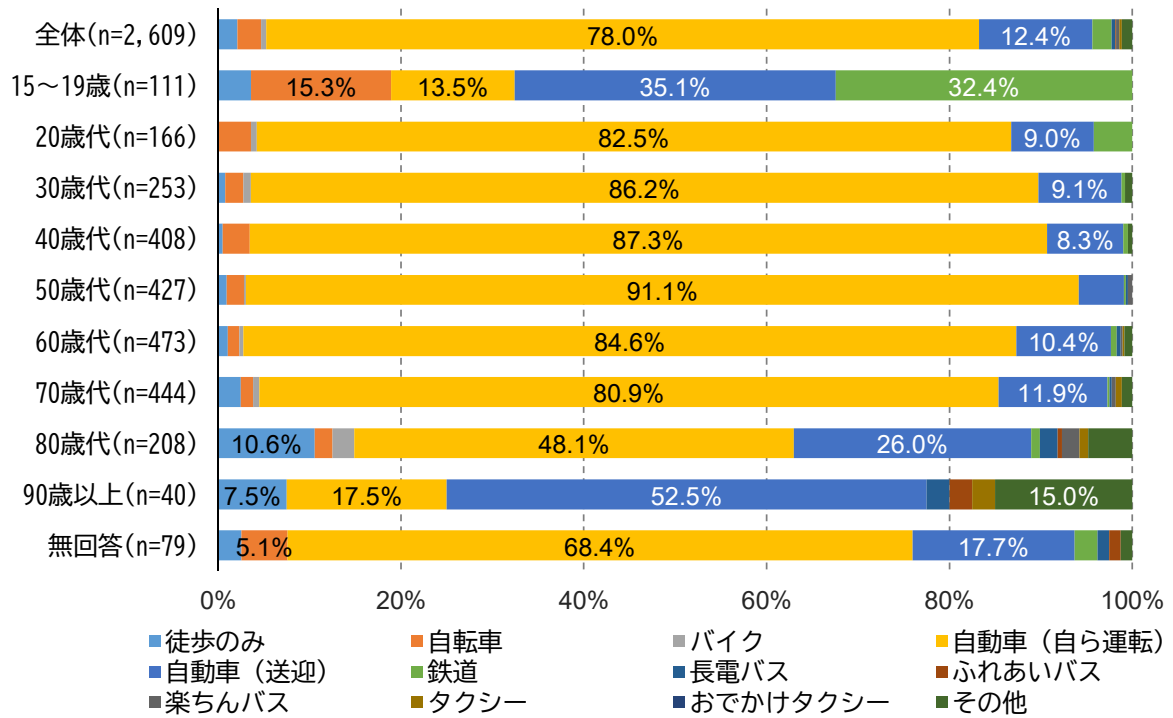


図 2-23 外出先への代表交通手段（休日） 年齢別構成

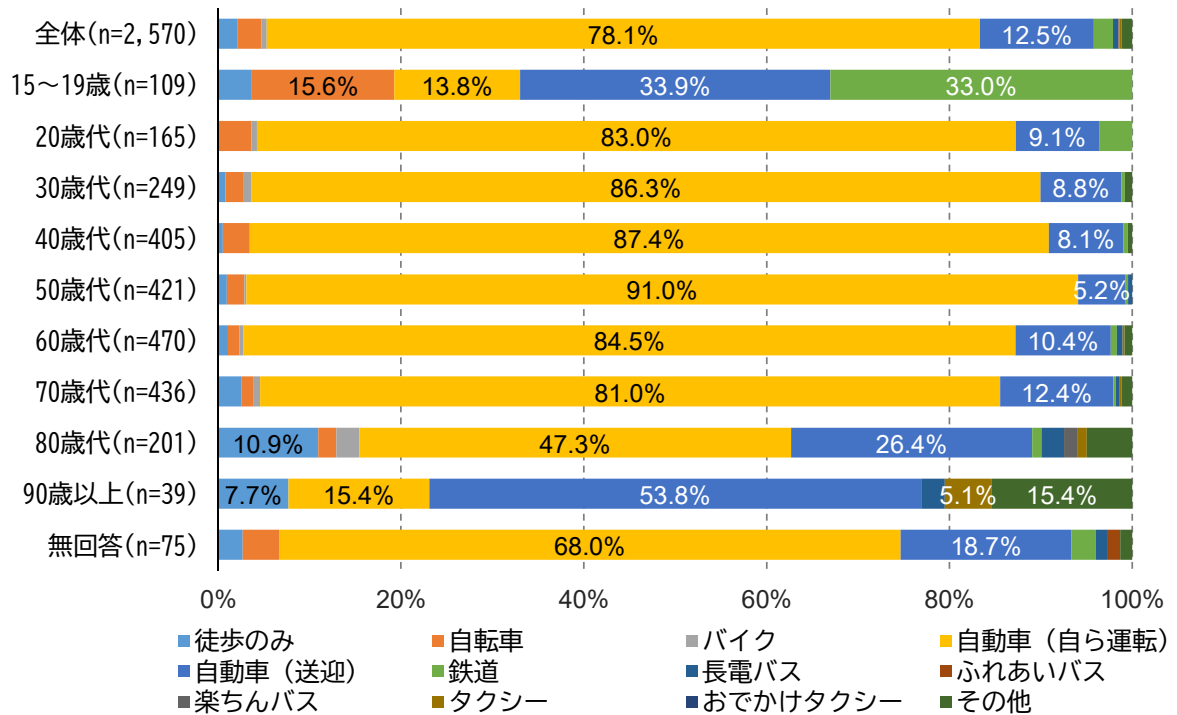


図 2-24 外出先からの代表交通手段（休日） 年齢別構成

④ 公共交通（鉄道を除く）を日常的に利用されている方への質問

1) 公共交通（鉄道を除く）を利用する理由（※2つまで回答）

- 日頃、移動に公共交通を利用される方の利用理由としては、中野市では「ほかに移動手段がないから」が24%で最も多く、次いで「便利だから」が15%、「目的地に早く着くから」「目的地までの公共交通があるから」が各々11%となっています。
- 山ノ内町では「ほかに移動手段がないから」が60%と過半数を占め、次いで「便利だから」が30%、「目的地までの公共交通があるから」が17%となっています。

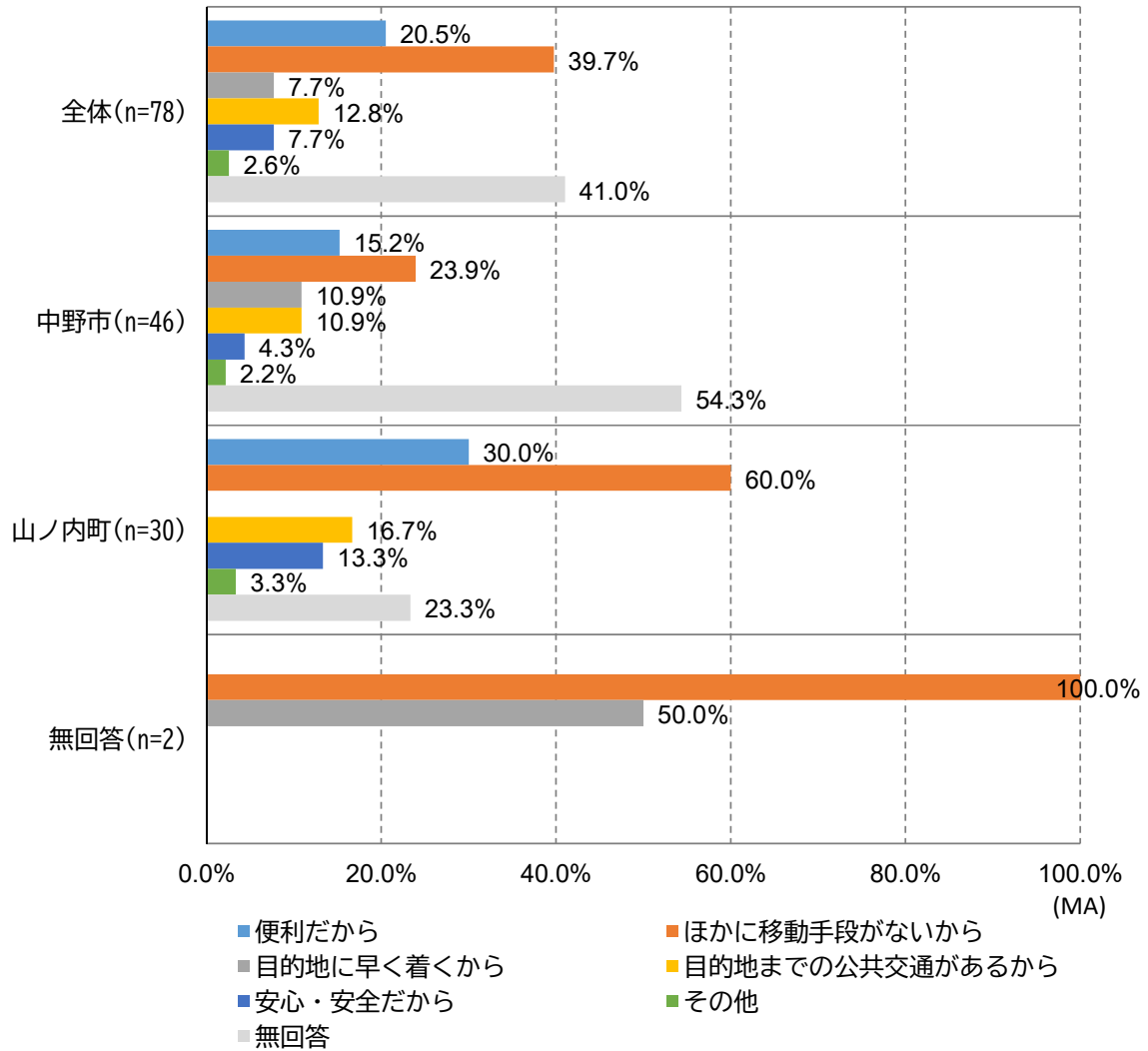


図 2-25 公共交通を利用する理由

2) 公共交通（鉄道を除く）に対する満足度

- 日頃、移動に公共交通を利用される方の公共交通の満足度は、中野市では「満足+やや満足」が44%、「普通」が6%、「不満+やや不満」が50%となっています。
- 山ノ内町では「満足+やや満足」が15%、「普通」が40%、「不満+やや不満」が45%となっています。
- 年齢別では、80歳代でのみ「満足」との回答があります。「不満」との回答は60～80歳代でのみ挙げられています。

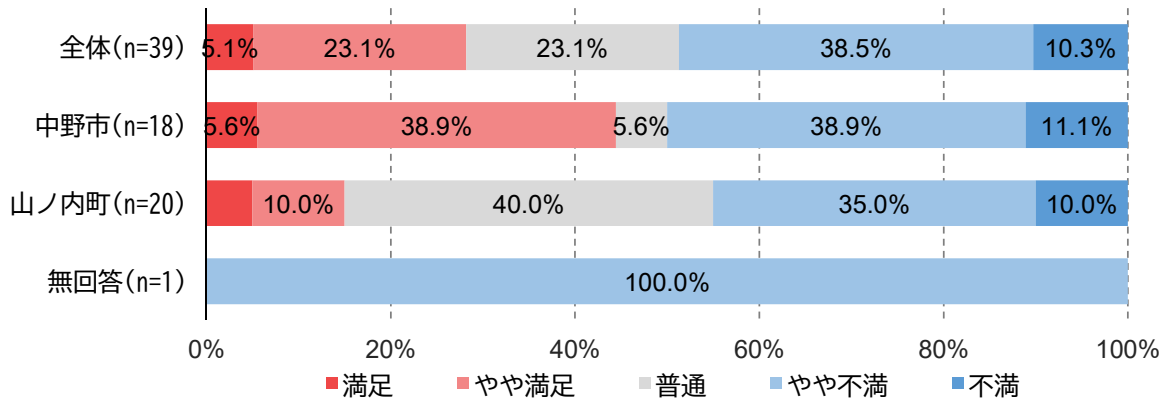


図 2-26 公共交通に対する満足度

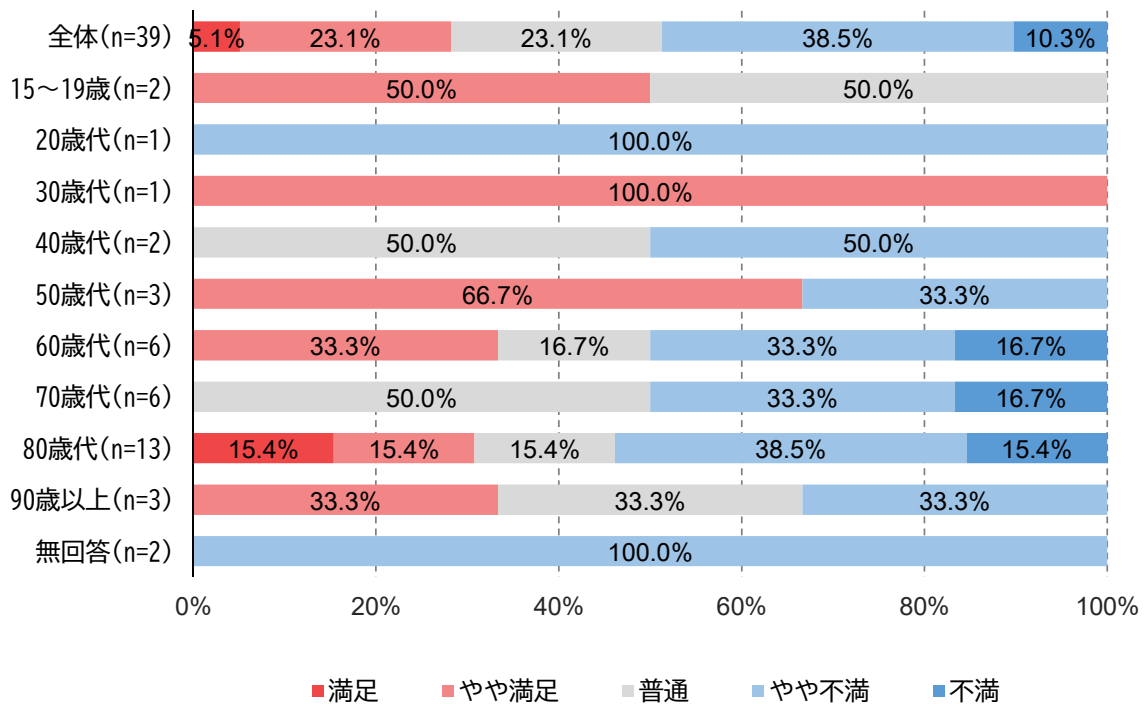


図 2-27 年齢別構成

3) 公共交通（鉄道を除く）に対して不満・やや不満な理由（※2つまで回答）

- 日頃、移動に公共交通を利用される方で、公共交通の満足度で「不満+やや不満」という回答の理由としては、中野市では「運行本数が少ない」が89%で最も多く、次いで「ルートが悪い」が33%、「運賃が高い」「ダイヤが悪い」が各々22%となっています。
- 山ノ内町では「運行本数が少ない」が100%で最も多く、次いで「鉄道との接続が悪い」が33%、「バス停まで遠い」「運賃が高い」「バス車両が悪い」が各々11%となっています。

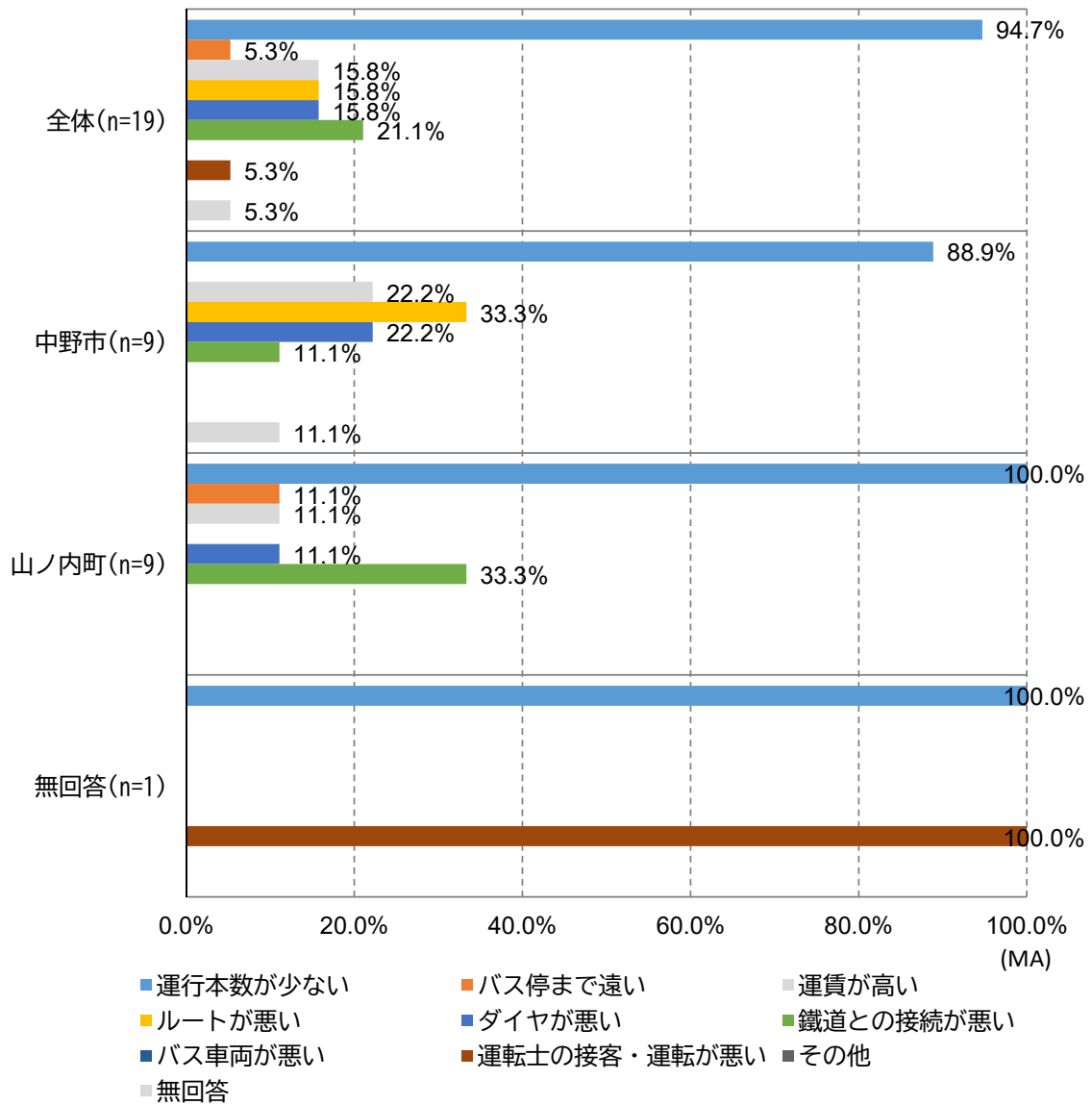


図 2-28 公共交通に対する不満足の原因

⑤ 公共交通（鉄道を除く）をほとんど利用しない方への質問

1) 公共交通（鉄道を除く）をほとんど利用しない理由（※2つまで回答）

■日頃、公共交通を利用しないかの利用しない理由としては、中野市では「バス以外の移動手段があるから」が65%を占め、次いで「運行本数が少ないから」が13%、「荷物を持って移動するのが大変だから」が12%となっています。

■山ノ内町では「バス以外の移動手段があるから」が67%を占め、次いで「運行本数が少ないから」「荷物を持って移動するのが大変だから」が各々13%となっています。

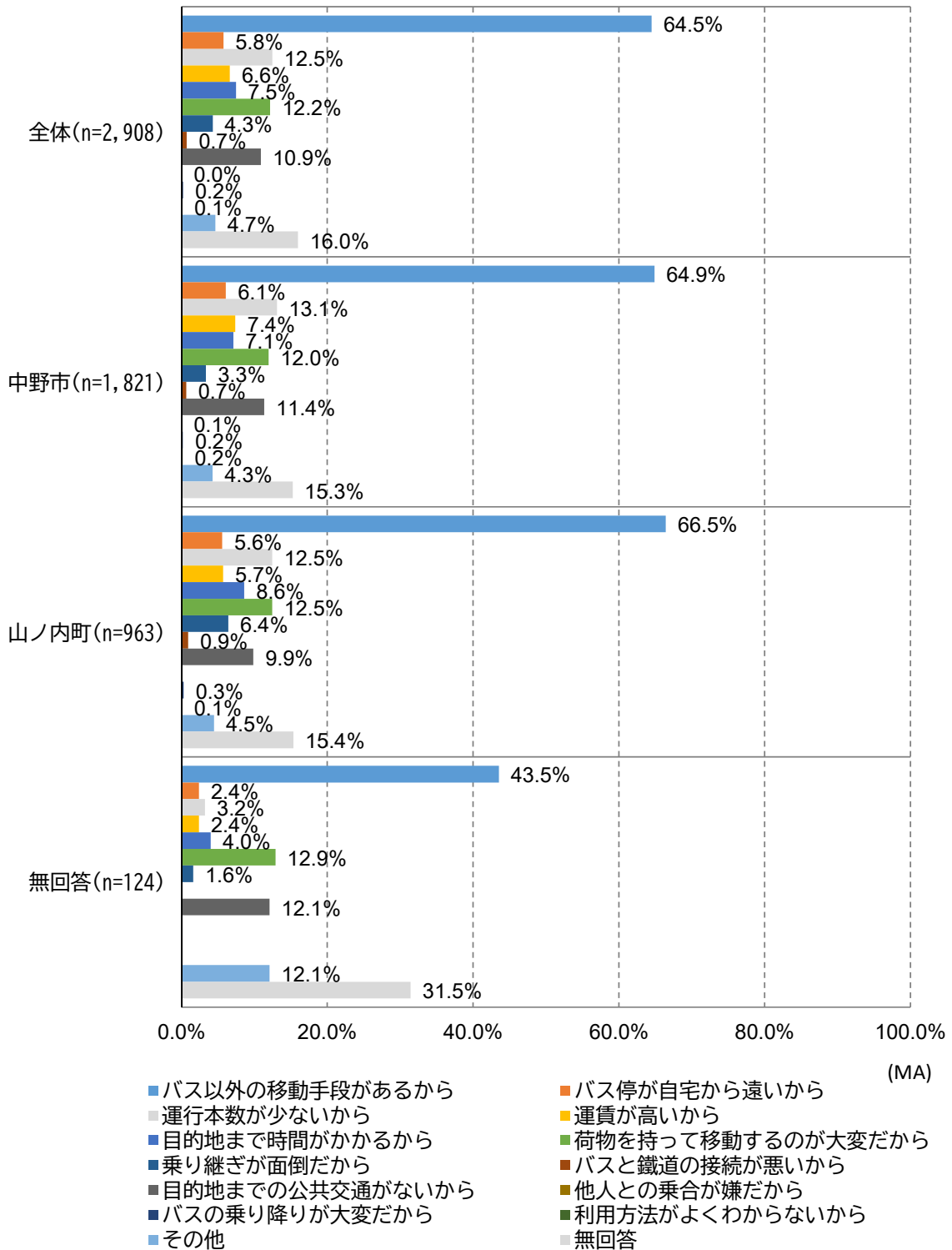


図 2-29 公共交通をほとんど利用しない理由

⑥ 公共交通に対する行政負担金額についての考え

- 公共交通に対する行政負担額について、中野市では「わからない」が41%と最も多くなっています。具体的に寄せられた回答としては「妥当な金額だと思う」が26%、「行政負担はもっと少なくすべき」が16%と、現状以下とする回答が約4割を占めています。
- 山ノ内町では「わからない」が41%と最も多くなっています。具体的に寄せられた回答としては「妥当な金額だと思う」が28%、「行政負担はもっと少なくすべき」が15%と、現状以下とする回答が約4割を占めています。

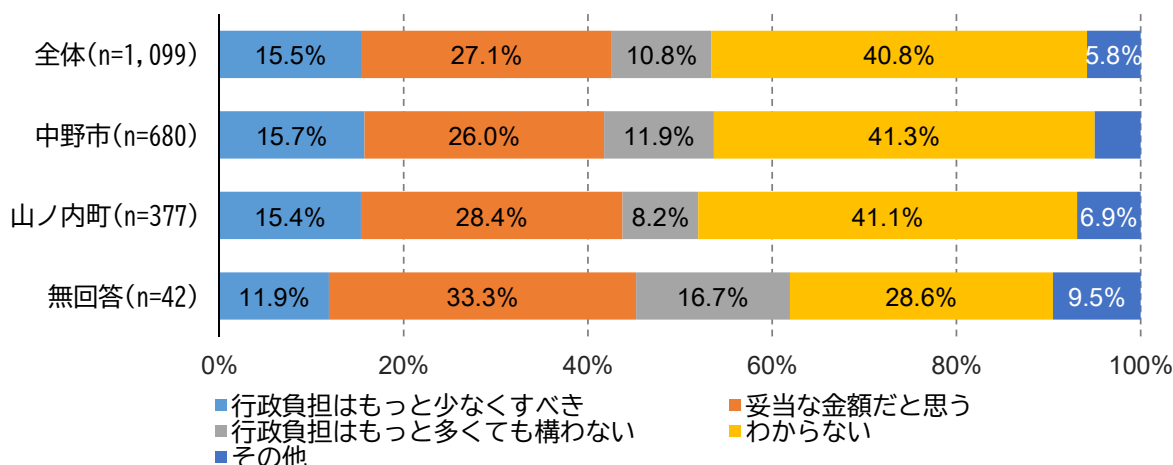


図 2-30 行政負担金額について

⑦ 地域を走るバスへの今後の対応として、あなたの考えに最も近いもの

- 今後のバスへの対応としては、中野市では「路線の再編や運行本数の見直しによって運行の効率化を図るべきだ」が35%で最も多く、次いで「地域を走るバスは大切であるので、現状の運行本数と路線は維持すべきだ」が33%となっています。
- 山ノ内町では「地域を走るバスは大切であるので、現状の運行本数と路線は維持すべきだ」が38%で最も多く、次いで「路線の再編や運行本数の見直しによって運行の効率化を図るべきだ」が28%となっており、中野市と比較すると現状維持または拡大の方向での意見が若干多くなっています。

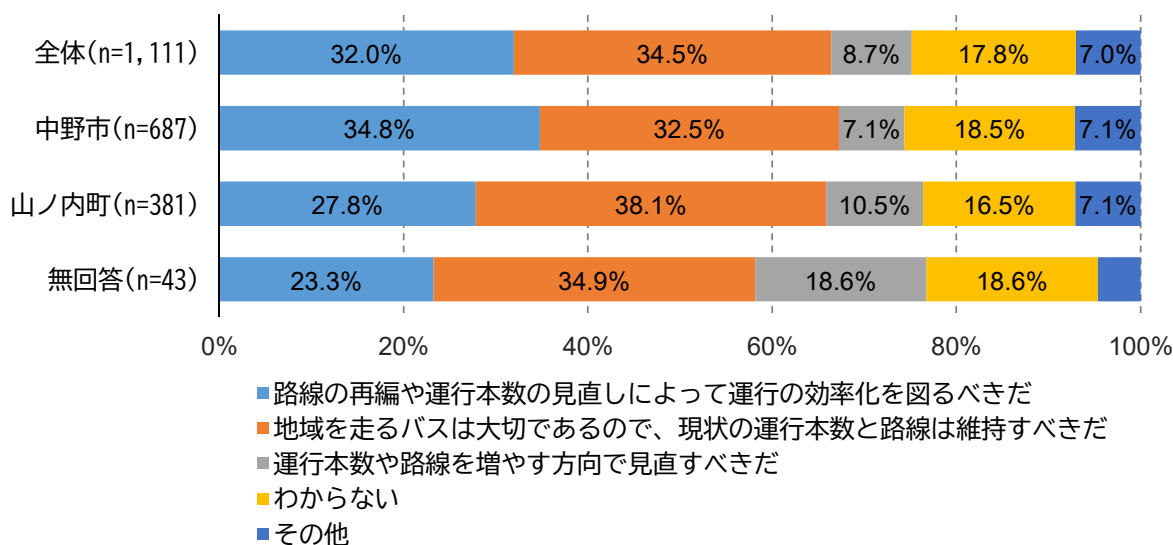


図 2-31 地域を走るバスへの今後の対応

⑧ 家族にとっての地域を走るバスの役割

- 家族にとっての地域を走るバスの役割は、中野市では「現在は特に必要としていないが、将来的には必要な移動手段になると思う」が72%で最も多く、次いで「現在も将来も特に必要になると思わない」が16%、「現在でも必要不可欠で、重要な移動手段である」が8%となっています。
- 山ノ内町では「現在は特に必要としていないが、将来的には必要な移動手段になると思う」が75%で最も多く、次いで「現在でも必要不可欠で、重要な移動手段である」が12%、「現在も将来も特に必要になると思わない」が11%となっています。
- 地区別では、中野市倭地区・豊津地区、山ノ内町北部地区では、他地区と比べて「現在でも必要不可欠で、重要な移動手段である」の割合が高くなっています。

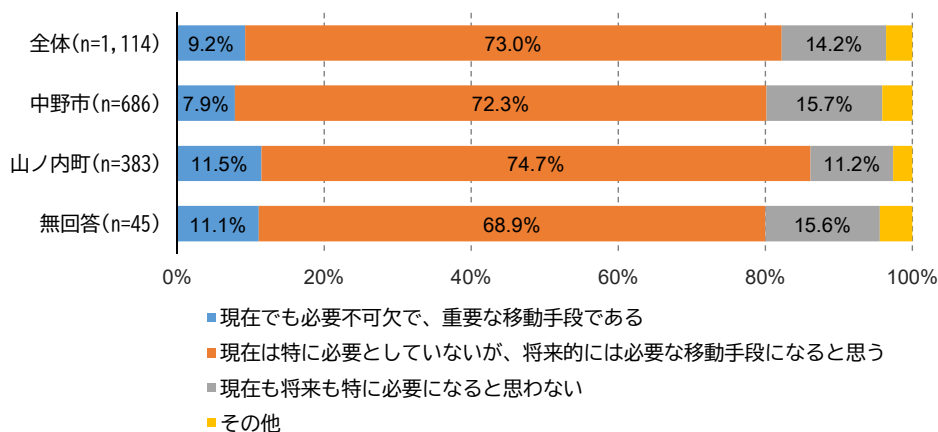


図 2-32 家族にとっての地域を走るバスの役割

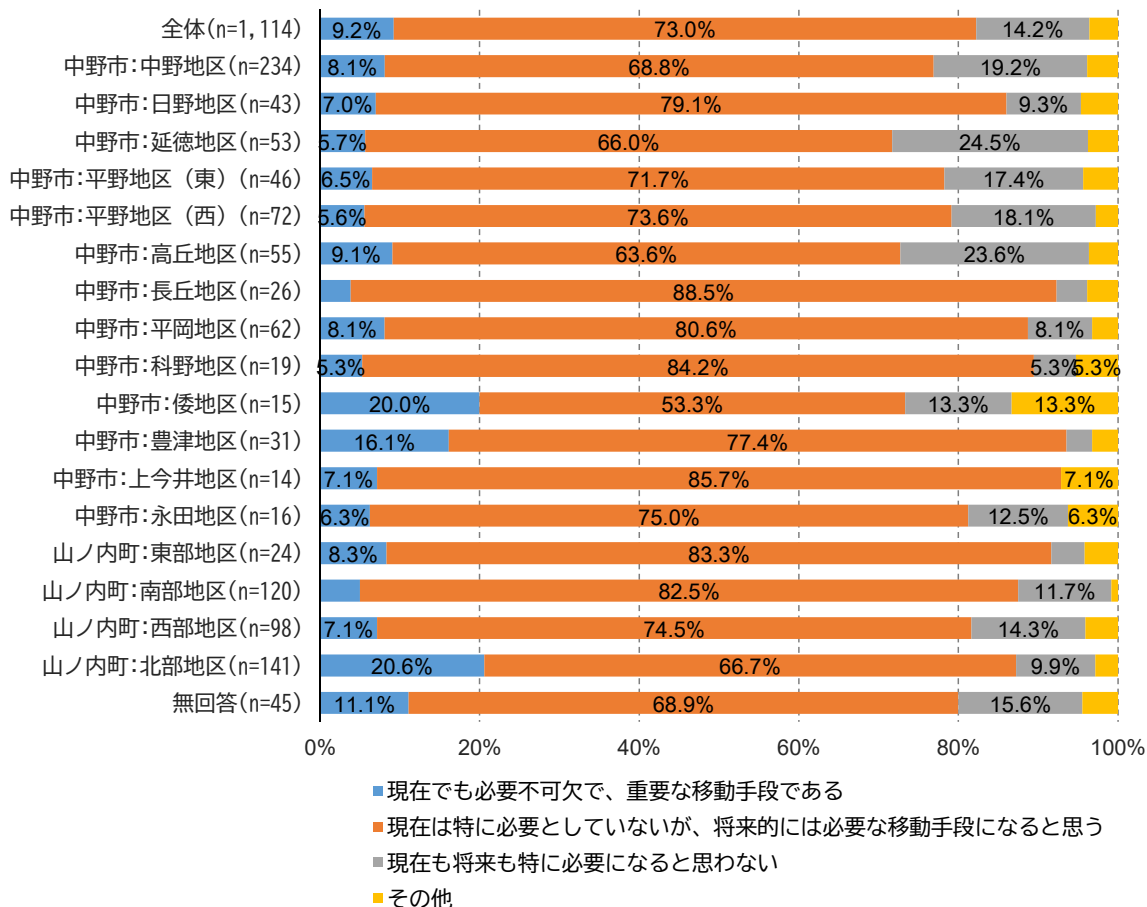


図 2-33 地区別構成

⑨ 地域を走るバスへの要望やアイデア（※複数回答）

- 地域を走るバスへの要望やアイデアは、中野市では「わかりやすい路線図・時刻表の配布」が22%と最も多く、次いで「PC やスマホで運行情報が確認できる」が19%、「IC カードや電子マネーで支払いができる」が11%となっています。
- 山ノ内町では「わかりやすい路線図・時刻表の配布」が19%と最も多く、次いで「PC やスマホで運行情報が確認できる」が14%、「運行ルートの変更」「その他」が各々13%となっています。
- 山ノ内町で寄せられた「その他」の具体的な内容としては、楽ちんバスの中野市への直通運行についての意見が多くなっています。

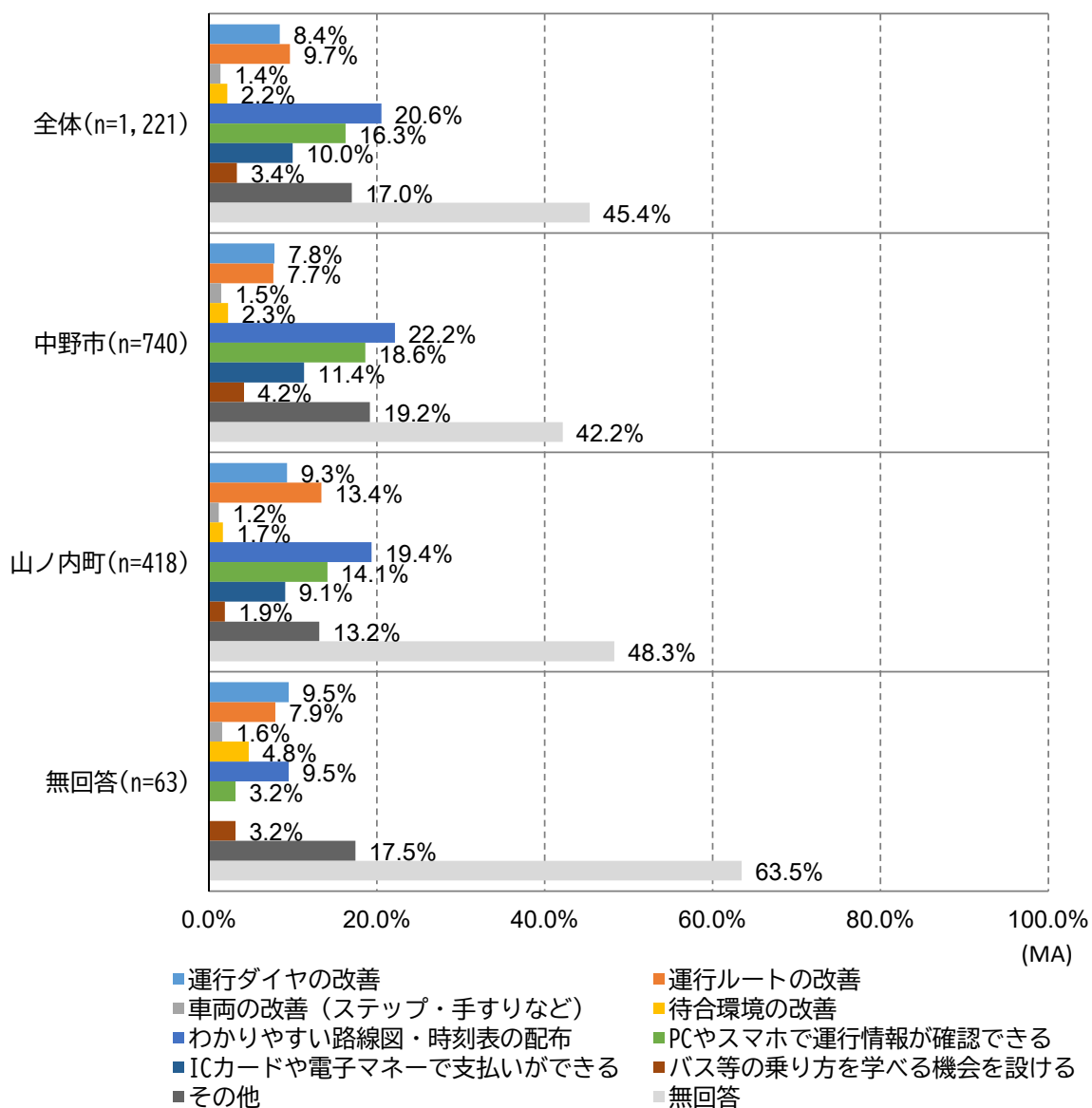


図 2-34 地域を走るバスへの要望

⑩ 両市町の相互乗り入れについて、新たに乗り入れを行なってほしい区間

- 両市町の相互乗り入れについては、中野市では「現在、相互乗り入れしている電車とバス路線で十分である」が97%を占めています。
- 山ノ内町では「現在、相互乗り入れしている電車とバス路線で十分である」が70%、「今あるバス路線のルート以外で相互乗り入れを行なって欲しい区間がある」が30%となっています。
- 地区別では、山ノ内町北部地区では「今あるバス路線のルート以外で相互乗り入れを行なって欲しい区間がある」が56%を占めています。

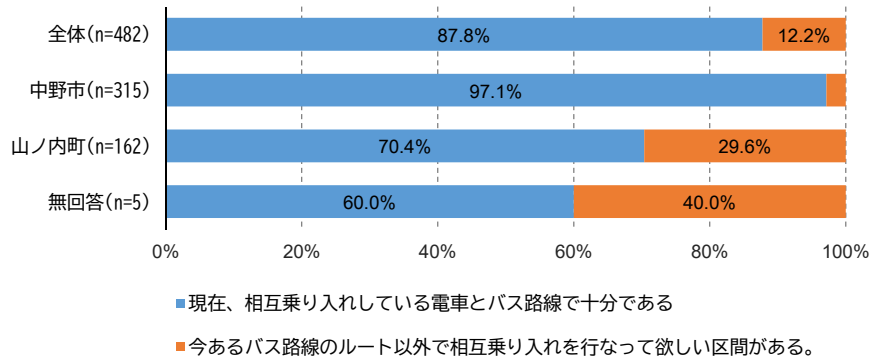


図 2-35 相互乗り入れについて

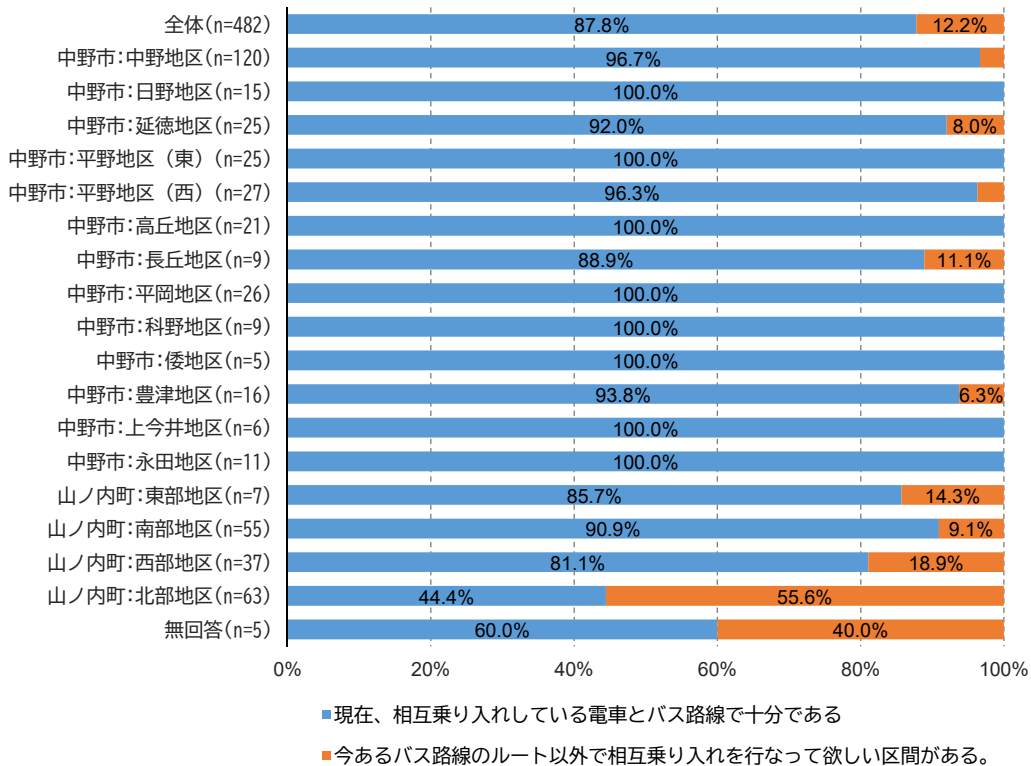


図 2-36 地区別構成

【相互乗り入れを行なってほしい区間・ルート (具体的回答)】 ※意見集約

- ・山ノ内町須賀川地区と中野市を乗り換え無しで結ぶルート
- ・山ノ内町西部地区と中野市を結ぶルート
- ・山ノ内町と間山温泉公園を結ぶルート
- ・山ノ内町と飯山駅を結ぶルート
- ・中野市～山ノ内町～木島平を結ぶルート

2-2. バス利用者アンケート調査

(1) バス利用者アンケート調査概要

① 調査日、配布・回収方法

・調査日：

2021年10月19日（火）：立ヶ花線、菅線、上林線、永田線

2021年10月21日（木）：奥志賀高原、白根火山線

2021年10月26日（火）：合庁線、中野木島線

・配布回収方法：バスへの乗り込みによる調査

② 調査内容

調査は、各路線の始発から最終便までの全運行便に調査員が乗り込み、利用者の方へアンケートを配布・回収またはヒアリングを行なった。バスの利用目的や頻度、改善要望など、次頁以降に掲載したアンケート調査票により調査を行った。

③ 回収状況

配布・回収数及び回収率は以下のとおりである。

回収数：299件

・間山線	：14件
・倭・科野地区	：7件
・中野木島線	：93件
・合庁線	：29件
・立ヶ花線	：10件
・菅線	：19件
・上林線	：50件
・永田線	：24件
・奥志賀高原線	：8件
・白根火山線	：29件
・楽ちんバス西・北部ルート	：13件
・楽ちんバス南部ルート	：3件

【アンケート集計及び結果における留意事項】

※1：アンケート集計は、居住地、年齢などの基本属性にかかわる設問及び複数回答可能な設問については無回答も集計対象とするが、意識や行動に係る問2以降における無回答は集計対象外とした。

※2：構成比は、四捨五入、端数処理により100%とならないことがある。

※3：グラフにおける「n=」は有効回答者数を示す。

※4：グラフにおける「MA」は複数回答可能な設問であることを示す。

※5：クロス集計で5%未満はグラフ中の数値表示を省略した。

※6：記述式の回答結果は適宜要約して掲載した。

『バス利用者アンケート調査』にご協力をお願いします

中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会（中野市役所 総務部 政策情報課内）

調査員記入欄 調査路線名 _____ 始発バス停名 _____ 出発時刻 _____ : _____ 発

お住まい（1つに○をつけてください）

- ① 中野市 ② 山ノ内町 ③ 飯山市 ④ その他（ ）

年齢（1つに○をつけてください）

- ① 15歳未満 ② 15～19歳 ③ 20歳代 ④ 30歳代 ⑤ 40歳代
⑥ 50歳代 ⑦ 60歳代 ⑧ 70歳代 ⑨ 80歳代 ⑩ 90歳以上

本日の主な目的地をご記入ください ※差し支えない範囲でご回答ください

目的地（ ） ※例えば、〇〇高校、〇〇病院、〇〇スーパーなど

このバスの利用目的（1つに○をつけてください）

- ① 通勤 ② 通学 ③ 買い物 ④ 通院 ⑤ 娯楽・習い事
⑥ 営業・業務 ⑦ 私用（銀行等） ⑧ 観光 ⑨ その他（ ）

このバスの利用頻度（1つに○をつけてください）

- ① ほぼ毎日 ② 週に3～5日 ③ 週に1～2日 ④ 月に数日
⑤ 年に数日 ⑥ ほとんど利用しない ⑦ その他（ ）

このバスの満足度（1つに○をつけてください）

- ① 満足 ② やや満足 ③ 普通 ④ やや不満 ⑤ 不満

このバスの改善要望（改善要望がある項目についてご記入ください。複数回答可能。）

- ① ダイヤの改善：（時間： ）時頃に増やしてほしい。
② ルートの変更：（場所： ）に行ってほしい。
③ バス停の増設：（場所： ）付近にバス停がほしい。
④ 乗り継ぎ改善：（路線・駅： ）に乗り継ぎたい。
⑤ 車両の改善：（設備等： ）がほしい。（ステップ・手すりなど）
⑥ その他 ：（ ）

中野市と山ノ内町の公共交通について、ご意見・ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました

(2) バス利用者アンケート調査結果

① 居住地

- 居住地構成は、運行している地域住民における利用が多くなっています。
- 中野木島線や合庁線では、飯山市やその他地域からの利用が半数程度となっています。
- 奥志賀高原線・白根火山線では観光客による利用（その他）が多くみられます。

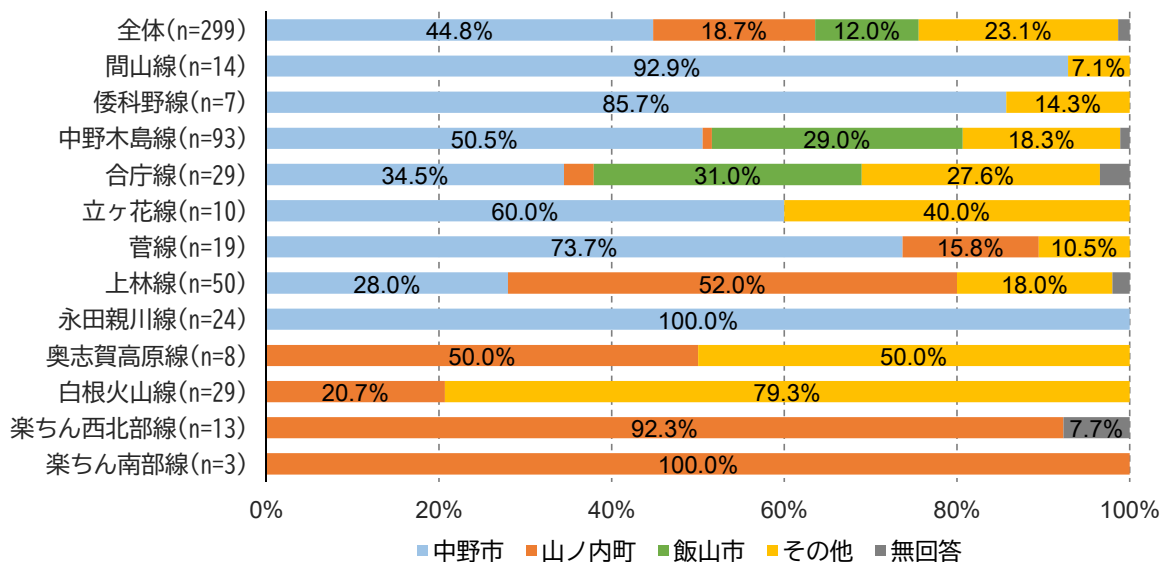


図 2-37 居住地構成

② 年齢

- 年齢構成は、全体では60歳以上が概ね半数を占めており、15～19歳も21%と多くなっています。
- 中野木島線と立ヶ花線では15～19歳の利用が50%弱～80%を占めています。

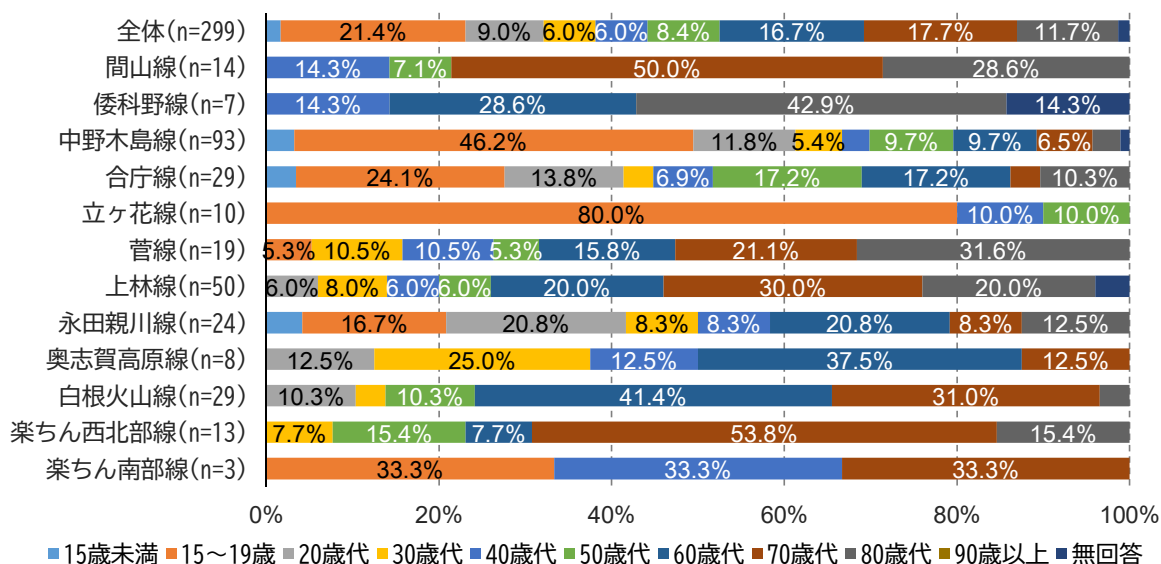


図 2-38 年齢構成

③ 主な目的地

■主な目的地では、イオン中野店が最も多く20件で、次いで北信病院が17件、信州中野駅で16件となっています。

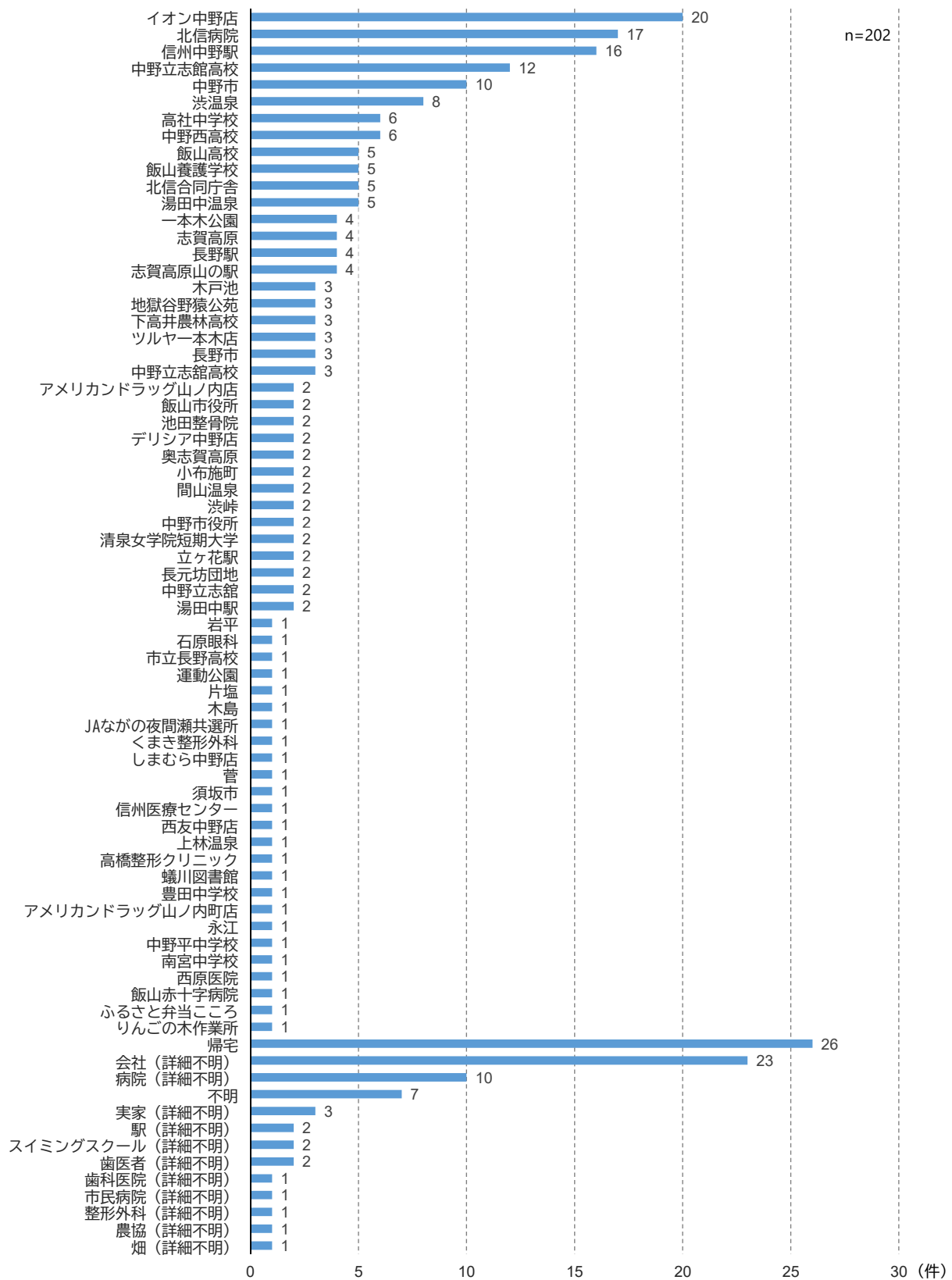


図 2-39 主な目的地

④ バスの利用目的

- バスの利用目的は、全体では通勤・通学が合わせて47%、買い物と通院が16%となっています。
- 中野木島線と立ヶ花線では通学目的での利用が多く、奥志賀高原線と白根火山線では観光での利用が多くなっています。

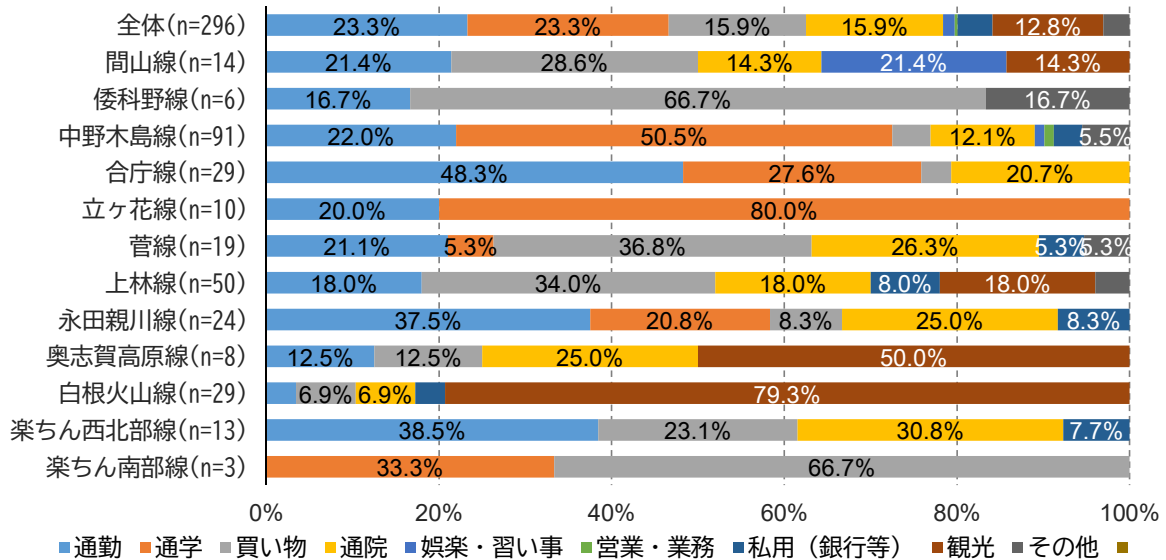


図 2-40 利用目的構成

⑤ バスの利用頻度

- バスの利用頻度は、全体では、ほぼ毎日が33%、週に3~5日が19%、週に1~2日が18%となっています。
- 中野木島線と立ヶ花線では通学目的での利用が多いことから、ほぼ毎日の割合が高くなっています。

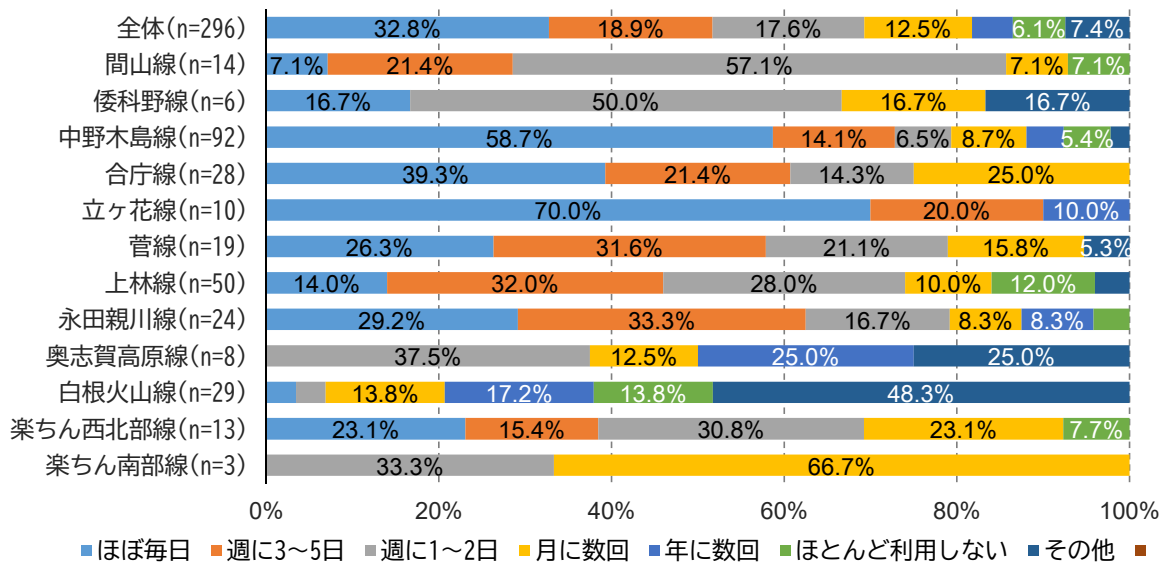


図 2-41 利用頻度構成

⑥ 乗車しているバス路線の満足度

- バス路線の満足度は、全体では満足（満足とやや満足の合計）が66%と過半数を占めており、やや不満が5%未満、不満との回答はありませんでした。
- 楽ちんバスでは他路線に比べてやや不満の割合が高くなっています。

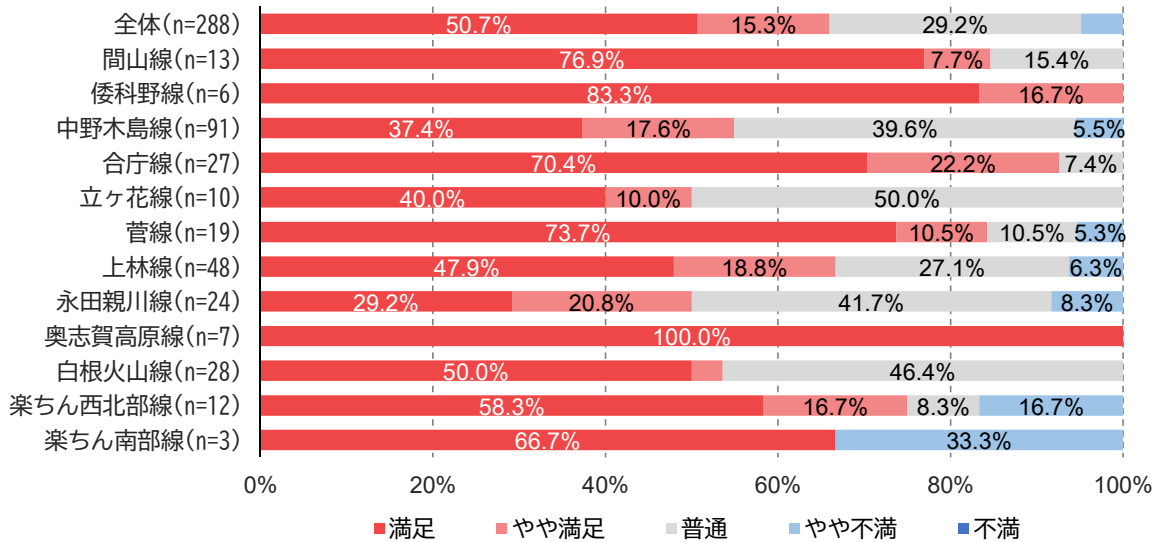


図 2-4 2 満足度

⑦ 乗車しているバス路線への改善要望

■増便に関する要望

- 増便要望で最も多かった時間帯は、全体では15時台であった。
- 路線別では様々な時間帯について意見が寄せられている。

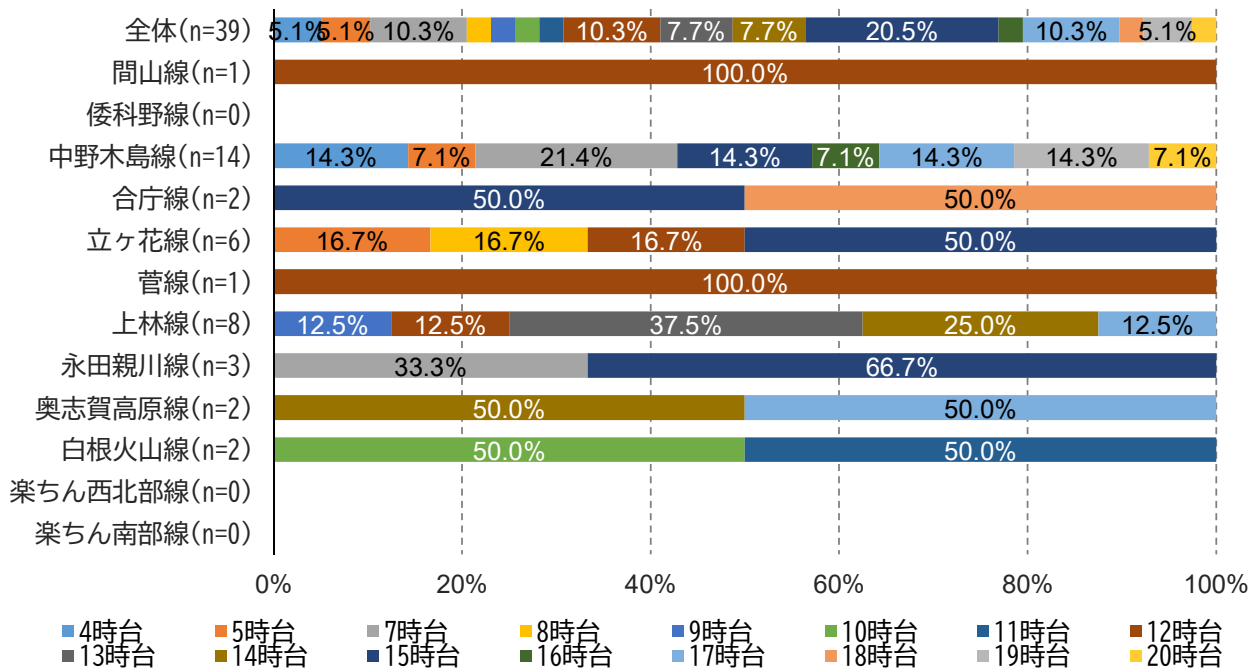


図 2-4 3 増便してほしい時間帯

- その他の改善要望は下記のとおりです。
- 定時運行や増便についての意見が多く寄せられています。
- 鉄道駅へ接続する路線では乗り継ぎ改善についての要望が挙げられています。

■ルート変更に関する要望【路線名：経由希望のルート】

- ・奥志賀高原線：神林→中野
- ・中野木島線：農林高校
- ・中野木島線：木島を経由しないで直接中野

■バス停の増設に関する要望【路線名：バス停を増設してほしい場所】

- ・中野木島線：飯山高校

■乗り継ぎ改善に関する要望【路線名：乗り継ぎを改善してほしい路線・駅】

- ・白根火山線：蓮池から白根山まで
- ・永田親川線：替佐駅 飯山線 バスと電車あわせてほしい。
- ・永田親川線：飯山線
- ・倭科野線：木島まで延ばしてほしい。
- ・上林線：上林 中野
- ・中野木島線：JR 普通飯山線での乗り継ぎ時間を多くしてもらいたい。
- ・中野木島線：中野駅、飯山駅に余裕をもって乗り継ぎたい。

■車両改善に関する要望【路線名：改善してほしい設備等】

- ・永田親川線：ステップ
- ・菅線：座席が小さいのもう少し広くしてほしい。
- ・合庁線：ステップ
- ・中野木島線：ステップ

■その他要望【路線名：改善してほしい設備等】

- ・白根火山線：一日の本数が多くなるのか。
- ・永田親川線：定時運行してほしい。
- ・菅線：接客を向上してほしい。
- ・立ヶ花線：1時間に1本のバスを動かしてほしい。
- ・立ヶ花線：なるべく時間通りに来てほしい。
- ・間山線：バス停に屋根がほしい。屋根があっても雨漏りしたりベンチがなかったりする。
- ・中野木島線：本数を増やしてほしい。(2件)
- ・中野木島線：乗り物酔いしてしまうので横向きの席をなくしてほしい。
- ・中野木島線：定時運行してほしい。

■自由記述

■自由記述では、前述の改善要望と同様に増便についてのご意見が比較的多くなっています。

【回答（路線名：記述内容）】

- ・楽ちん西北部線：中野まで行ってほしい。（4件）
- ・楽ちん西北部線：お昼の便を増やしてほしい。
- ・楽ちん南部線：土日も運行してほしい。
- ・白根火山線：ツルヤに待ち合い所みたいな屋根付があるといい。
- ・白根火山線：バス本数が少ないので増やしてほしい。
- ・上林線：乗り継ぎしないでいいように1本化してもらいたい。
- ・上林線：1時間に1本ほしい。（2件）
- ・上林線：アンケート調査方法を工夫してはどうか。
- ・上林線：ICカードが使えるようになったらいいと思う。
- ・上林線：志賀高原の便が減ったのが不満。
- ・上林線：電車との接続を改善（増やして）欲しい。（2件）
- ・永田親川線：なくてはならない交通機関だと思います。なくさないでほしい。
- ・倭科野：回数券を販売してほしい。
- ・倭科野：現状維持でありがたい。（2件）
- ・倭科野線：上下線に両側にバス停がほしい。片側でわからなかった。
- ・間山線：雨漏りや壊れていたり汚れていて座れないイスを改善してほしい。
- ・間山線：土曜日に走ってもらうとうれしいです。（2件）
- ・間山線：本数を増やしてほしい。
- ・合庁線：乗車する人が少ないので、もっと小さなバスでいい。
- ・合庁線：本数がもっとほしい。
- ・中野木島線：席を増やしてほしい。
- ・中野木島線：本数を増やしてほしい。（4件）
- ・中野木島線：少ないバスでいいので遠回りしないで行けるようにしてほしい。
- ・中野木島線：割り引きがないのであるとうれしい。
- ・中野木島線：午前中の飯山線への乗り継ぎを改善してほしい（増便してほしい）。

3. 第2次中野市地域公共交通総合連携計画の検証

(1) 施策・事業の実施状況

中野市の前回計画における施策・事業の実施状況を以下に整理しました。

ほとんどの施策・事業において実施段階または実施・達成されています。

■バス路線再編事業

路線 ※計画策定時の名称	施策・事業の内容	実施状況	
		評価	内容
立ヶ花線	現在の運行形態を維持することを基本とするが、他の路線と一体となった、効率的な運行について検討する。	○	計画策定時の運行形態を維持している。永田線との連携等の可能性を検討したが実施には至っていない。
間山線	現在の基本的なサービスレベルを維持しつつ、専用車両による「ふれあいバス（倭・科野地区）」との連結運行を実施し、運行の効率化及び利便性の向上を図る。	◎	2016年より専用車両によってふれあいバス間山線としての運行を開始し、合わせてふれあいバス倭・科野地区との直通運行を開始した。
菅・角間線 須賀川線 上林線	中野市内重複部区間の見直しについて、山ノ内町及び関係者と協議を行う。	◎	2017年に須賀川線が廃止となり、中野市内の重複が一部解消した。 ※菅・角間線は山ノ内町内での経路変更により2017年より菅線として運行。
合庁線	現在の運行形態の維持	◎	計画策定時の運行形態を維持している。
永田線	現在の運行形態を維持することを基本とするが、他の路線と一体となった、効率的な運行について検討する。	○	計画策定時の運行形態を維持している。立ヶ花線やふれあいバス豊田地域との連携等の可能性を検討したが実施には至っていない。 ※現在は永田・親川線に名称変更
中野木島線	現在の運行形態の維持を基本とするが、路線が分かれる区間については、今後の利用実態を見ながら、補助対象路線となるように、必要な見直しを検討する。	○	計画策定時の運行形態を維持しているが、運行ルートの変更は行っていない。
倭・科野地区	利便性を高めるために、専用車両による運行を開始する。また、「間山線」との連結運行により、運行の効率化及び利便性の向上を図る。	◎	2016年より専用車両による運行を開始し、合わせて間山線との直通運行を開始した。
豊田地域	現在の運行形態を維持することを基本とするが、永田線が運行していない地域の実情を踏まえ、他の路線と一体になった、効率的な運行について検討する。	○	計画策定時の運行形態を維持している。永田線との連携等の可能性を検討したが実施には至っていない。
お出かけタクシー	現在の運行エリアの維持	◎	計画策定時の運行エリアを維持している。
共通	利用状況調査を行い、評価・検証、改善・見直し	○	2016年、2017年、2019年に利用状況調査・評価・検証を実施。

※実施状況 「◎」：(概ね) 実施・達成 「○」：実施段階 「△」：未実施または検討段階

■お出かけタクシーの維持に伴う事業

施策・事業の内容	実施状況	
	評価	内容
料金及び運行便数の適正化	◎	2016年10月1日より1便500円に改正した。

※実施状況 「◎」：(概ね) 実施・達成 「○」：実施段階 「△」：未実施または検討段階

■鉄道の維持・活性化に伴う事業

施策・事業の内容	実施状況	
	評価	内容
信越自然郷、各沿線協議会及び観光施設等と連携した鉄道の利用促進	◎	バラまつり等のイベント企画切符の発売 観光列車を活用した観光PR
駅舎などの駅関連施設の適正な維持	◎	駅隣接の公衆トイレについて、清掃委託 松川駅の駅舎及び外構改修(予定)
パークアンドライド駐車場の維持・整備	◎	上今井駅に約100台が駐車可能な駐車場を整備
JR替佐駅の駅業務委託	◎	乗車券発売及び観光案内等について業務委託

※実施状況 「◎」：(概ね) 実施・達成 「○」：実施段階 「△」：未実施または検討段階

■バス運行環境の整備及び利便性の向上に伴う事業

施策・事業の内容	実施状況	
	評価	内容
主要なバス停におけるバス停整備やベンチの設置	◎	イオン中野店やセブンイレブン中野市豊津店等にベンチを設置
市民がデザインしたバス停標識の設置や、ふれあいバスのラッピングの実施	◎	ふれあいバス車両の2台を中野西高校及び中野立志館高校の生徒のデザインヘラッピング
鉄道とバスの乗り継ぎ割の実施	◎	長野電鉄と長電バスの乗継定期券の販売
公共交通を利用してまちなかへ出かける仕組みづくり	◎	シルバー乗車券の配布 菅線の年末特別運行 ふれあいバス無料デーの実施
公共交通に関する交通マップ、時刻表を作成し、全戸及び主要施設へ配布	◎	中野市公共交通マップ/時刻表を作成し、全戸及び病院等の主要施設へ配布し、HPへ掲載
バス停の位置情報等をスマートフォンアプリ等で活用できるオープンデータとして公開	◎	ナビゲーションサービス提供事業者へバス停の位置情報を提供することで、県が公開している観光・交通アプリである「信州ナビ」等のナビゲーションサービスにおいて、バス停の位置情報を確認可能

※実施状況 「◎」：(概ね) 実施・達成 「○」：実施段階 「△」：未実施または検討段階

■公共交通の利用促進・啓発に伴う事業

施策・事業の内容	実施状況	
	評価	内容
市職員の公共交通等への切り替え推進	○	スマートエコ通勤デーを設定し、職員へ公共交通機関の利用啓発
市内の高校へ公共交通利用の働きかけ	△	—
ワークショップ等の開催	△	—
事業者と連携したノーマイカーデーの実践	◎	県下一斉「信州スマートムーブ通勤ウィーク」の実施
公共交通に関する情報の広報への掲載	◎	市広報誌等に掲載
市内の小・中学生を対象にした、乗り方教室等の公共交通に関するイベントの実施	◎	小学生を対象にバスの乗り方教室を開催
高齢者を対象として、運転免許証返納メリット制度の導入	◎	運転免許自主返納者へ中野市で契約する公共交通機関及びタクシー乗車券・温泉利用券（共通券）を交付
将来の地域の公共交通の目指すべき姿について、住民が主体的に考える機会の創出	△	—
信越自然郷、各沿線協議会と連携した、観光施設と公共交通相互の利用促進に繋がる取組の推進	◎	バラまつり等のイベント企画切符の発売 観光列車を活用した観光PR
北陸新幹線飯山駅、JR飯山線、長野電鉄を活用し、観光に特化した公共交通の情報提供	◎	信州中野駅へデジタルサイネージを設置 替佐駅へ人員を配置し利用者へ観光情報の提供

※実施状況 「◎」：(概ね) 実施・達成 「○」：実施段階 「△」：未実施または検討段階

(2) 目標達成状況の評価

前回計画で設定した目標の達成状況は以下のとおりです。

6つの目標に対して、「ふれあいバス利用者数」を除く5つの目標が達成されています。

〈公共交通網の形成に関する目標〉

評価指標	前回計画時	目標値	現状値
公共交通カバー圏率	90%	90%	93% (=40,854/43,909人) ※1
ふれあいバス利用者数	14人/日 (H26)	31人/日	26.4人/日※2

※1：p.4 参照（中野市のカバー圏率） ※2：p.9 参照（倭・科野地区、間山線、豊田地域の合算値）

〈公共交通に対する市民満足度に関する目標〉

評価指標	前回計画時	目標値	現状値
公共交通に対する市民満足度※1	15% (H27)	20%	28.2%※2

※1：「満足」と「やや満足」の合計値

※2：p.45 参照（本調査では公共交通を日常的に利用する方のみ満足度を伺った）

〈バスサービスレベルに関する目標〉

評価指標	前回計画時	目標値	現状値
中心市街地への午前・午後の各往復	6/6 路線 (100%) (H27)	100%	5/5 路線 (100%)
中心市街地への通学	5/6 路線 (80%) (H27)	80%	5/5 路線 (100%)

※分子/分母=サービスを満たす幹線バス路線数/全幹線バス路線数

※基本サービスレベルは次頁参照

〈鉄道の利用に関する目標〉

評価指標	前回計画時	目標値	現状値
鉄道利用者数 (乗降客数)	1,269 千人/年※ (2010～2014 年平均)	1,269 千人/年※	1,323 人 (2019 年)

※前回計画時は JR 飯山線も含んだ鉄道利用者数を用いて目標値を設定していたが、立ヶ花駅の平成 2013 年、上今井駅は 2014 年以降は乗降客数が非公表となったため、本計画では長野電鉄を対象に評価を実施した。そのため、前回計画時及び目標値は中野市内の長野電鉄駅を対象にした乗降客数である。

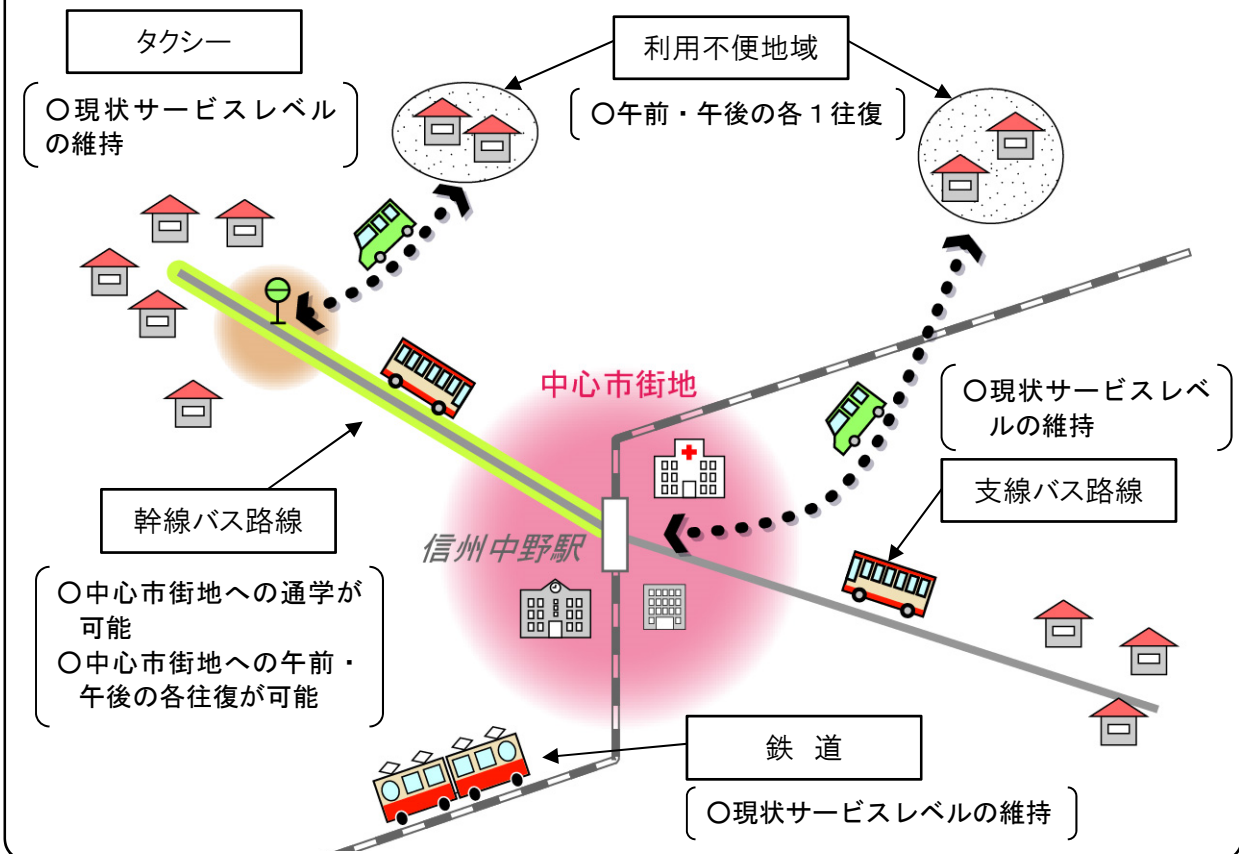
■基本サービスレベルの設定（前回計画より）

前回計画に示される、公共交通の機能分類に応じた基本サービスレベルは以下のとおりです。

分類	基本サービスレベル	該当要素
鉄道	駅数・運行回数等、市民のライフスタイルを維持・支援できるサービスの提供。	北陸新幹線、JR飯山線、長野電鉄
幹線 バス路線	次の2つのサービスを満たすことを基本とする。 ○中心市街地への午前・午後の各往復が可能（平日） ・午前／午前に出て市街地で2時間程度の滞在後、午前中の便で帰宅可能 ・午後／午後に出て市街地で2時間程度の滞在後、18時前の便で帰宅可能 ○中心市街地への通学が可能（平日） ・行き／信州中野駅に概ね8時までに到着可能 ・帰り／信州中野駅発16時30分～18時台の便で帰宅可能	菅・角間線、合庁線、永田線、須賀川線、上林線、中野木島線
支線 公共交通	運行効率の低い幹線バス路線以外の路線では、現状サービスレベルの維持を基本とする。 ○現状（H27）のサービスレベルの維持 利用不便地域の最低限の移動手段の確保を目的として運行を始めた路線では、次のサービスを基本とする。 ○午前・午後の各1往復（平日）	立ヶ花線、間山線 ふれあいバス（倭・科野地区）（豊田地域）、お出かけタクシー
タクシー	市民のライフスタイルを維持・支援できるサービスの提供。	市内タクシー事業者

《形態別基本サービスレベルのイメージ》

交通弱者（高齢者、高校生）の日常生活に係わりの深い「中心市街地への移動」に対し、形態別に基本サービスレベルを設定



1. 地域公共交通の現状

1-1. 公共交通の運行状況

(1) 地域を運行する公共交通など

地域を運行している公共交通は、鉄道は中野市と長野市及び飯山市方面を結ぶ JR 東日本飯山線（2 駅）、長野市方面と中野市・山ノ内町方面を結ぶ長野電鉄長野線（8 駅）があります。

バスは、主に信州中野駅と湯田中駅を起点に放射状に運行し、廃止路線代替バスが 3 路線、地域間幹線系統が 3 路線、長電バス直営路線が 2 路線、コミュニティバス（ふれあいバス、楽ちんバス）、デマンドタクシー（お出かけタクシー）が運行しており、信州中野駅と北陸新幹線飯山駅を 2 つのバス路線が結んでいます。

なお、山ノ内町で運行する楽ちんバスは、須賀川線の廃止、菅線の角間方面の一部廃止による交通空白地域をカバーする目的で運行されています。

表 1-1 地域内の公共交通

分類	路線名等
鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ■ JR 飯山線（上今井駅、替佐駅） ■ 長野電鉄長野線（桜沢駅、延徳駅、信州中野駅、中野松川駅、信濃竹原駅、夜間瀬、上条、湯田中）
バス デマンドタクシー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃止路線代替バス：3 路線 <ul style="list-style-type: none"> ・ 立ヶ花線、菅線、合庁線 ■ 地域間幹線系統：3 路線 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上林線、永田線、中野木島線 ■ 長電バス直営路線：2 路線 <ul style="list-style-type: none"> ・ 奥志賀高原線、白根火山線 ■ コミュニティバス：5 路線 <ul style="list-style-type: none"> ・ ふれあいバス（倭・科野地区、間山線、豊田地域） ・ 楽ちんバス（西・北部ルート、南部ルート） ※山ノ内町民のみ利用可 ■ デマンドタクシー：1 エリア <ul style="list-style-type: none"> ・ お出かけタクシー ※中野市民のみ利用可
タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 一般タクシー：3 社

1-1. 公共交通の運行状況（1~6ページ参照）

■地域を運行する公共交通（1~3ページ参照）

- ・地域を運行している公共交通は、鉄道は中野市と長野市及び飯山市方面を結ぶ JR 東日本飯山線（2 駅）、長野市方面と中野市・山ノ内町方面を結ぶ長野電鉄長野線（8 駅）がある。
- ・バスは、主に信州中野駅と湯田中駅を起点に放射状に運行し、廃止路線代替バスが 3 路線、地域間幹線系統が 3 路線、長電バス直営路線が 2 路線、コミュニティバス（ふれあいバス、楽ちんバス）、デマンドタクシー（お出かけタクシー）が運行しており、信州中野駅と北陸新幹線飯山駅を 2 つのバス路線が結んでいる。
- ・山ノ内町で運行する楽ちんバスは、須賀川線の廃止、菅線の角間方面の一部廃止による交通空白地域をカバーする目的で運行されている。

分類	路線名等
鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ■ JR 飯山線（上今井駅、替佐駅） ■ 長野電鉄長野線（桜沢駅、延徳駅、信州中野駅、中野松川駅、信濃竹原駅、夜間瀬、上条、湯田中）
バス デマンドタクシー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃止路線代替バス：3 路線 <ul style="list-style-type: none"> ・立ヶ花線、菅線、合庁線 ■ 地域間幹線系統：3 路線 <ul style="list-style-type: none"> ・上林線、永田線、中野木島線 ■ 長電バス直営路線：2 路線 <ul style="list-style-type: none"> ・奥志賀高原線、白根火山線 ■ コミュニティバス：5 路線 <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいバス（倭・科野地区、間山線、豊田地域） ・楽ちんバス（西・北部ルート、南部ルート） ※山ノ内町民のみ利用可 ■ デマンドタクシー：1 エリア <ul style="list-style-type: none"> ・お出かけタクシー ※中野市民のみ利用可
タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 一般タクシー：3 社

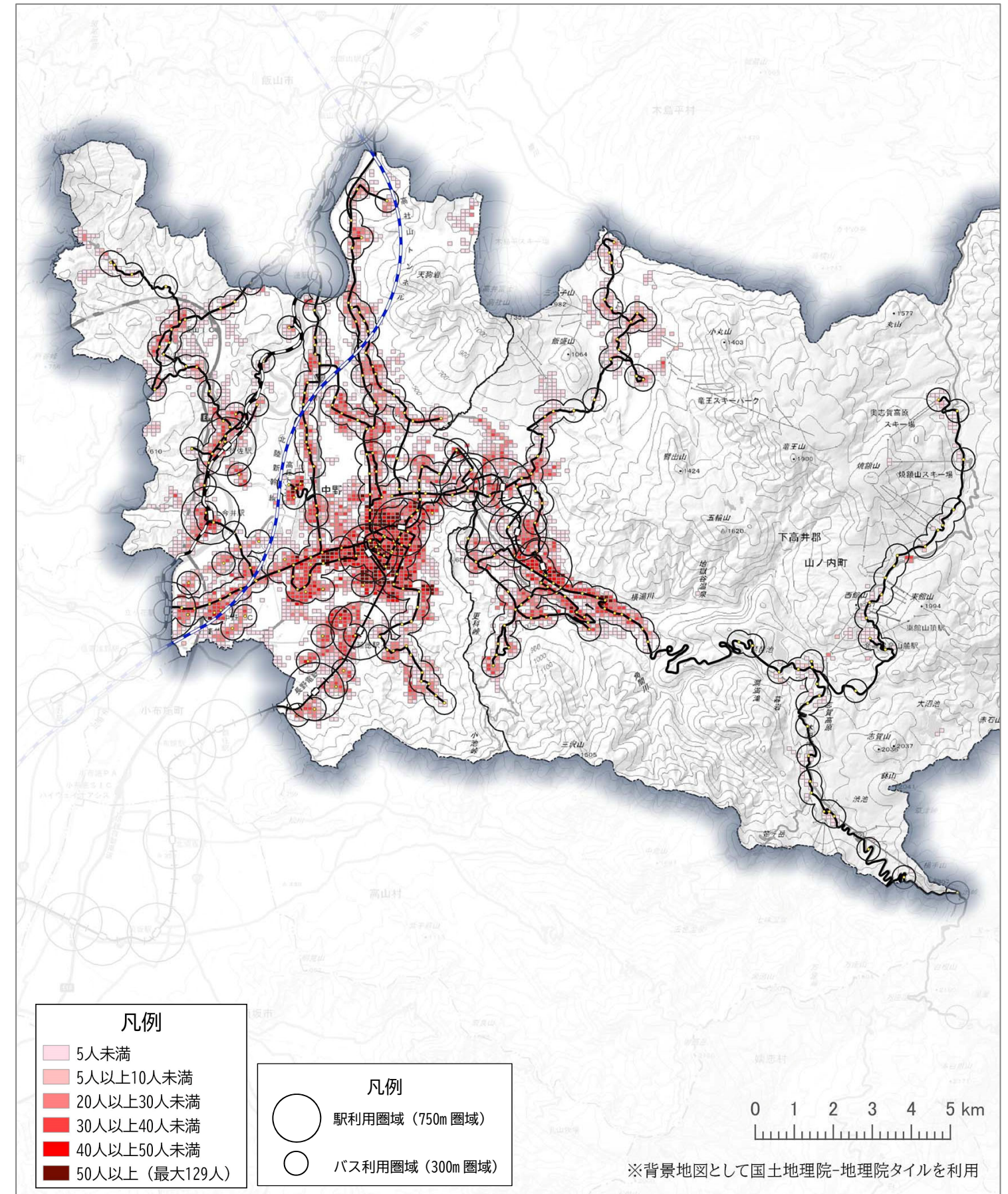
■公共交通のカバー状況（4~6ページ参照）

- ・公共交通カバー状況は、全人口のうち鉄道駅、バス停から一定の範囲内※にどれだけの人が住んでいるかを示したもの。
- ・中野市の公共交通人口カバー率は 93.0%、山ノ内町の公共交通人口カバー率は 92.7%となっている。

※第2次中野市地域公共交通総合連携計画前計画に準じて、駅利用圏域は 750m、バス停利用圏域は 300m を利用圏域¹⁾とした。

1) 駅利用圏域はパーソントリップ調査における徒歩の所要時間をもとに歩行速度を 4km/h と想定し算出したもの。バス停利用圏域は高齢者の歩行距離等を考慮し設定したもの。

【公共交通カバー状況】



資料：東京大学空間情報科学研究センター 西沢明「平成 27 年簡易 100m メッシュ人口データ」

1-2. 公共交通の利用状況（7~17ページ参照）

1-3. 財政負担（18ページ参照）

■鉄道の利用状況（7ページ参照）

・長野電鉄の地域内での乗降客数をみると、地域内で最も乗降客数が多い駅は信州中野駅で、年間1,138千人（1日あたり3,112人）、次いで、湯田中駅が年間447千人（1日あたり1,225人）となっている。信州中野駅と湯田中駅が、それぞれ中野市と山ノ内町の中心的な駅となっている。

■バス・デマンドタクシーの年間利用者数（7~9ページ参照）

・地域間幹線系統の年間利用者数は横ばいまたは微減で推移していたが、2020年度は新型コロナウイルスの影響により利用者が減少した。
 ・廃止路線代替バス・ふれあいバス・楽ちんバス・お出かけタクシーも同様の傾向である。

■バスの日利用者数（9ページ参照）

・バスの日利用者数は、中野木島線と奥志賀高原線は400人前後の利用があるものの、その他の地域間幹線系統及び廃止路線代替バスでは50人前後の利用、ふれあいバスと楽ちんバスでは10人前後の利用となっている。

■バスの便別利用者数（乗降客数調査結果）（10~14ページ参照）

・全体の傾向としては、朝・夕の利用が他の時間帯と比較して若干多くなっている。
 ・上林線、奥志賀高原線、白根火山線では観光客による利用があることから日中の利用が多い。
 ・利用者が全くいない便もいくつか存在する。

■バス停別乗降客数数（乗降客数調査結果）（15~17ページ参照）

・中野市内では信州中野駅での乗降が最も多く、その周辺での乗降も比較的多くなっている。また、イオン中野店前での利用も多く見られる。
 ・山ノ内町内では他のバス路線や鉄道への乗り継ぎ地点となっている湯田中駅及び夜間瀬駅での乗降が多く、また、観光客による利用がある渋温泉やスノーモンキーパーク、志賀高原方面のバス停での利用も比較的多くなっている。

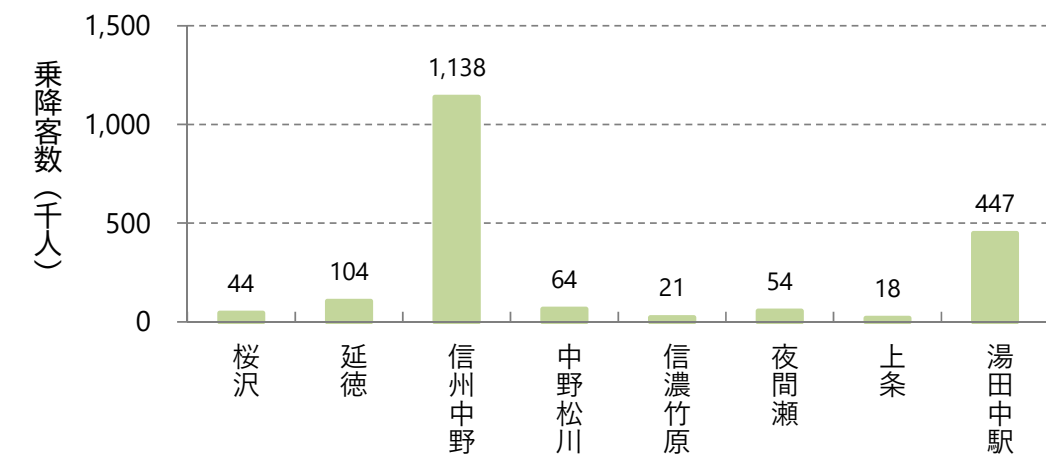
■バス等に対する財政負担（18ページ参照）

・中野市では年間約4,000~5,000万円の負担をしており、そのうち約3,000万円が上林線などの路線バス、約1,000万円がふれあいバスなどである。
 ・山ノ内町では年間約2,000~3,000万円の負担をしており、そのうち路線バスと楽ちんバスへの負担金額は概ね半々程度となっている。

□利用状況等のまとめ

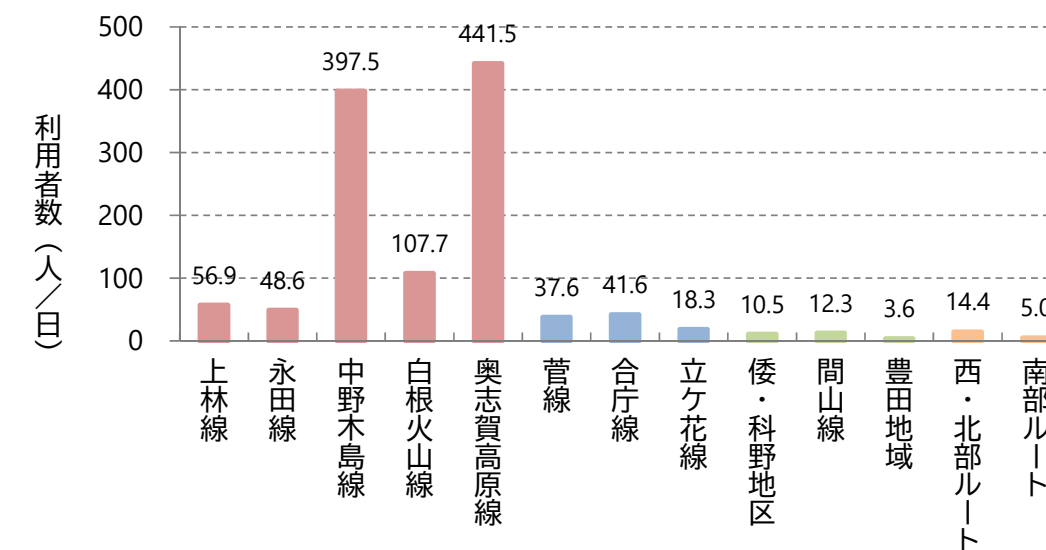
・信州中野駅と湯田中駅が、それぞれ中野市と山ノ内町の中心的な駅となっている。
 ・バス利用者数は概ね横ばいで推移してきたが、新型コロナウイルスの影響により減少している。
 ・中野木島線及び奥志賀高原線は400人前後の利用がある。その他路線は概ね50人未満である。
 ・全体の傾向としては、朝・夕の利用が他の時間帯と比較して若干多くなっている。
 ・信州中野駅、湯田中駅、夜間瀬駅での乗降が比較的多くなっている。その他、商業施設、観光地での利用も多くみられる。
 ・バス等に対する財政負担は、中野市では年間約4,000~5,000万円、山ノ内町では年間約2,000~3,000万円となっている。

【駅別年間乗降客数】



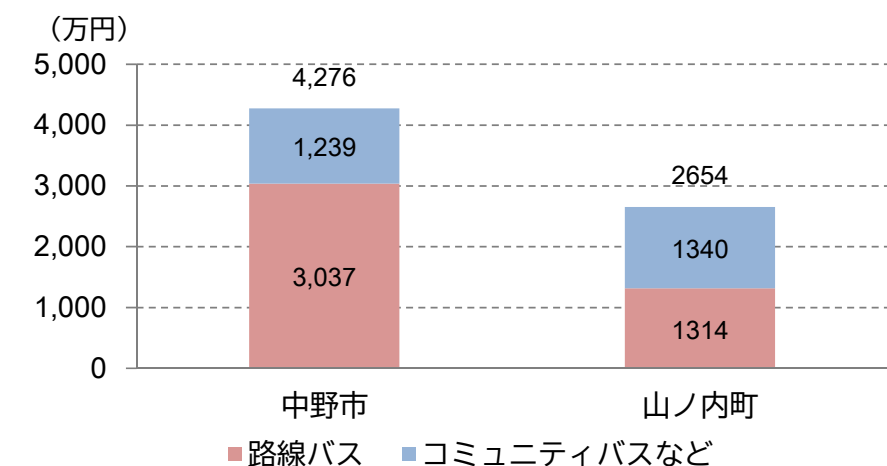
資料：長野県「長野県統計書（平成30年（2018年）」）

【バスの日利用者数】



資料：長電バス（株）、中野市・山ノ内町（2020年度）

【バス等に対する財政負担】



資料：中野市・山ノ内町（2020年度）

2-1. 住民アンケート調査結果の概要（19～51 ページ参照）

■主な外出目的と外出頻度（36～37 ページ参照）

- ・外出目的は、20～50 歳代では「通勤」が約 8 割を占め、60 歳以上は「買い物」の比率が上昇し、80 歳以上は「通院」の比率が上昇する。
- ・外出頻度は、50 歳代以下では「ほぼ毎日」が全体の約 7 割を占めるが、年齢が高くなるに従い外出頻度が低くなる。

■交通手段（39～40 ページ参照）

- ・自動車（自ら運転）が 20～70 歳代で 8～9 割程度、80 歳代でも約 4 割となっている。
- ・90 歳以上では、自動車（自ら運転）が減少し、家族による送迎が約半数を占める。
- ・回答者全体の公共交通利用の割合は、鉄道が 4.0%、長電バスが 0.6%、ふれあいバスが 0.2%、楽ちんバスが 0.4%、おでかけタクシーが 0.04%、タクシーが 0.4%となっている。

■公共交通を利用する理由&利用しない理由（44, 47 ページ参照）

- ・公共交通を利用する理由は、「ほかに移動手段がないから」が 40%で最も多い。
- ・公共交通を利用しない理由は、「バス以外の移動手段があるから」が 65%を占めている。

■公共交通に対する行政負担金額についての考え（48 ページ参照）

- ・公共交通に対する行政負担額について、「妥当な金額だと思う」が 27%、「もっと少なくすべき」が 16%、「もっと多くても構わない」は 11%、「わからない」が 41%となっている。
- ・行政負担額を現状以下とする回答が全体の約 4 割を占めている。

■地域を走るバスへの今後の対応として、あなたの考えに最も近いもの（48 ページ参照）

- ・今後のバスへの対応としては、「現状の運行本数と路線の維持」が 35%で最も多く、次いで「路線再編や運行本数の見直しによる運行の効率化」が 32%、「運行本数や路線を増やす方向で見直し」が 9%となっている。

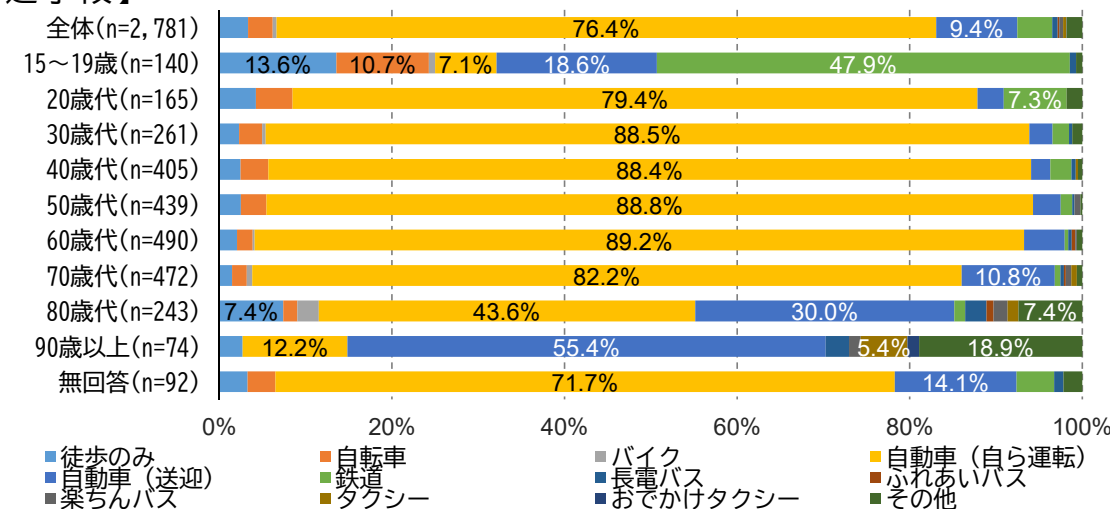
■両市町間の相互乗り入れについて、新たに乗り入れを行なってほしい区間（51 ページ参照）

- ・中野市では「現在、相互乗り入れしている電車とバス路線で十分である」が 97%を占めている。
- ・山ノ内町では「現在、相互乗り入れしている電車とバス路線で十分である」が 70%、「今あるバス路線のルート以外で相互乗り入れを行なって欲しい区間がある」が 30%となっている。

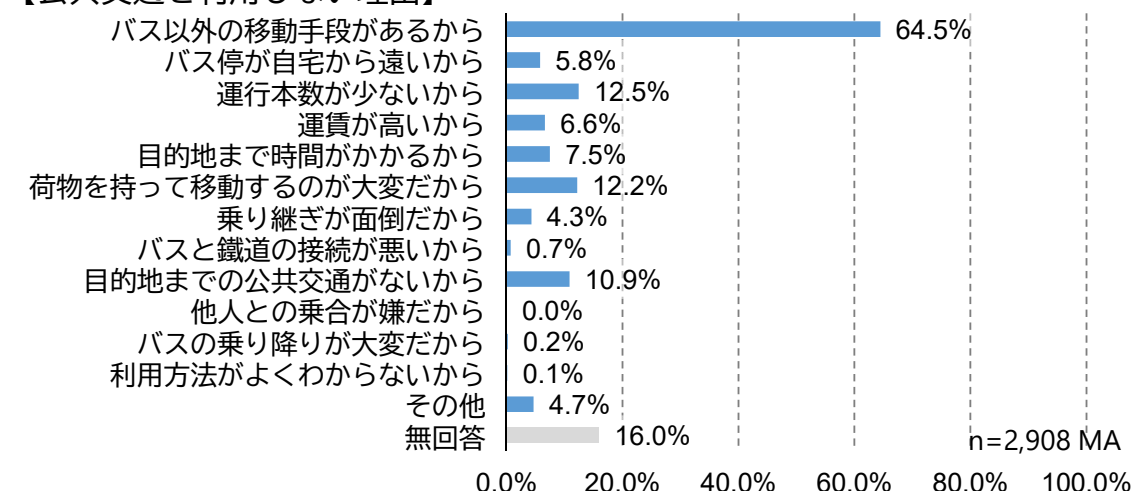
□住民アンケート調査結果概要のまとめ

- ・50 歳代以下では「通勤目的でほぼ毎日」外出しているが、高齢になるにつれ外出頻度が少なくなる。
- ・大半の方は自動車による移動であり、公共交通の割合は非常に少ない。
- ・公共交通の利用者は「ほかに移動手段がないから」という理由で公共交通を利用している。
- ・反対に、公共交通を利用しない理由は「ほかに移動手段があるから≡車があるから」である。
- ・公共交通に対する行政負担額及び今後の対応は、現状維持または現状以下に抑える方向での意向が多い。
- ・両市町間の新規の相互乗り入れについて、中野市民による要望はほとんどない。

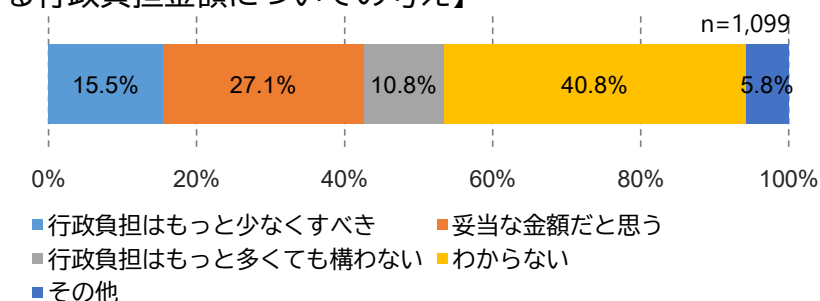
【交通手段】



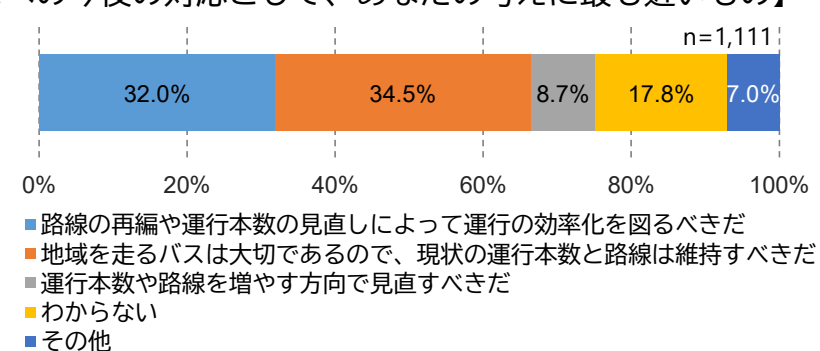
【公共交通を利用しない理由】



【公共交通に対する行政負担金額についての考え】



【地域を走るバスへの今後の対応として、あなたの考えに最も近いもの】



2-2. バス利用者アンケート調査結果の概要（52～59 ページ参照）

■バス利用者の居住地（54 ページ参照）

- ・バス利用者全体の居住地構成は、中野市が45%、山ノ内町が19%、飯山市が12%、その他（木島平村、長野市、須坂市、県外等）が23%となっている。
- ・上林線、奥志賀高原線、白根火山線では県外からの観光客による利用が多い。

■バス利用者の年齢（54 ページ参照）

- ・15～19歳による利用が21%と、他年代と比較して多くなっている。
- ・その他の年代は、20歳代～50歳代が約3割、60歳代以上が約5割となっている。

■バスの利用目的（56 ページ参照）

- ・15～19歳では、ほぼすべての方が「通学」目的の利用である。
- ・20歳代から50歳代では「通勤」目的が約7割である。
- ・60歳代以上の方の利用目的は「買い物」と「通院」がそれぞれ2～4割である。

■バスの利用頻度（56 ページ参照）

- ・15～19歳では、「ほぼ毎日」が約7割である。
- ・20歳代から50歳代では「ほぼ毎日」が約3～6割である。
- ・60歳代以上の方のバスの利用頻度は「週に3～5日」が約2～3割、「週に1～2日」が2～4割となっている。

■主な目的地（55 ページ参照）

- ・主な目的地として多く挙げられた施設・場所は、「イオン中野店」「北信病院」「信州中野駅」「中野立志館高校」「渋温泉」である。

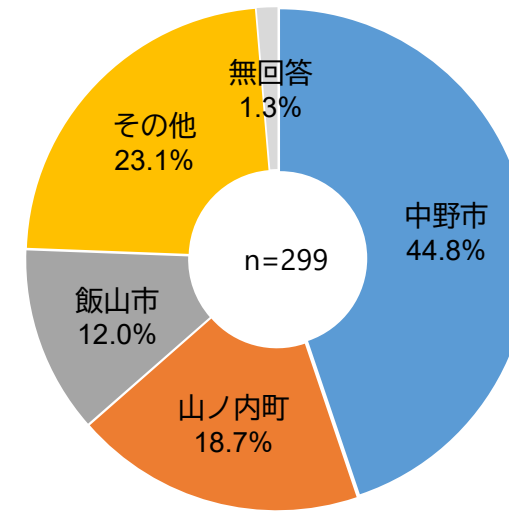
■バスへの改善要望（57～59 ページ参照）

- ・バスへの改善要望は、「増便」「定時運行」についての意見が比較的多く寄せられた。
- ・その他では、「鉄道との接続」や「車両のステップ」などについて意見が寄せられた。

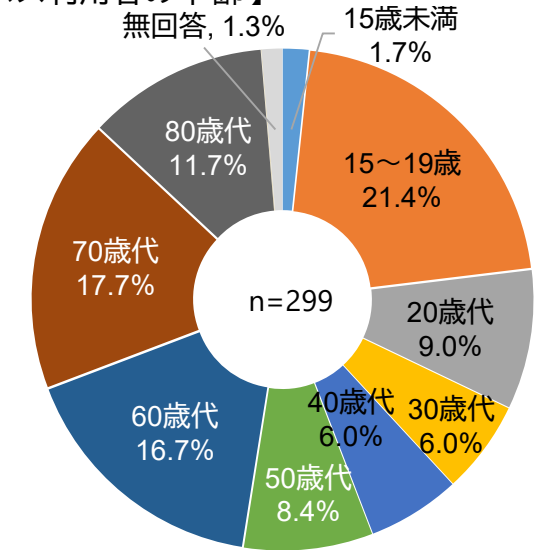
□バス利用者アンケート調査結果概要のまとめ

- ・バス利用者の約半数は中野市在住者であるものの、残りの半数は周辺市町村からの利用である。
- ・バスの主な利用者は次のとおりである。
 - 高校生（15～19歳）による通学目的での毎日利用
 - 現役世代（20～59歳）による通勤目的での毎日利用
 - 高齢者（60歳代以上）による買い物・通院目的での週数日利用
- ・主要な目的地は「イオン中野店」「北信病院」「信州中野駅」「中野立志館高校」「渋温泉」等。
- ・バスへの改善要望では「増便」「定時運行」についての意見が比較的多い。

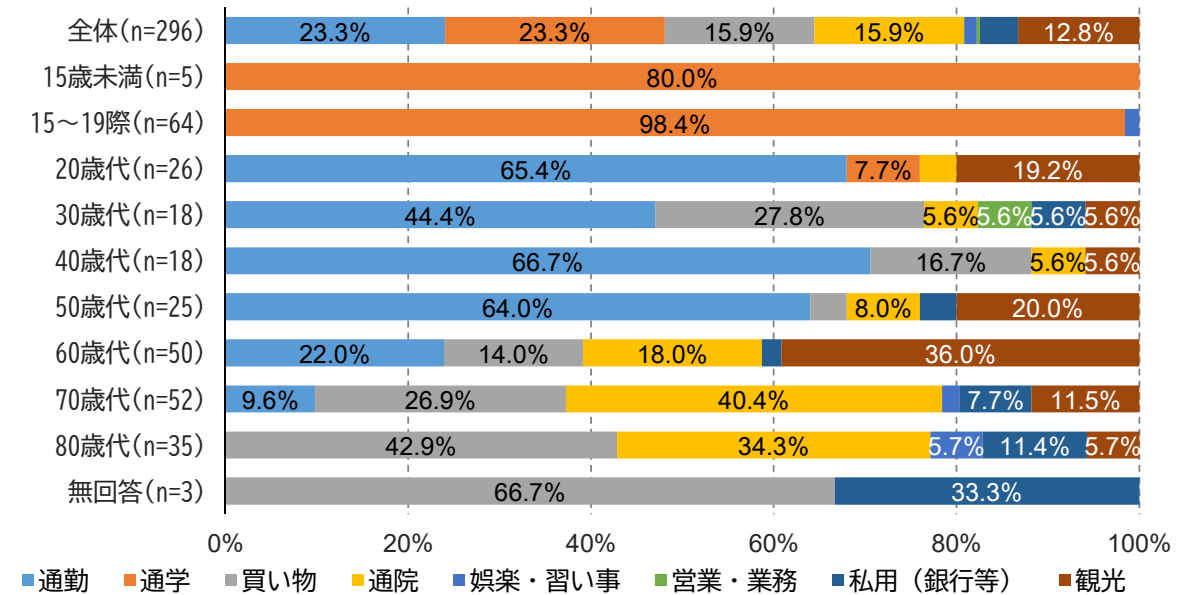
【バス利用者の居住地】



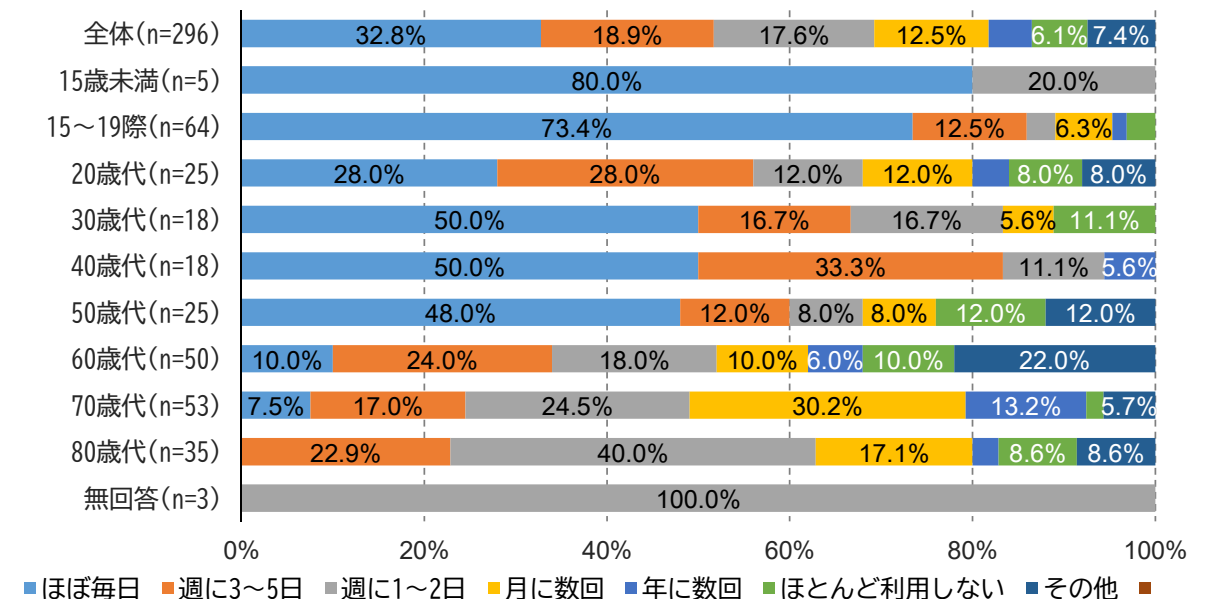
【バス利用者の年齢】



【バスの利用目的】



【バスの利用頻度】



3.3. 第2次中野市地域公共交通総合連携計画の検証（60～64 ページ参照）

■施策・事業の実施状況（60～62 ページ参照）

・ほとんどの施策・事業において実施段階または実施・達成されている。

施策・事業の内容		実施状況	
バス路線再編事業	立ヶ花線	現在の運行形態を維持することを基本とするが、他の路線と一体となった、効率的な運行について検討する。	○
	間山線	現在の基本的なサービスレベルを維持しつつ、専用車両による「ふれあいバス（倭・科野地区）」との連結運行を実施し、運行の効率化及び利便性の向上を図る。	◎
	菅・角間線 須賀川線 上林線	中野市内重複区間の見直しについて、山ノ内町及び関係者と協議を行う。	◎
	合庁線	現在の運行形態の維持	◎
	永田線	現在の運行形態を維持することを基本とするが、他の路線と一体となった、効率的な運行について検討する。	○
	中野木島線	現在の運行形態の維持を基本とするが、路線が分かれる区間については、今後の利用実態を見ながら、補助対象路線となるように、必要な見直しを検討する。	○
	倭・科野地区	利便性を高めるために、専用車両による運行を開始する。また、「間山線」との連結運行により、運行の効率化及び利便性の向上を図る。	◎
	豊田地域	現在の運行形態を維持することを基本とするが、永田線が運行していない地域の実情を踏まえ、他の路線と一体になった、効率的な運行について検討する。	○
	お出かけタクシー	現在の運行エリアの維持	◎
	共通	利用状況調査を行い、評価・検証、改善・見直し	○
お出かけタクシーの維持に伴う事業	料金及び運行便数の適正化	◎	
鉄道の維持・活性化に伴う事業	信越自然郷、各沿線協議会及び観光施設等と連携した鉄道の利用促進	◎	
	駅舎などの駅関連施設の適正な維持	◎	
	パークアンドライド駐車場の維持・整備	◎	
バス運行環境の整備及び利便性の向上に伴う事業	JR替佐駅の駅業務委託	◎	
	主要なバス停におけるバス停整備やベンチの設置	◎	
	市民がデザインしたバス停標識の設置や、ふれあいバスのラッピングの実施	◎	
	鉄道とバスの乗り継ぎ割の実施	◎	
	公共交通を利用してまちなかへ出かける仕組みづくり	◎	
公共交通に関する交通マップ、時刻表を作成し、全戸及び主要施設へ配布	公共交通に関する交通マップ、時刻表を作成し、全戸及び主要施設へ配布	◎	
	バス停の位置情報等をスマートフォンアプリ等で活用できるオープンデータとして公開	◎	

施策・事業の内容		実施状況
公共交通の利用促進・啓発に伴う事業	市職員の公共交通等への切り替え推進	○
	市内の高校へ公共交通利用の働きかけ	△
	ワークショップ等の開催	△
	事業者と連携したノーマイカーデーの実践	◎
	公共交通に関する情報の広報への掲載	◎
	市内の小・中学生を対象にした、乗り方教室等の公共交通に関するイベントの実施	◎
	高齢者を対象として、運転免許証返納メリット制度の導入	◎
	将来の地域の公共交通の目指すべき姿について、住民が主体的に考える機会の創出	△
	信越自然郷、各沿線協議会と連携した、観光施設と公共交通相互の利用促進に繋がる取組の推進	◎
北陸新幹線飯山駅、JR飯山線、長野電鉄を活用し、観光に特化した公共交通の情報提供	◎	

■目標達成状況の評価（63～64 ページ参照）

・6つの目標に対して、「ふれあいバス利用者数」を除く5つの目標が達成されている。

評価指標	前回計画時	目標値	現状値
公共交通カバー圏率	90%	90%	93%
ふれあいバス利用者数	14人/日（H26）	31人/日	26.4人/日
公共交通に対する市民満足度	15%（H27）	20%	28.2%
中心市街地への午前・午後の各往復	6/6路線（100%）（H27）	100%	5/5路線（100%）
中心市街地への通学	5/6路線（80%）（H27）	80%	5/5路線（100%）
鉄道利用者数（乗降客数）	1,269千人/年（2010～2014年平均）	1,269千人/年	1,323人（2019年）

地域公共交通計画策定までのスケジュール

	協議会	備考
R4年 1 月	第 1 回（1/20） ・各種調査の報告	今回（書面協議）
R4年 2 月		
R4年 3 月	第 2 回（下旬） ・基本方針・目標について	
R4年 4 月		
R4年 5 月	第 3 回（中旬） ・計画（素案）	
R4年 6 月	第 4 回（下旬） ・計画（案）	パブリックコメント （2週間程度）
R4年 7 月	第 5 回（下旬） ・計画（案）⇒決定	